

250 EXC TPI  
250 EXC SIX DAYS TPI  
250 XC-W TPI  
300 EXC TPI  
300 EXC SIX DAYS TPI  
300 XC-W TPI  
300 EXC TPI ERZBERGRODEO  
300 XC-W TPI ERZBERGRODEO

ART. NO. 3214421ja





# KTMをお買い上げ頂いた皆様に

このたびは KTM のモーターサイクルをお買い上げ頂き、ありがとうございます。最新のスポーツモーターサイクルを手に入れられたお客様に、これを十分満喫頂くため、適切なメンテナンスと手入れを行う事をお願いしています。

安全で楽しい走行をお楽しみ下さい。

お持ちのモーターサイクルのシリアルナンバーを以下に記して下さい。

車両識別番号 (☞ 頁 14)	正規ディーラー店スタンプ
エンジンナンバー (☞ 頁 14)	
キーナンバー (EXC シリーズ) (☞ 頁 14)	

本オーナーズマニュアルは、印刷時点現在、当該モデルシリーズの最新仕様に基づいて作成されています。しかし、車両の更なる改良により、製品と若干の差異が生じる可能性があります。

ここに記載された内容について、当社は何ら義務を負わないものと致します。KTM Sportmotorcycle GmbH は、記載された技術内容、価格、色、形、部品、サービス内容、構造、装備などにつき予告および理由の開示なく変更、代替品なく抹消、地域の状況に合わせ変更、並びに特定モデルの生産を予告なく停止する権利を有するものとします。商品入手の可否、写真・イラスト並びに記載内容との差異、印刷ミス並びに誤記に対し、KTM は一切の責任を負いかねます。写真に使用されているモデルには、一部量産製品にはない特殊装備が施されています。

© 2021 KTM Sportmotorcycle GmbH, Mattighofen オーストリア

無断複写・転載を禁じます。

一部または全部並びにその種類を問わず、複製・複写には必ず著作者の書面による許可を要します。



ISO 9001(12 100 6061)

国際品質管理規格 ISO 9001に基づき、KTM では、到達しうる最高の製品品質を実現するための品質保証プロセスを導入しています。

発行: TÜV Management Service

REG.NO. 12 100 6061

KTM Sportmotorcycle GmbH

Stallhofnerstraße 3

5230 Mattighofen, オーストリア

以下のモデルがこの書類の内容に該当します。:

250 EXC TPI EU (F7303V7)

250 EXC SIX DAYS TPI EU (F7303V2)

250 XC-W TPI US (F7375V4)

300 EXC TPI EU (F7403V7)

300 EXC SIX DAYS TPI EU (F7403V2)

300 EXC SIX DAYS TPI CN (F7487V2)

300 EXC SIX DAYS TPI ASEAN (F7488V2)

300 XC-W TPI US (F7475V3)

300 EXC TPI ERZBERGRODEO EU (F7403V3)

300 XC-W TPI ERZBERGRODEO US (F7475V6)



3214421ja

2021 年 5 月

# 目次

1	表示方法 .....	6	6.13	インジケーターランプ (EXC シリーズ) .....	19
1.1	本書の表示マークについて .....	6	6.14	インジケーターランプ (XC-W シリーズ) .....	19
1.2	使用文字種について .....	6	6.15	フライーキャップを開ける .....	19
2	安全の手引き .....	7	6.16	フライーキャップを閉める .....	20
2.1	使用目的に応じた使用環境 .....	7	6.17	2ストロークオイルタンクのフライーキャップを開ける .....	20
2.2	誤使用 .....	7	6.18	2ストロークオイルタンクのフライーキャップを閉める .....	21
2.3	安全の手引き .....	7	6.19	グリップベルト (すべての ERZBERGRODEO シリーズ) .....	21
2.4	危険度と表示マーク .....	8	6.20	チョークノブ .....	21
2.5	改造に関する警告 .....	8	6.21	アイドリング調整スクリュー .....	22
2.6	使用時の安全性 .....	8	6.22	シフトレバー .....	22
2.7	保護服 .....	9	6.23	ブレーキペダル .....	23
2.8	作業上の決まり .....	9	6.24	サイドスタンド .....	23
2.9	環境 .....	9	6.25	ハンドルロック (EXC シリーズ) .....	23
2.10	オーナーズマニュアル .....	10	6.26	ハンドル操作をロックする (EXC シリーズ) .....	24
3	重要な注意事項 .....	11	6.27	ハンドル操作のロックを解除する (EXC シリーズ) .....	24
3.1	メーカー保証、法定保証 .....	11	7	コンビネーションインスツルメント .....	25
3.2	油脂類、ケミカル類 .....	11	7.1	コンビネーションインスツルメント一覧 .....	25
3.3	スペアパーツ、アクセサリー .....	11	7.2	起動とテスト .....	25
3.4	サービス .....	11	7.3	キロメートルかマイルを設定する .....	25
3.5	写真 .....	11	7.4	コンビネーションインスツルメントを設定する .....	26
3.6	カスタマーサービス .....	11	7.5	時刻を設定する .....	26
4	各部の名称 .....	12	7.6	ラップタイムを表示する .....	27
4.1	各部の名称 左前方 (代表写真) .....	12	7.7	SPEED モード (速度) .....	27
4.2	各部の名称 右後方 (代表写真) .....	13	7.8	SPEED/H モード (作動時間) .....	28
5	シリアルナンバー .....	14	7.9	設定メニュー .....	28
5.1	車両識別番号 .....	14	7.10	単位を設定する .....	29
5.2	タイプラベル .....	14	7.11	SPEED/CLK モード (時刻) .....	30
5.3	キーナンバー (EXC シリーズ) .....	14	7.12	時刻を設定する .....	30
5.4	エンジンナンバー .....	14	7.13	SPEED/LAP モード (ラップタイム) .....	30
5.5	フロントフォークタイプナンバー .....	15	7.14	ラップタイムを表示する .....	31
5.6	ショックアブソーバータイプナンバー .....	15	7.15	SPEED/ODO モード (走行距離計) .....	31
6	操作各部 .....	16	7.16	SPEED/TR1 モード (トリップマスター 1) .....	32
6.1	クラッチレバー .....	16	7.17	SPEED/TR2 モード (トリップマスター 2) .....	32
6.2	ブレーキレバー .....	16	7.18	TR2 (トリップマスター 2) の設定 .....	33
6.3	スロットルグリップ .....	16	7.19	SPEED/A1 モード (平均速度 1) .....	33
6.4	O F F スイッチ (EXC シリーズ) .....	16	7.20	SPEED/A2 モード (平均速度 2) .....	34
6.5	O F F スイッチ (XC-W シリーズ) .....	17	7.21	SPEED/S1 モード (ストップウォッチ 1) .....	34
6.6	ホーンスイッチ (EXC シリーズ) .....	17	7.22	SPEED/S2 モード (ストップウォッチ 2) .....	34
6.7	ライトスイッチ (EXC シリーズ) .....	17	7.23	機能一覧表 .....	35
6.8	ライトスイッチ (XC-W シリーズ) .....	17	7.24	作動機能と条件の一覧表 .....	36
6.9	ターンシグナルスイッチ (EXC シリーズ) .....	18			
6.10	エマージェンシー O F F スイッチ (EXC シリーズ) .....	18			
6.11	スタートキー .....	18			
6.12	点火特性スイッチ (特別モデルシリーズ) .....	18			

8	運転操作の前に .....	38	11.11	フロントフォークの基本設定を確認する .....	59
8.1	初めて運転操作を行う際の注意 .....	38	11.12	フロントフォークのコンプレッショ ンダンパーを調節する .....	60
8.2	慣らし運転をする .....	39	11.13	フロントフォークのリバウンドダン パーを調節する .....	60
8.3	低温でのリチウムイオンバッテリー の始動出力 .....	40	11.14	フロントフォークのスプリングプリ ロードを調節する .....	61
8.4	過酷な環境での使用に備えて車両の 準備をする .....	40	11.15	ハンドルバーの位置 .....	62
8.5	車両を乾燥した砂地での走行に備え る .....	40	11.16	ハンドルバーの位置を調節する  .....	62
8.6	車両を濡れた砂地での走行に備え る .....	42	12	サービス作業シャーシ .....	65
8.7	車両を濡れた道路や泥道での走行に 備える .....	43	12.1	車両をリフトスタンドでジャッキ アップする .....	65
8.8	車両を高温または低速走行に備え る .....	43	12.2	車両をリフトスタンドから降ろす .....	65
8.9	車両を低温または雪道に備える .....	44	12.3	フォークレッグの空気を抜く .....	65
9	運転上の注意事項 .....	45	12.4	フォークレッグのダストシールを清 掃する .....	66
9.1	運転操作の前に必ず行う点検・メン テナンス作業 .....	45	12.5	フォークカバーを取り外す .....	66
9.2	車両を始動する .....	45	12.6	フォークカバーを取り付ける .....	67
9.3	発進 .....	46	12.7	フォークレッグを取り外す  .....	67
9.4	シフト操作と走行 .....	46	12.8	フォークレッグを取り付ける  .....	68
9.5	ブレーキをかける .....	47	12.9	口アートリプルクランプを取り外 す  (XC-W 全標準モデル, EXC 全標 準モデル) .....	69
9.6	停止と駐車 .....	48	12.10	口アートリプルクランプを取り外 す  (特別モデルシリーズ) .....	70
9.7	輸送 .....	49	12.11	口アートリプルクランプを取り付け る  (XC-W 全標準モデル, EXC 全標 準モデル) .....	71
9.8	燃料を給油する .....	49	12.12	口アートリプルクランプを取り付け る  (特別モデルシリーズ) .....	73
9.9	2ストロークオイルを給油する .....	50	12.13	ステアリングヘッドベアリングの遊 びを点検する .....	76
10	サービスプラン .....	51	12.14	ステアリングヘッドベアリングの遊 びを調節する  .....	76
10.1	補足情報 .....	51	12.15	ステアリングヘッドのベアリングを グリスアップする  .....	77
10.2	必須作業 .....	51	12.16	フロントフェンダーを取り外す .....	78
10.3	推奨作業 .....	52	12.17	フロントフェンダーを取り付ける .....	78
11	シャーシを調整する .....	54	12.18	ショックアブソーバーを取り外 す  .....	79
11.1	シャーシの基本設定を運転者の体重 に応じて確認する .....	54	12.19	ショックアブソーバーを取り付け る  .....	79
11.2	ショックアブソーバーのコンプレッ ションダンパー .....	54	12.20	シートを取り外す .....	79
11.3	ショックアブソーバーのコンプレッ ションダンパー低速を調節する .....	54	12.21	シートを取り付ける .....	80
11.4	ショックアブソーバーのコンプレッ ションダンパー高速を調節する .....	55	12.22	エアフィルター・ボックスカバーの取 り外し .....	80
11.5	ショックアブソーバーのリバウンド ダンパーを調節する .....	56	12.23	エアフィルター・ボックスカバーの取 り付け .....	81
11.6	後輪に負荷をかけない状態で寸法を 測定する .....	56	12.24	エアフィルターを取り外す  .....	81
11.7	ショックアブソーバーの空車サグを 点検する .....	57	12.25	エアフィルターを取り付ける  .....	82
11.8	ショックアブソーバーのライディング サグを点検する .....	57	12.26	エアフィルターとエアフィルター ケースを清掃する  .....	82
11.9	ショックアブソーバーのスプリング プリロードを調節する  .....	58			
11.10	ライディングサグを調節する  .....	59			

12.27	エアフィルターケースカバーにヒューズ孔を加工する	83	13.14	後輪ブレーキのブレーキパッドを交換する	108
12.28	メインサイレンサーを取り外す	83	14	車輪、タイヤ	111
12.29	メインサイレンサーを取り付ける	84	14.1	前輪を取り外す	111
12.30	メインサイレンサーのグラスファイバーを交換する	84	14.2	前輪を取り付ける	112
12.31	フューエルタンクを取り外す	85	14.3	後輪を取り外す	113
12.32	フューエルタンクを取り付ける	87	14.4	後輪を取り付ける	114
12.33	チェーンの汚れを点検する	88	14.5	タイヤの状態を点検する	115
12.34	チェーンを清掃する	89	14.6	タイヤ空気圧を点検する	116
12.35	チェーンの遊びを点検する	89	14.7	スポークの張りを点検する	116
12.36	チェーンの遊びを調節する	90	15	電装系	118
12.37	チェーン、リアスプロケット、フロントスプロケット、チェーンガイドを点検する	91	15.1	12V バッテリーを取り外す	118
12.38	フレームを点検する	94	15.2	12V バッテリーを取り付ける	120
12.39	スイングアームを点検する	94	15.3	12V バッテリーを充電する	121
12.40	アクセルワイヤーの取り回しを点検する	94	15.4	メインヒューズを交換する	123
12.41	グリップゴムを点検する	95	15.5	各電装系部品のヒューズを交換する	124
12.42	クラッチレバーの基本位置を調整する	95	15.6	ヘッドライトマスクとヘッドライトを取り外す	126
12.43	油圧式クラッチのフルードレベルを点検・調節する	95	15.7	ヘッドライトマスクとヘッドライトを取り付ける	126
12.44	油圧式クラッチのフルードを交換する	96	15.8	ヘッドライトバルブを交換する	127
12.45	エンジンガードを取り外す(特別モデルシリーズ)	98	15.9	ターンシグナルのバルブを交換する(EXC シリーズ)	128
12.46	エンジンガードを取り付ける(特別モデルシリーズ)	98	15.10	ヘッドライトの設定を点検する	128
13	ブレーキシステム	99	15.11	ヘッドライトの照明距離を調節する	129
13.1	ブレーキレバーの遊びを点検する	99	15.12	コンビネーションインスツルメントの電池を交換する	129
13.2	ブレーキレバーの遊びを調節する(EXC シリーズ)	99	15.13	診断プラグ	130
13.3	ブレーキレバーの基本位置を調整する(XC-W シリーズ)	100	16	冷却システム	131
13.4	ブレーキディスクを点検する	100	16.1	冷却システム	131
13.5	前輪ブレーキのブレーキフルードのレベルを点検する	101	16.2	不凍液とクーラントのレベルを点検する	131
13.6	前輪ブレーキのブレーキフルードを補給する	101	16.3	クーラントのレベルを点検する	132
13.7	前輪ブレーキのブレーキパッドを点検する	102	16.4	クーラントを排出する	132
13.8	前輪ブレーキのブレーキパッドを交換する	103	16.5	クーラントを注入する	133
13.9	ブレーキペダルの遊びを点検する	105	16.6	クーラントを交換する	135
13.10	ブレーキペダルの基本位置を調整する	105	17	エンジンを調整する	137
13.11	後輪ブレーキのブレーキフルードのレベルを点検する	106	17.1	アクセルワイヤーの遊びを点検する	137
13.12	後輪ブレーキのブレーキフルードを補給する	107	17.2	アクセルワイヤーの遊びを調節する	137
13.13	後輪ブレーキのブレーキパッドを点検する	108	17.3	スロットルからの吸気特性を調節する	138

17.8 シフトレバーの基本位置を点検する	142	28.3 緑と青のマーク	177
17.9 シフトレバーの基本位置を調整する	142	索引	178
18 エンジンで行うサービス作業	143		
18.1 燃料スクリーンを交換する	143		
18.2 2ストロークオイルのレベルを点検する	144		
18.3 オイルポンプを誘発する	145		
18.4 オイルタンクのオイルスクリーンを清掃する	146		
18.5 ミッションオイルのレベルを点検する	149		
18.6 ミッションオイルを交換する	150		
18.7 ミッションオイルを補給する	151		
19 清掃、手入れ	152		
19.1 洗車をする	152		
19.2 冬季運転における点検・メンテナンス作業	153		
20 保管	154		
20.1 保管	154		
20.2 保管後、運転操作の前に	155		
21 トラブルシューティング	156		
22 点滅コード	159		
23 仕様一覧	161		
23.1 エンジン	161		
23.1.1 250全モデル	161		
23.1.2 300シリーズ	161		
23.2 締付けトルク、エンジン	162		
23.3 容量	164		
23.3.1 ミッションオイル	164		
23.3.2 クーラント	164		
23.3.3 燃料	164		
23.4 シャーシ	165		
23.5 電装系	166		
23.6 タイヤ	166		
23.7 フロントフォーク	166		
23.8 ショックアブソーバー	167		
23.9 締付けトルク、シャーシ	168		
24 油脂類	171		
25 ケミカル類	173		
26 規格	175		
27 用語索引	176		
28 表示マーク索引	177		
28.1 赤のマーク	177		
28.2 黄色とオレンジ色のマーク	177		

# 1 表示方法

## 1.1 本書の表示マークについて

以下、使用されている表示マークについて説明します。



予想される正常な反応を示します。例: 特定の作業ステップや機能実行の結果。



想定外の異常な反応を示します。例: 特定の作業ステップや機能実行の結果。



このマークが付いている作業は全て専門知識や技術的知識を必要とします。ご自身の安全のため、これら作業は KTM 正規ディーラーで実施するようにして下さい！ 特別な訓練を受けた専門技術者が必要な専用ツールを使って、お客様のモーターサイクルを最適な状態にメンテナンス致します。



参照頁を示します（詳細については記載の頁を参照して下さい）。



補足情報や役に立つ情報を示します。



確認ステップの結果を示します。



電圧の測定を示します。



電流の測定を示します。



必要に応じた再加工を含む作業の終わりについて示します。

## 1.2 使用文字種について

以下、使用されている文字種について説明します。

**固有名詞**

固有名詞を示します。

**名前®**

登録商標を示します。

**マーク™**

トレードマークを示します。

**下線を引いた用語**

車両の技術的詳細を参照または用語解説にある専門用語を示します。

## 2.1 使用目的に応じた使用環境

### (EXC シリーズ)

この車両は、通常レースで想定される使用環境に耐えられるような設計・構造となっています。この車両は、モーターサイクルスポーツの国際上位団体・協会が取り決めている最新の競技規定・カテゴリーに対応しています。

#### **i 参考**

車両は認可を受けた（出力制限された）仕様でのみ、公共道路での走行が許可されています。

出力制限が解除された車両は、公共道路から隔たれた場所でしか使用することができません。

本車両はオフロード耐久レース用に設計されており、主要なモトクロスレースでの使用のために設計されてはいません。

### (XC-W シリーズ)

この車両は、通常レースで想定される使用環境に耐えられるような設計・構造となっています。この車両は、モーターサイクルスポーツの国際上位団体・協会が取り決めている最新の競技規定・カテゴリーに対応しています。

#### **i 参考**

本車両で公共道路を走行する事は許可されていません。

本車両はオフロード耐久レース用に設計されており、主要なモトクロスレースでの使用のために設計されてはいません。

## 2.2 誤使用

車両は使用目的に従った方法でのみ使用してください。

使用目的に従わない場合、人、車両、そして環境への危険の原因となります。

使用目的に従った使用、また定義されている使用環境の範囲外で車両を使用した場合、それは誤使用とみなされます。

油脂類およびケミカル類がそれぞれの使用に適した仕様条件を満たしていない場合も誤使用とみなされます。

## 2.3 安全の手引き

記載された製品の安全な環境のために安全の手引きに留意して下さい。そのためにも本説明書および同梱されたその他すべての説明書をよくお読み下さい。この安全の手引きは文章が見やすく記載され、重要箇所はリンクが添付されています。

#### **i 参考**

記載された製品のよく見える箇所に注意・警告表示が貼付されています。注意または警告表示をはがさないで下さい。これら表示がないと危険が認識できず、お客様ご自身並びに周囲の方々が怪我をされる恐れがあります。

## 2 安全の手引き

### 2.4 危険度と表示マーク



#### 危険

適切に対応しないと直接および確実に死亡や後遺症を残す重傷につながる危険を示します。



#### 警告

適切に対応しないと死亡や後遺症を残す重傷につながる恐れのある危険を示します。



#### 注意

適切に対応しないと場合によっては軽傷につながる恐れのある危険を示します。

#### 情報

適切に対応しないと車両または部品に重大な損傷をもたらす危険を示します。



#### 情報

適切に対応しないと環境汚染につながる危険を示します。

### 2.5 改造に関する警告

ノイズダンパー部品の改造を行うことは禁じられています。以下の処置および該当する状態の製造は法的に禁じられています:

- 1 防音のために取り付けられている装備や部品のいずれかを、新車がエンドユーザーに販売または引き渡される前に取り外したり、機能しないように変更したりする事。あるいは車両の使用期間中にメンテナンス、修理、交換以外の目的で取り外したり、機能しないように変更したりする事。
- 2 そのように設置したり部品を取り外す、もしくは機能しないようにした車両の使用。

違法改造の例:

- 1 メインサイレンサー、バッフルプレート、マニホールド、その他排気系統の部品の取り外しもしくは穿孔。
- 2 インテークシステム部品の取り外しまたは穿孔。
- 3 非合法的なメンテナンス状態での使用。
- 4 車両の可動部品、あるいは排気装置またはインテークシステムの部品を製造者が承認していない部品と交換する事。

### 2.6 使用時の安全性



#### 危険

**事故の危険性** 運転能力および判断力が十分でない運転者は、自身および他の方への危険となります。

- アルコール、薬物、薬品などにより運転能力が低下している場合、車両の運転をしないでください。
- 肉体的、精神的に運転能力が低下している場合も、車両の運転をしないでください。



#### 危険

**中毒の危険性** 排気ガスは毒性があり、意識不明や死亡の原因となる恐れがあります。

- エンジンを稼動する際は十分に換気が行えるように常に確認してください。
- 閉め切った室内でエンジンを始動したり、稼動状態にする場合は、適切な排気ガス抽出装置を使用してください。

**警告**

**火傷の危険性** 一部の部品は運転中非常に熱くなります。

- 車両部品が冷めるまで排気装置、ラジエーター、エンジン、ダンパー、ブレーキシステムなどの部品には触らないでください。
- 車両部品を十分に冷ましてから作業を実行してください。

車両が完璧に整備された状態である事を必ず確認し、法規定に則った安全で環境に優しい運転を心がけて下さい。

訓練を受けた人のみがこのモデルを運転できます。公道では適切な運転許可証が必要となります。

安全性を損なうような不具合がある場合は、すぐに KTM 正規ディーラーで処置を受けて下さい。

車両に貼付されている注意・警告表示に従って下さい。

## 2.7 保護服

**警告**

**怪我の危険性** 不足および欠陥のある保護服の着用は安全面での危険性を高めます。

- 走行時は必ずヘルメット、ブーツ、手袋、プロテクターが取り付けられたズボンやジャケットなどの保護服を着用してください。
- 損傷等がなく、かつ法規制に従った保護服を常に着用して下さい。

KTM ではお客様の安全性のためにも運転の際には適切な保護服を必ず着用するようお勧めしています。

## 2.8 作業上の決まり

特に断りのない限り、作業ごとにイグニッションをオフにするか（イグニッションスイッチまたはリモートキーが装備されているモデル）、エンジンを停止する（イグニッションスイッチまたはリモートキーが装備されていないモデル）必要があります。

作業の中には専用ツールを必要とするものがあります。専用ツールは車両の付属品ではありませんが、( )に記載されている番号を指定して注文することができます。例：ペアリングブーラー（15112017000）

組み立ての際再利用できない部品（緩み止めスクリューとナット、拡張ネジ、ガスケット、Oリング、割りピン、リテナープレートなど）は新しい部品と交換します。

スクリュー脱落にはゆるみ止め材（例、Loctite®）が必要になることがあります。使用の際にはメーカーの特別な注意事項を参照して下さい。

新しい部品にゆるみ止め剤（Precote®など）が塗布されている場合、追加的にゆるみ止め剤を重ねて塗布する必要はありません。

分解後も再度使用する部品は清掃し、磨耗や損傷がないかを点検します。磨耗・損傷した部品は交換します。

修理およびサービス終了後は、車両が安全に使用できる状態である事を確認して下さい。

## 2.9 環境

責任感をもってモーターサイクルと接する事で問題や対立の発生を避ける事ができます。モーターサイクルの明るい未来のためにも、法律で定められた範囲でモーターサイクルを使用し、環境意識を持ち、他人の権利を尊重する事を常に心がけて下さい。

古い燃料、その他燃料およびケミカル類、古くなった部品の廃棄は各国の法律および規則を遵守して下さい。

モーターサイクルは古い車両の廃棄に関する EU 指令の対象ではないので、法的な規定はありません。KTM 正規ディーラーにお気軽にお尋ね下さい。

### 2.10 オーナーズマニュアル

初めてツーリングに出る前に、このオーナーズマニュアルを全員注意して読んで下さい。車両の操作や取り扱い、メンテナンスのために有用なヒントや情報が盛り込まれています。車両を自分に合った最適な状態に調整し、ご自身を怪我から守る対処法を知るにはこれ以外の方法はありません。

#### ヒント

必要な時にいつでも確認できるよう、オーナーズマニュアルは端末などに保存しておいて下さい。

車両について、ここに記載されていない情報を求めの場合やご不明な点がありましたら、KTM 正規ディーラーまでお問い合わせ下さい。

オーナーズマニュアルはモーターサイクルの重要な部品の一部です。転売する際、オーナーズマニュアルは新しい所有者が新たにダウンロードしなければなりません。

オーナーズマニュアルは、QR コードまたは納車証明書に記載されているリンクから何度もダウンロードすることができます。

オーナーズマニュアルは KTM 正規ディーラーで、または KTM ホームページからダウンロードすることができます。印刷されたオーナーズマニュアルは、KTM 正規ディーラーから注文することもできます。

KTM インターナショナルサイト: KTM.COM

### 3.1 メーカー保証、法定保証

サービスプランに規定された作業は必ず KTM の正規ディーラーで行い、KTM Dealer.net で証明を受けて下さい。これをしないと一切の保証請求が無効となります。また、車両の変更・改造に起因する直接・間接の損害はメーカー保証の対象外です。

### 3.2 油脂類、ケミカル類



#### 情報

**環境汚染** 燃料の不適切な取り扱いは、環境汚染の原因となります。

- 燃料を地下水、土壤、下水道に流してはいけません。

オーナーズマニュアルおよび仕様に応じた油脂類とケミカル類を使用して下さい。

### 3.3 スペアパーツ、アクセサリー

ご自身の安全のため、KTM により承認または推奨されたスペアパーツ並びにアクセサリーのみを使用し、またこれら部品の取り付けは KTM の正規ディーラーで行って下さい。それ以外の製品およびその使用に起因する損害について、KTM は一切その責任を負いかねます。

関連する説明文で( )内に記載されているスペアパーツやアクセサリーもあります。KTM 正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。

お手持ちの製品でご使用になれる最新のKTM PowerPartsについては、KTM のホームページをご覧下さい。

KTM インターナショナルサイト: KTM.COM

### 3.4 サービス

故障を避け、早期摩耗を防ぐには、オーナーズマニュアルの記載に従ってエンジンとシャーシのサービス、手入れ、調整作業を行う事が必要です。シャーシの調整を間違うと、シャーシ部品の損傷や破損を引き起こす恐れがあります。

砂地やぬかるみ、または埃が多い、あるいは濡れたコースやオフロードなど、過酷な環境で車両を使用すると、駆動装置やブレーキシステム、エアフィルターまたはサスペンションなどで部品の磨耗を大幅に早める原因となります。その結果、次回サービス実施時期に達する前に点検や部品の交換が必要になる事があります。

規定の慣らし運転時間とサービス時期を必ず守って下さい。これは、車両の寿命を長くするために非常に重要な事です。

走行距離と時間間隔は最初のインターバルで決定します。

### 3.5 写真

注意事項に記載された写真には一部特別装備が施されています。

より分かりやすく表示および説明するために一部部品を取り外したり、記載していない場合があります。これらの記述に関する取り外しは必ずしも必要ではありません。記載内容に留意して下さい。

### 3.6 カスタマーサービス

お手持ちの製品や KTM に関するご質問については、KTM 正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。

KTM 正規ディーラーの一覧は KTM のホームページに掲載されています。

KTM インターナショナルサイト: KTM.COM

## 4 各部の名称

### 4.1 各部の名称 左前方(代表写真)



S04867-10

- ① ブレーキレバー (☞ 頁 16)
- ② クラッチレバー (☞ 頁 16)
- ③ フィラーキャップ
- ④ シート
- ⑤ エアフィルターケースカバー
- ⑥ サイドスタンド (☞ 頁 23)
- ⑦ シフトレバー (☞ 頁 22)

## 4.2 各部の名称 右後方 (代表写真)

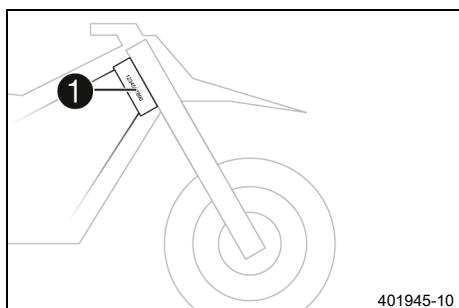


S04868-10

- ① 2ストロークオイルタンクのフィラーキャップ
- ② ホーンスイッチ (見  
頁 17) (EXC シリーズ)
- ② ターンシグナルスイッチ (見  
頁 18) (EXC シリーズ)
- ② ライトスイッチ (見  
頁 17) (EXC シリーズ)
- ② OFFスイッチ (見  
頁 16) (EXC シリーズ)
- ③ エマージェンシーOFFスイッチ (見  
頁 18) (EXC シリーズ)
- ③ スタートキー (見  
頁 18)
- ④ スロットルグリップ (見  
頁 16)
- ⑤ 車両識別番号 (見  
頁 14)
- ⑥ ブレーキペダル (見  
頁 23)

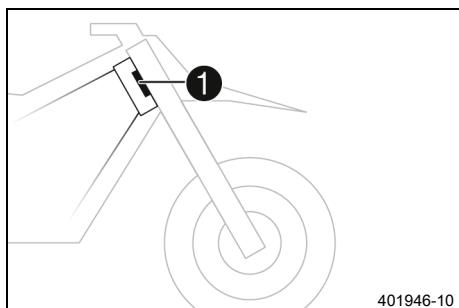
# 5 シリアルナンバー

## 5.1 車両識別番号



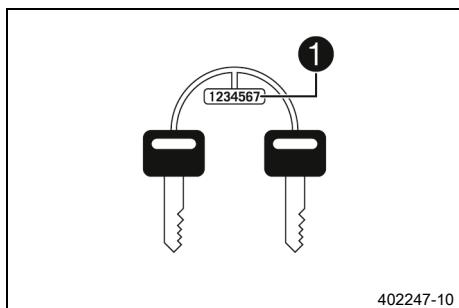
シャリヨウシキベツバンゴウ①はステアリングヘッドの右に刻印されています。

## 5.2 タイプラベル



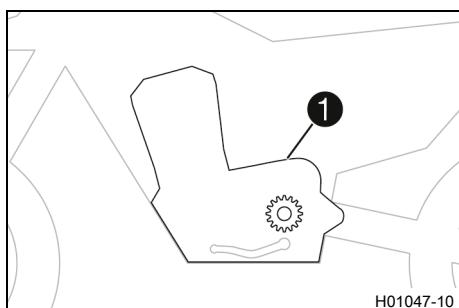
タイプラベル①はステアリングヘッドの前方に貼付されています。

## 5.3 キーナンバー (EXC シリーズ)



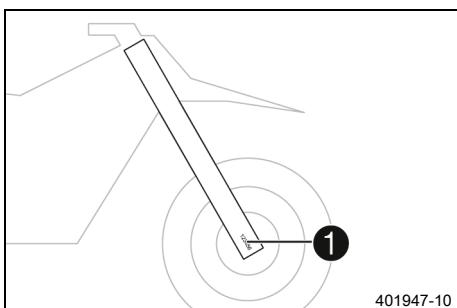
ハンドルロックのためのキーナンバー①は2つのキーの接合部に刻印されています。

## 5.4 エンジンナンバー



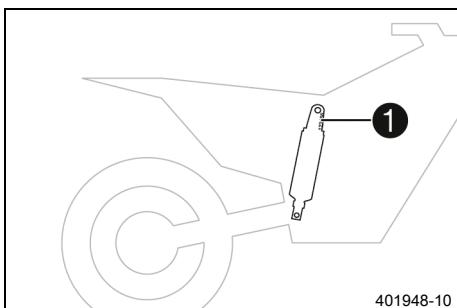
エンジンナンバー①はエンジンの左側、フロントスプロケットの上に刻印されています。

## 5.5 フロントフォークタイプナンバー



フロントフォークタイプナンバー①はフォークレッグにあるアクスル用の穴の内側に刻印されています。

## 5.6 ショックアブソーバータイプナンバー



ショックアブソーバータイプナンバー①は、ショックアブソーバー上部、調節リングの上、エンジン側に刻印されています。

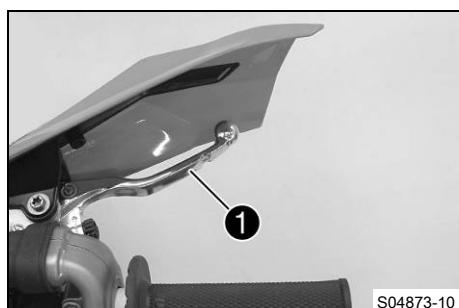
# 6 操作各部

## 6.1 クラッチレバー



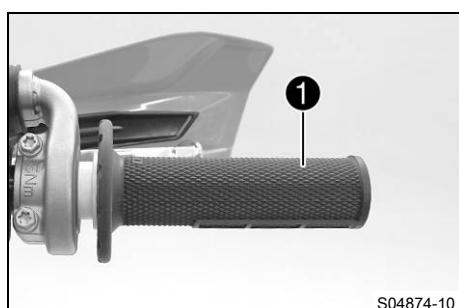
クラッチレバー①は左のハンドルバーに設置されています。  
クラッチは油圧で作動し、自動調整されています。

## 6.2 ブレーキレバー



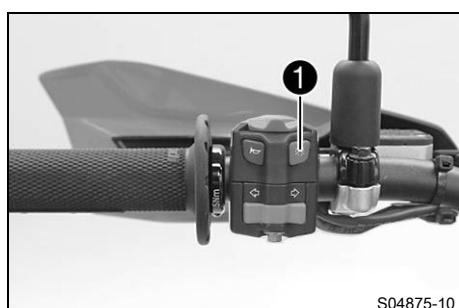
ブレーキレバー①は右のハンドルバーに設置されています。  
ブレーキレバーで前輪ブレーキを作動します。

## 6.3 スロットルグリップ



スロットルグリップ①は右のハンドルバーに設置されています。

## 6.4 OFFスイッチ (EXCシリーズ)

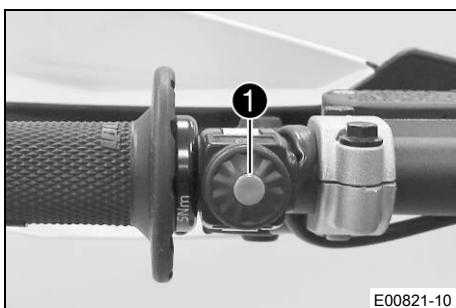


OFFスイッチ①は左のハンドルバーに設置されています。

確認すべき状態

- OFFスイッチが基本位置にある- この位置ではイグニッション回路が接続されており、エンジンをかける事ができます。
- OFFスイッチが押し続けられた- この位置ではイグニッション回路が接続されておらず、エンジン作動中はこれを停止し、停止中の場合はエンジンをかける事ができません。

## 6.5 OFFスイッチ (XC-Wシリーズ)

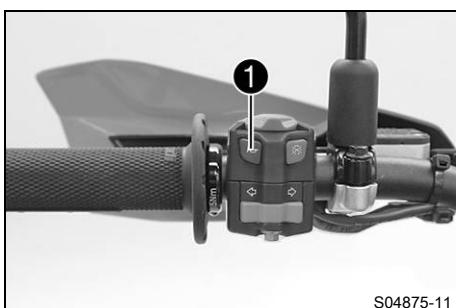


OFFスイッチ①は左のハンドルバーに設置されています。

### 確認すべき状態

- OFFスイッチが基本位置にある – この位置ではイグニッション回路が接続されており、エンジンをかける事ができます。
- OFFスイッチが押し続けられた – この位置ではイグニッション回路が接続されておらず、エンジン作動中はこれを停止し、停止中の場合はエンジンをかける事ができません。

## 6.6 ホーンスイッチ (EXCシリーズ)

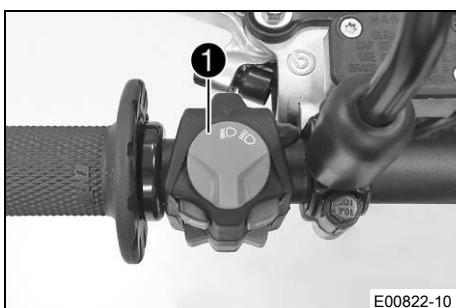


ホーンスイッチ①は左のハンドルバーに設置されています。

### 確認すべき状態

- ホーンスイッチが基本位置にある
- ホーンスイッチが押されている – この位置でホーンが鳴ります。

## 6.7 ライトスイッチ (EXCシリーズ)



ライトスイッチ①は左のハンドルバーに設置されています。

### 確認すべき状態

	ヘッドライト(ロービーム)点灯 – ライトスイッチが中央位置にあります。この位置でヘッドライト(ロービーム)とテールライトが点灯しています。
	ヘッドライト(ハイビーム)点灯 – ライトスイッチが左に押されています。この位置でヘッドライト(ハイビーム)とテールライトが点灯しています。

## 6.8 ライトスイッチ (XC-Wシリーズ)



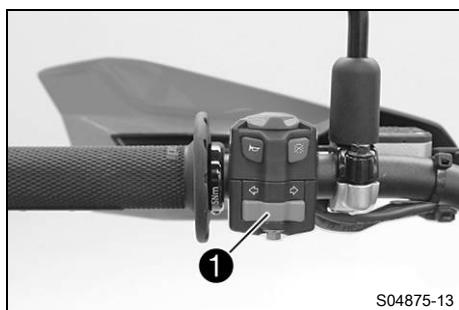
ライトスイッチ①はコンビネーションインストルメントの左横に設置されています。

### 確認すべき状態

- ライトが消えている – ライトスイッチがいっぱいに押されています。この位置でライトが消えています。
- ライト点灯 – ライトスイッチがいっぱいに引かれています。この位置でヘッドライト(ロービーム)とテールライトが点灯しています。

# 6 操作各部

## 6.9 ターンシグナルスイッチ (EXC シリーズ)

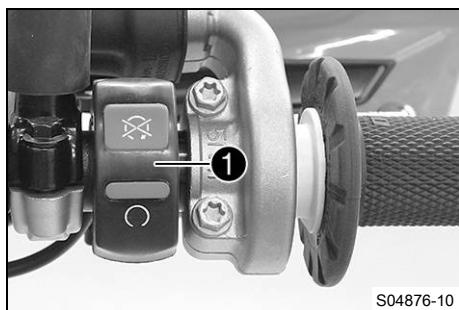


ターンシグナルスイッチ①は左のハンドルバーに設置されています。

### 確認すべき状態

	ターンシグナルを停止– ターンシグナルスイッチが中央に位置しています。
←	左のターンシグナルが作動– ターンシグナルスイッチを左に押します。
→	右のターンシグナルが作動– ターンシグナルスイッチを右に押します。

## 6.10 エマージェンシーOFFスイッチ (EXC シリーズ)

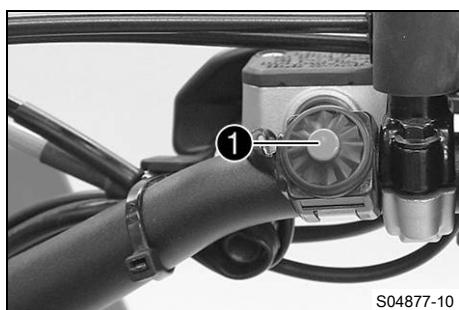


エマージェンシーOFFスイッチ①は右のハンドルバーに設置されています。

### 確認すべき状態

✗	イグニッション停止– この位置ではイグニッション回路が接続されておらず、エンジン作動中はこれを停止し、停止中の場合はエンジンをかける事ができません。
⟳	イグニッション作動– この位置ではイグニッション回路が接続されており、エンジンをかける事ができます。

## 6.11 スタートキー

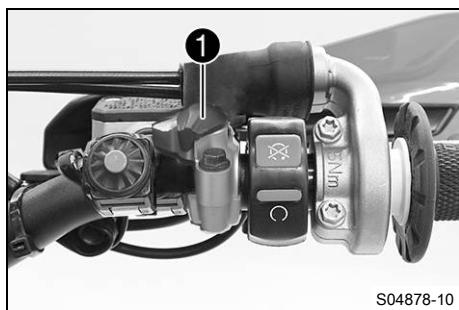


スタートキー①は右のハンドルバーに設置されています。

### 確認すべき状態

- スタートキー②が基本位置にある
- スタートキー②が押されている– この位置でセルフスタートモーターを作動します。

## 6.12 点火特性スイッチ (特別モデルシリーズ)



点火特性スイッチ①は右のハンドルバーに設置されています。

### 確認すべき状態

- I位置の点火特性スイッチ– この位置では点火特性 Performanceが有効です。
- II位置の点火特性スイッチ– この位置では点火特性Softが有効です。

点火特性スイッチではエンジン特性を変更することができます。

### i 参考

認可を受けた（出力制限された）状態では点火特性スイッチを使用することはできません。

### 6.13 インジケーター・ランプ (EXC シリーズ)



#### 確認すべき状態

	ハイビームインジケーター・ランプが青く点灯 - ハイビームが点灯しています。
	不具合インジケーター・ランプが黄色に点灯 / 点滅 - OBD(オンボード・ダイアグノーシス)が車両の電気系統で不具合を検出しました。交通規制に従った方法で速やかに停車し、KTM 正規ディーラーに連絡して下さい。
	燃料レベル警告ランプが黄色に点灯 - 燃料レベルがリザーブマークに達しています。
	ターンシグナルインジケーター・ランプが緑に点滅 - ターンシグナルが作動しています。
	オイルレベル警告ランプが赤く点灯 - オイルレベルがMINのマーキングに達成しました。タンクに残っている燃料が空になるまで走ることができますが、できるだけ早く2ストロークオイルを充填して下さい。

### 6.14 インジケーター・ランプ (XC-W シリーズ)



#### 確認すべき状態

	ハイビーム インジケーター・ランプ - 作動しません
	不具合インジケーター・ランプが黄色に点灯 / 点滅 - OBD(オンボード・ダイアグノーシス)が車両の電気系統で不具合を検出しました。交通規制に従った方法で速やかに停車し、KTM 正規ディーラーに連絡して下さい。
	燃料レベル警告ランプが黄色に点灯 - 燃料レベルがリザーブマークに達しています。
	オイルレベル警告ランプが赤く点灯 - オイルレベルがMINのマーキングに達成しました。タンクに残っている燃料が空になるまで走ることができますが、できるだけ早く2ストロークオイルを充填して下さい。

### 6.15 フィラーキャップを開ける



#### 危険

火事の危険 燃料は可燃性です。

フューエルタンク内の燃料は熱により膨張し、溢れ出てしまうことがあります。

- 炎や火のついたタバコの近くで車両に給油しないでください。
- 給油の際にはエンジンを停止してください。
- 特に車両部品に燃料がこぼれるないように注意してください。
- こぼれた燃料はすぐに拭き取ってください。
- 給油の際には燃料給油に関する注意事項を参照してください。



## 警告

**中毒の危険性** 燃料は毒性で、健康に害を及ぼします。

- 燃料が皮膚、目、衣服に接触しないよう注意してください。
- 燃料を飲み込んでしまった場合、即座に受診してください。
- 気化した燃料を吸い込まないでください。
- 接触した部分の肌は即座に多量の水で洗ってください。
- 燃料が目にはいった場合、速やかに水で洗い落とし、受診してください。
- 燃料が衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。
- 燃料は適切なキャニスターに入れ、子供の手の届かない場所に保管して下さい。



## 情報

**環境汚染** 燃料の不適切な取り扱いは、環境汚染の原因となります。

- 燃料を地下水、土壌、下水道に流してはいけません。



- リリースボタン①を押し、フィラーキャップを時計と反対回りに回して上に取り外します。



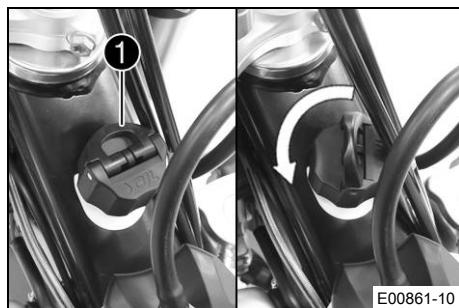
- フィラーキャップをかぶせ、リリースボタン①がロックするまで時計回りに回します。



## 参考

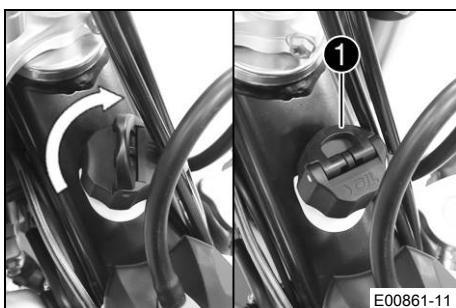
フューエルタンクのエア抜きホース②が折れ曲がらないように注意して下さい。

### 6.17 2ストロークオイルタンクのフィラーキャップを開ける



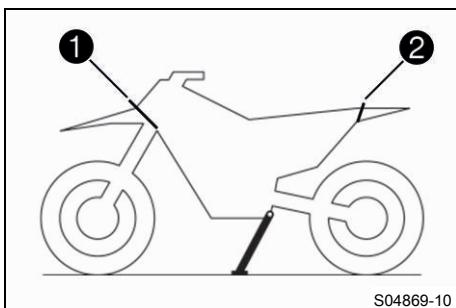
- 留め具①を上に倒します。
- 2ストロークオイルタンクのフィラーキャップを時計と反対回りに回して取り外します。

### 6.18 2ストロークオイルタンクのフィラーキャップを閉める



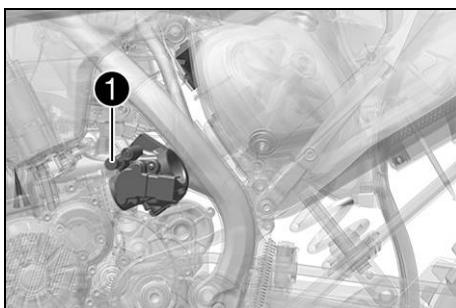
- 2ストロークオイルタンクのフィラーキャップをかぶせ、時計回りに回します。
- 留め具①を下に倒します。
- ✓ 2ストロークオイルタンクのフィラーキャップが力チックとはまります。

### 6.19 グリップベルト (すべての ERZBERGRODEO シリーズ)



グリップベルトは車両の前方①および後方②に設けられています。  
車両がオフロードで再発進できなくなつた場合グリップベルトを使い車両を引っ張ることができます。

### 6.20 チョークノブ

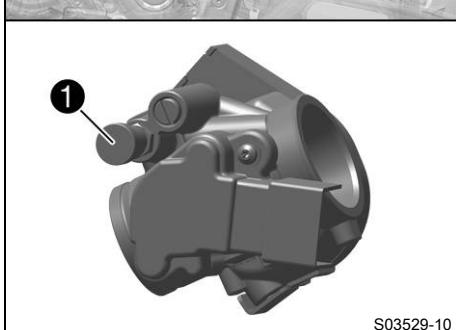


チョークノブ①はスロットルバルブ本体横に設置されています。  
エンジンが冷えた状態で外気温が低い場合、電子フューエルインジェクションが噴射時間を延長します。  
より多くの燃料を燃焼させるために、チョークノブを引いて追加でエンジンに酸素を供給します。

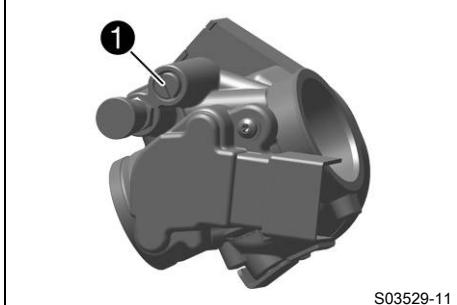
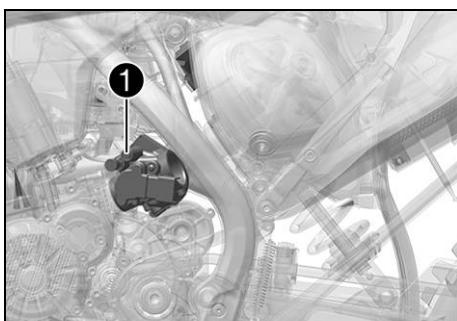
**参考**  
エンジンが作動温度に達している場合は、チョークノブをオフにして下さい。

#### 確認すべき状態

- チョークノブがオン-チョークノブはいっぱいに引き、最大  $\frac{1}{4}$  回転だけ回します。
- チョークノブがオフ-チョークノブはさらに  $\frac{1}{4}$  回転回すと基本位置に戻ります。



## 6.21 アイドリング調整スクリュー



スロットルバルブ本体のアイドリング調節は、エンジンのかかり方、アイドリング回転数の安定性、アクセルを開いたときの反応に大きな影響を与えます。

アイドリング回転数の調節がきちんと行われていると、そうでない場合に比べてエンジンがかかりやすくなります。

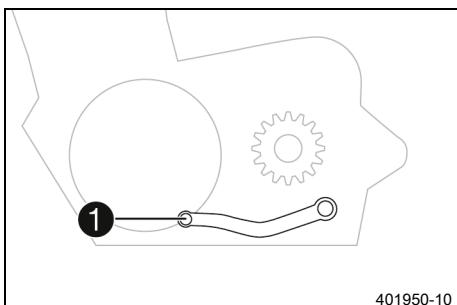
アイドリング回転数はアイドリング調節スクリュー①で調節します。

### 参考

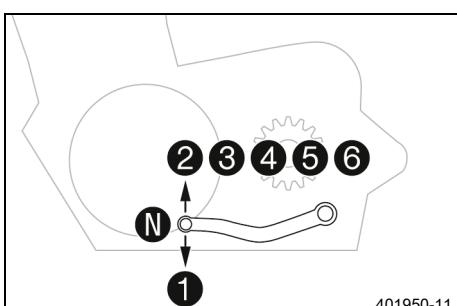
アイドリング回転数が高く、エンジンがゆっくりと回転数を下げており、エンジンブレーキが弱く、吸気がアグレッシブな場合、調節スクリューを時計回りに回してください。

アイドリング回転数が低く、エンジンが早い速度で回転数を下げており、エンジンブレーキが強く、吸気が正しく行われていない場合、調節スクリューを時計と反対回りに回してください。

## 6.22 シフトレバー



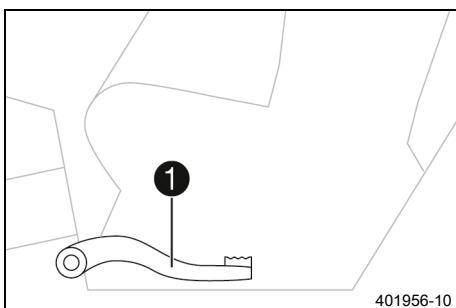
シフトレバー①はエンジンの左側に設置されています。



各ギアのポジションは図の通りです。

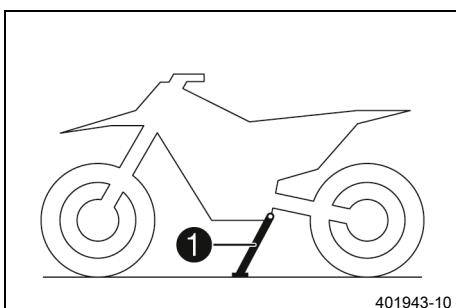
ニュートラル / アイドリングは 1 速と 2 速の間にあります。

### 6.23 ブレーキペダル

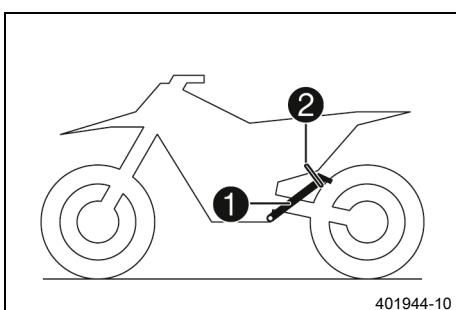


ブレーキペダル①は右のフットレストの前方に設置されています。  
ブレーキペダルで後輪ブレーキを作動します。

### 6.24 サイドスタンド



サイドスタンド①は車両の左側に設置されています。



サイドスタンドは車両を立てるのに使用します。

#### **i 参考**

走行中はサイドスタンド①を上に閉じ、ゴムベルト②で固定して下さい。

### 6.25 ハンドルロック (EXC シリーズ)



ハンドルロック①はステアリングヘッドの左側に設置されています。  
ハンドルロックをかけるとハンドルを固定する事ができます。  
これによりハンドル操作ができず、よって走行不可能となります。

## 6.26 ハンドル操作をロックする (EXC シリーズ)

### 情報

**損傷の危険性** 駐車中の車両が動き出たり倒れる恐れがあります。

- 車両は安定した平らな地面の上に立てます。



400732-01

- 車両を停めます。
- ハンドルバーを右に回しります。
- ハンドルロックにハンドルロック用キーを差し込んで時計と反対回りに回し、押しながら今度は右に回します。ハンドルロック用キーを抜き取ります。

✓ これで、もうハンドルバーを動かすことはできません。



### 参考

ハンドルロック用キーをハンドルロックに差し込んだままにしないで下さい。

## 6.27 ハンドル操作のロックを解除する (EXC シリーズ)



400731-01

- ハンドルロックにハンドルロック用キーを差し込んで時計と反対回りに回し、少し引き出してから今度は右に回します。ハンドルロック用キーを抜き取ります。

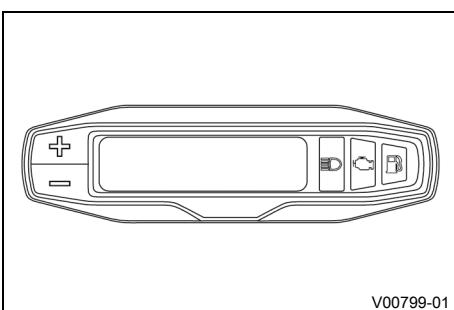
✓ これでまたハンドルバーを動かす事ができます。



### 参考

ハンドルロック用キーをハンドルロックに差し込んだままにしないで下さい。

## 7.1 コンビネーションインスツルメント一覧

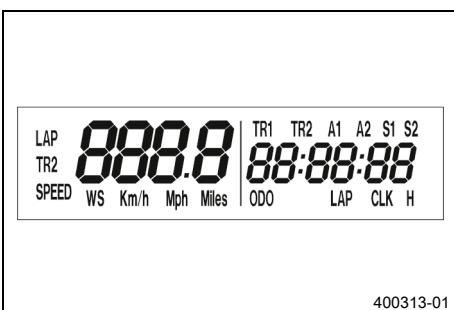


- キー **▲**でメニューを選択し設定を行います。
- キー **■**でメニューを選択し設定を行います。

### i 参考

納車時はSPEED/HモードとSPEED/ODOモードだけが選択されています。

## 7.2 起動とテスト



### コンビネーションインスツルメントを起動する

いずれかのキーを押すか、または車輪速度センサーからパルスを受信すると、コンビネーションインスツルメントが起動します。

### ディスプレイテスト

画面の機能テストのため、全表示アイテムを短く表示します。



### WS (ホイールサイズ)

画面の機能テストの後、ホイール外周WS (ホイールサイズ)を表示します。

### i 参考

「2205」は量産モデルの21インチ前輪の外周に相当します。

その後、最後に選択したモードが表示されます。

## 7.3 キロメートルかマイルを設定する

### i 参考

単位を変更してもODOの値は保持され、選択単位に合わせて換算されます。

TR1、TR2、A1、A2、S1の値は単位を変更すると削除されます。

### 条件

車両が停止している。

- **▲**ボタンを何度も短く押して、ディスプレイ右下にHを表示させます。
- **▲**ボタンを2~3秒間押し続けます。

✓ 設定メニューが現れ、選択されている機能を表示します。

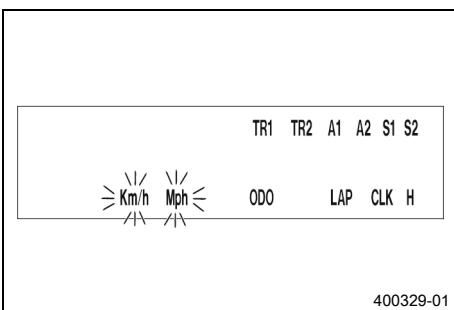
- **▲**ボタンを何度も短く押して、Km/h / Mphを点滅させます。

### Km/hを選択する

- **▲**ボタンを押します。

### Mphを選択する

- **■**ボタンを押します。



## 7 コンビネーションインスツルメント

- 3~5秒間待ちます。
- ✓ 設定が保存されます。



### 参考

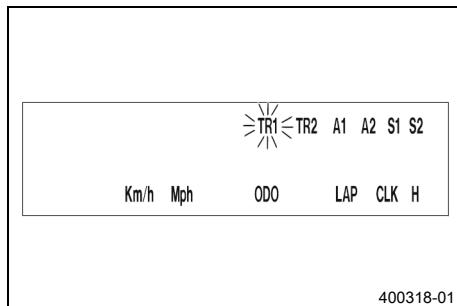
10~12秒間キーを押さなかつたか、または車輪速度センサーからパルスを受信した場合、設定は自動的に保存され、セットアップメニューは終了します。

## 7.4 コンビネーションインスツルメントを設定する



### 参考

納車時はSPEED/HモードとSPEED/ODOモードだけが選択されています。



### 条件

車両が停止している。

- +ボタンを何度も短く押して、ディスプレイ右下にHを表示させます。
- +ボタンを2~3秒間押し続けます。
- ✓ 設定メニューが現れ、選択されている機能を表示します。



### 参考

10~12秒間キーを押さなかつた場合、設定が自動的に保存されます。

20秒間キーを押さなかつたか、または車輪速度センサーからパルスを受信した場合、設定は自動的に保存され、セットアップメニューは終了します。

- +ボタンを何度も短く押して、選択したい機能を点滅させます。

✓ 選択された機能が点滅します。

### 機能をオンにする

- +ボタンを押します。

✓ シンボルを表示したまま、次の機能に移動します。

### 機能をオフにする

- -ボタンを押します。

✓ シンボルが消え、次の機能に移動します。

## 7.5 時刻を設定する

### 条件

車両が停止している。



400330-01

- **⊕ボタンを何度か短く押して、ディスプレイ右下にCLKを表示させます。**
- **⊕ボタンを2~3秒間押し続けます。**
- ✓ 時間表示が点滅します。**
- 時間表示をボタン **⊕** か **⊖** で設定します。
- 3~5秒間待ちます。
- ✓ 次のセグメントが点滅し、変更可能になります。**
- 残るセグメントをボタン **⊕** とボタン **⊖** を使って時間表示と同様に設定します。

**参考**

秒数はゼロ以外の値には設定できません。

15~20秒間キーを押さなかったか、または車輪速度センサーからパルスを受信した場合、設定は自動的に保存され、セットアップメニューは終了します。

**7.6 ラップタイムを表示する****参考**

本機能はラップタイムを測定してからでないと作動できません。

**条件**

車両が停止している。



400321-01

- **⊕ボタンを何度か短く押して、ディスプレイ右下にLAPを表示させます。**
- **⊕ボタンを短く押します。**
- ✓ ディスプレイ左にLAP 1が表示されます。**
- ラップ 1 から 10 のタイムをキー **⊖** で表示できます。
- キー **⊕** を3~5秒間押し続けます。
- ✓ ラップタイプが消去されます。**
- **⊕ボタンを短く押します。**
- ✓ 次のモードに切り替わります。**

**参考**

車輪速度センサーから信号を受けると、ディスプレイ左の表示がSPEEDモードに戻ります。

**7.7 SPEED モード (速度)**

400317-02

- **⊕ボタンを何度か短く押して、ディスプレイ左にSPEEDを表示させます。**

SPEEDモードでは現在の速度を表示します。

現在速度はKm/hまたはMphで表示する事ができます。

# 7 コンビネーションインスツルメント



## 参考

国に応じた設定を選択して下さい。

前輪から信号を受けるとディスプレイ左の表示がSPEEDモードに切り替わり、現在の速度を表示します。

## 7.8 SPEED/H モード(作動時間)



### 条件

- 車両が停止している。
- +ボタンを何度か短く押して、ディスプレイ右下にHを表示させます。  
Hモードではエンジンの作動時間を表示します。  
作動時間計で総走行時間を記録しています。



## 参考

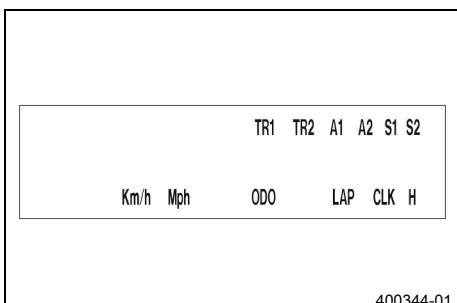
作動時間計はサービス作業の実施時期を守るために必要です。

コンビネーションインスツルメントがHモードに設定された状態で走り出すと、自動的にODOモードに切り替わります。

Hモードは走行中作動しません。

+ボタンを2~3秒間押し続けます。	コンビネーションインスツルメントの設定メニューが表示されます。
+ボタンを短く押します。	次のモードに切り替わります。
-ボタンを2~3秒間押し続けます。	機能なし
-ボタンを短く押します。	機能なし

## 7.9 設定メニュー



### 条件

- 車両が停止している。
  - +ボタンを何度か短く押して、ディスプレイ右下にHを表示させます。
  - +ボタンを2~3秒間押し続けます。
- 設定メニューは選択されている機能を表示します。



## 参考

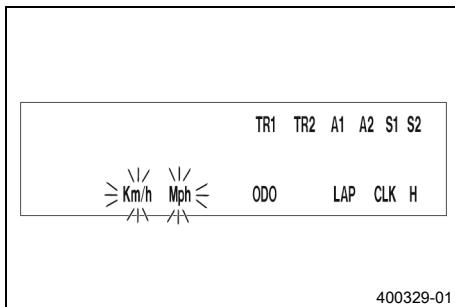
希望の機能になるまで、+ボタンを短く押します。

20秒間ボタンを押さなかった場合、設定が自動的に保存されます。

+ボタンを短く押します。	点滅している機能をオンに設定し、次の表示に移動します。
--------------	-----------------------------

■ボタンを2~3秒間押し続けます。	機能なし
■ボタンを短く押します。	点滅している機能をオフに設定し、次の表示に移動します。
■ボタンを2~3秒間押し続けます。	機能なし
3~5秒間待ちます。	設定を変更せずに次の表示に移動します。
10~12秒間待ちます。	設定メニューを終了し、設定内容を保存してHモードまたはODOモードに移動します。

## 7.10 単位を設定する



### 条件

- ・ 車両が停止している。
- ■ボタンを何度か短く押して、ディスプレイ右下にHを表示させます。
- ■ボタンを2~3秒間押し続けます。
- ■ボタンを何度か短く押して、Km/h / Mphを点滅させます。単位モードでは、単位を切り替える事ができます。



5秒間ボタンを押さなかった場合、設定が自動的に保存されます。

■ボタンを短く押します。	選択モードを開始し、Km/h表示を選択します。
■ボタンを2~3秒間押し続けます。	機能なし
■ボタンを短く押します。	Mph表示を選択します。
■ボタンを2~3秒間押し続けます。	機能なし
3~5秒間待ちます。	次の表示に切り替わり、選択モードから設定メニューに移動します。
10~12秒間待ちます。	設定内容を保存し、設定メニューを閉じます。

# 7 コンビネーションインスツルメント

## 7.11 SPEED/CLK モード ( 時刻 )

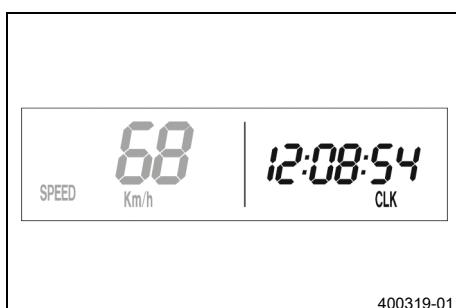


- **+**ボタンを何度も短く押して、ディスプレイ右下にCLKを表示させます。

CLKモードでは時刻を表示します。

<b>+</b> ボタンを2~3秒間押し続けます。	時計の設定メニューが表示されます。
<b>+</b> ボタンを短く押します。	次のモードに切り替わります
<b>-</b> ボタンを2~3秒間押し続けます。	機能が割り当てられていません
<b>-</b> ボタンを短く押します。	機能が割り当てられていません

## 7.12 時刻を設定する

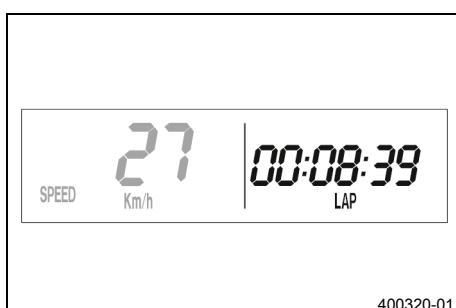


### 条件

- 車両が停止している。
- **+**ボタンを何度も短く押して、ディスプレイ右下にCLKを表示させます。
- **+**ボタンを2~3秒間押し続けます。

<b>+</b> ボタンを2~3秒間押し続けます。	数値を増やします
<b>+</b> ボタンを短く押します。	数値を増やします
<b>-</b> ボタンを2~3秒間押し続けます。	数値を減らします
<b>-</b> ボタンを短く押します。	数値を減らします
3~5秒間待ちます。	次の数値に移動します。
10~12秒間待ちます。	設定メニューの終了

## 7.13 SPEED/LAP モード ( ラップタイム )



- **+**ボタンを何度も短く押して、ディスプレイ右下にLAPを表示させます。

LAPモードでは、ストップウォッチで10ラップまでタイムを記録できます。

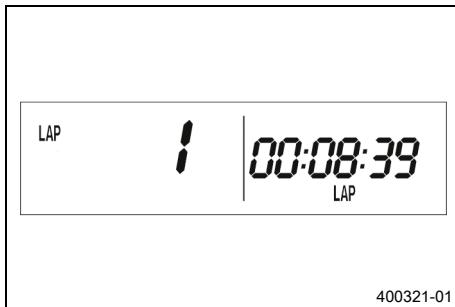


### 参考

- ボタンを押してもラップタイムが止まらない場合、すでに9ラップが記録されています。  
10ラップ目は**+**ボタンでストップして下さい。

■ボタンを2~3秒間押し続けます。	ストップウォッチとラップタイムをリセットします。
■ボタンを短く押します。	次のモードに切り替わります。
■ボタンを2~3秒間押し続けます。	ストップウォッチをストップします。
■ボタンを短く押します。	ストップウォッチをスタートするか記録中のラップタイムをストップして記録し、次のラップをスタートします。

#### 7.14 ラップタイムを表示する



##### 条件

- 車両が停止している。
- ボタンを何度か短く押して、ディスプレイ右下にLAPを表示させます。
- ボタンを短く押します。

■ボタンを2~3秒間押し続けます。	ストップウォッチとラップタイムをリセットします。
■ボタンを短く押します。	ラップ1から10を選択します。
■ボタンを2~3秒間押し続けます。	作動しません。
■ボタンを短く押します。	次のラップタイムを表示します。

#### 7.15 SPEED/ODOモード(走行距離計)



- ボタンを何度か短く押して、ディスプレイ右下にODOを表示させます。

ODOモードでは走行した総距離を表示します。

■ボタンを2~3秒間押し続けます。	作動しません。
■ボタンを短く押します。	次のモードに切り替わります。
■ボタンを2~3秒間押し続けます。	作動しません。
■ボタンを短く押します。	作動しません。

## 7 コンビネーションインスツルメント

### 7.16 SPEED/TR1 モード (トリップマスター 1)



400323-01

- **+**ボタンを何度も短く押して、ディスプレイ右上にTR1を表示させます。

TR1 (トリップマスター 1)は常に作動しており、999.9までカウントします。

ツーリングの際にルートの距離を測ったり、給油の間隔を距離で確認する事ができます。

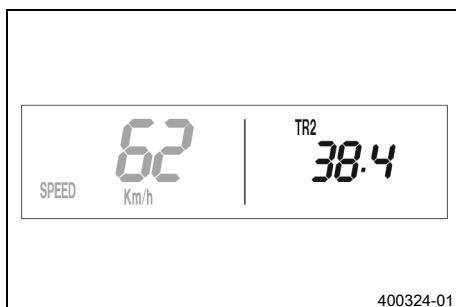
TR1はA1 (平均速度 1)とS1 (ストップウォッチ 1)と連動しています。

#### 参考

999.9までカウントすると、TR1、A1、S1の表示を自動的に「0.0」にリセットします。

<b>+</b> ボタンを2~3秒間押しき続けます。	TR1、A1、S1の表示を「0.0」にリセットします。
<b>+</b> ボタンを短く押します。	次のモードに切り替わります。
<b>■</b> ボタンを2~3秒間押しき続けます。	作動しません。
<b>■</b> ボタンを短く押します。	作動しません。

### 7.17 SPEED/TR2 モード (トリップマスター 2)



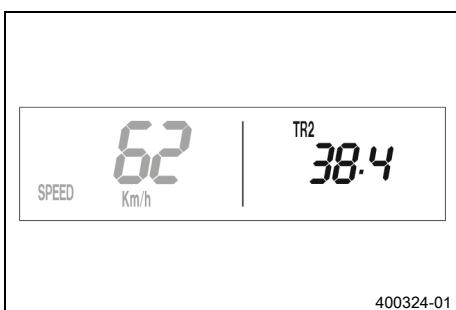
400324-01

- **+**ボタンを何度も短く押して、ディスプレイ右上にTR2を表示させます。

TR2 (トリップマスター 2)は常に作動しており、999.9までカウントします。

<b>+</b> ボタンを2~3秒間押しき続けます。	TR2とA2の値を削除します。
<b>+</b> ボタンを短く押します。	次のモードに切り替わります
<b>■</b> ボタンを2~3秒間押しき続けます。	TR2の値を減らします。
<b>■</b> ボタンを短く押します。	TR2の値を減らします。

### 7.18 TR2 (トリップマスター 2)の設定



#### 条件

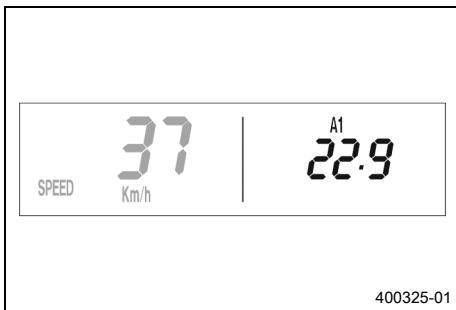
- ・ 車両が停止している。
- **▲ボタン**を何度か短く押して、ディスプレイ右上にTR2を表示させます。
- TR2が点滅するまで、**■ボタン**を2~3秒間押し続けます。表示されている値は、**▲ボタン**と**■ボタン**を使ってマニュアルで変更できます。ロードブックに従って走行する際、とても便利な機能です。

#### i 参考

TR2の値は走行中も~~▲ボタン~~と~~■ボタン~~で修正可能です。999.9までカウントすると、TR2の値を自動的に「0.0」にリセットします。

<b>▲ボタン</b> を2~3秒間押し続けます。	TR2の値を増やします。
<b>▲ボタン</b> を短く押します。	TR2の値を増やします。
<b>■ボタン</b> を2~3秒間押し続けます。	TR2の値を減らします。
<b>■ボタン</b> を短く押します。	TR2の値を減らします。
10~12秒間待ちます。	設定内容を保存し、設定メニューを閉じます。

### 7.19 SPEED/A1 モード (平均速度 1)



- **▲ボタン**を何度か短く押して、ディスプレイ右上にA1を表示させます。

A1 (平均速度 1)はTR1 (トリップマスター 1)とS1 (ストップウォッチ 1)から算出した平均速度を表示します。

車輪速度センサーから信号を受けると計測を開始し、3秒間信号がないと計測を終了します。

<b>▲ボタン</b> を2~3秒間押し続けます。	TR1、A1、S1の表示を「0.0」にリセットします。
<b>▲ボタン</b> を短く押します。	次のモードに切り替わります。
<b>■ボタン</b> を2~3秒間押し続けます。	機能なし
<b>■ボタン</b> を短く押します。	機能なし

## 7 コンビネーションインスツルメント

### 7.20 SPEED/A2 モード (平均速度 2)



- +ボタンを何度も短く押して、ディスプレイ右上にA2を表示させます。

A2(平均速度2)は、ストップウォッチS2(ストップウォッチ2)の作動中、現在の速度を基にした平均速度を表示します。



#### 参考

走行後にS2を停止しないと、表示値が実際の平均速度と異なる場合があります。

+ボタンを短く押します。	次のモードに切り替わります。
+ボタンを2~3秒間押し続けます。	作動しません。
■ボタンを2~3秒間押し続けます。	作動しません。
■ボタンを短く押します。	作動しません。

### 7.21 SPEED/S1 モード (ストップウォッチ 1)

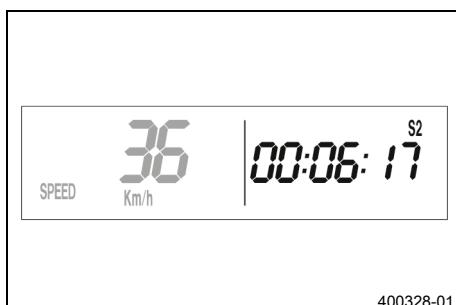


- +ボタンを何度も短く押して、ディスプレイ右上にS1を表示させます。

S1(ストップウォッチ1)はTR1を基に走行時間を表示し、車輪速度センサーから信号を受けるとまた作動開始します。車輪速度センサーから信号を受けると計測を開始し、3秒間信号がないと計測を終了します。

+ボタンを2~3秒間押し続けます。	TR1、A1、S1の表示を「0.0」にリセットします。
+ボタンを短く押します。	次のモードに切り替わります。
■ボタンを2~3秒間押し続けます。	機能なし
■ボタンを短く押します。	機能なし

### 7.22 SPEED/S2 モード (ストップウォッチ 2)



- +ボタンを何度も短く押して、ディスプレイ右上にS2を表示させます。

S2(ストップウォッチ2)はマニュアルのストップウォッチです。S2がバックグラウンドで作動中の場合、ディスプレイでS2の表示が点滅します。

+ボタンを2~3秒間押し続けます。	S2とA2の表示を「0.0」にリセットします。
-------------------	-------------------------

■ボタンを短く押します。	次のモードに切り替わります。
■ボタンを2~3秒間押し続けます。	機能なし
■ボタンを短く押します。	S2をスタートまたはストップします。

### 7.23 機能一覧表

表示画面	■ボタンを2~3秒間押し続けます。	■ボタンを短く押します。	■ボタンを2~3秒間押し続けます。	■ボタンを短く押します。	3~5秒間待ちます。	10~12秒間待ちます。
SPEED/Hモード(作動時間)	コンビネーションインスツルメントの設定メニューが表示されます。	次のモードに切り替わります。	機能なし	機能なし		
設定メニュー	機能なし	点滅している機能をオフに設定し、次の表示に移動します。	機能なし	点滅している機能をオフに設定し、次の表示に移動します。	設定を変更せずに次の表示に移動します。	設定メニューを終了し、設定内容を保存してHモードまたはODOモードに移動します。
単位を設定する	機能なし	選択モードを開始し、Km/h表示を選択します。	機能なし	Mph表示を選択します。	次の表示に切り替わり、選択モードから設定メニューに移動します。	設定内容を保存し、設定メニューを閉じます。
SPEED/CLKモード(時刻)	時計の設定メニューが表示されます。	次のモードに切り替わります	機能が割り当てられていません	機能が割り当てられていません		
時刻を設定する	数値を増やします	数値を増やします	数値を減らします	数値を減らします	次の数値に移動します。	設定メニューの終了
SPEED/LAPモード(ラップタイム)	ストップウォッチとラップタイマーをリセットします。	次のモードに切り替わります。	ストップウォッチをストップします。	ストップウォッチをスタートするか記録中のラップタイマーをストップして記録し、次のラップをスタートします。		

## 7 コンビネーションインスツルメント

表示画面	■ボタンを2~3秒間押し続けます。	■ボタンを短く押します。	■ボタンを2~3秒間押し続けます。	■ボタンを短く押します。	3~5秒間待ちます。	10~12秒間待ちます。
ラップタイムを表示する	ストップウォッチとラップタイムをリセットします。	ラップ1から10を選択します。	作動しません。	次のラップタイムを表示します。		
SPEED/ODOモード(走行距離計)	作動しません。	次のモードに切り替わります。	作動しません。	作動しません。		
SPEED/TR1モード(トリップマスター1)	TR1、A1、S1の表示を「0.0」にリセットします。	次のモードに切り替わります。	作動しません。	作動しません。		
SPEED/TR2モード(トリップマスター2)	TR2とA2の値を削除します。	次のモードに切り替わります。	TR2の値を減らします。	TR2の値を減らします。		
TR2(トリップマスター2)の設定	TR2の値を増やします。	TR2の値を増やします。	TR2の値を減らします。	TR2の値を減らします。		設定内容を保存し、設定メニューを閉じます。
SPEED/A1モード(平均速度1)	TR1、A1、S1の表示を「0.0」にリセットします。	次のモードに切り替わります。	機能なし	機能なし		
SPEED/A2モード(平均速度2)	作動しません。	次のモードに切り替わります。	作動しません。	作動しません。		
SPEED/S1モード(ストップウォッチ1)	TR1、A1、S1の表示を「0.0」にリセットします。	次のモードに切り替わります。	機能なし	機能なし		
SPEED/S2モード(ストップウォッチ2)	S2とA2の表示を「0.0」にリセットします。	次のモードに切り替わります。	機能なし	S2をスタートまたはストップします。		

### 7.24 作動機能と条件の一覧表

表示画面	車両が停止している。	メニュー表示可能
SPEED/Hモード(作動時間)	・	
設定メニュー	・	
単位を設定する	・	
時刻を設定する	・	
SPEED/LAPモード(ラップタイム)		・
ラップタイムを表示する	・	

表示画面	車両が停止している。	メニュー表示可能
SPEED/TR1モード(トリップマスター1)		•
SPEED/TR2モード(トリップマスター2)		•
TR2(トリップマスター2)の設定	•	
SPEED/A1モード(平均速度1)		•
SPEED/A2モード(平均速度2)		•
SPEED/S1モード(ストップウォッチ1)		•
SPEED/S2モード(ストップウォッチ2)		•

## 8.1 初めて運転操作を行う際の注意



### 危険

**事故の危険性** 運転能力および判断力が十分でない運転者は、自身および他の方への危険となります。

- アルコール、薬物、薬品などにより運転能力が低下している場合、車両の運転をしないでください。
- 肉体的、精神的に運転能力が低下している場合も、車両の運転をしないでください。



### 警告

**怪我の危険性** 不足および欠陥のある保護服の着用は安全面での危険性を高めます。

- 走行時は必ずヘルメット、ブーツ、手袋、プロテクターが取り付けられたズボンやジャケットなどの保護服を着用してください。
- 損傷等がなく、かつ法規制に従った保護服を常に着用して下さい。



### 警告

**転倒の危険性** 前輪と後輪のトレッドが異なると走行性能に影響を及ぼします。

異なるトレッドのタイヤを使用すると車両のコントロールが大幅に難しくなります。

- 前輪と後輪に同様のトレッドのタイヤが装着されていることを確認してください。



### 警告

**事故の危険性** 不適切な走行スタイルは走行性能に影響を与えます。

- 道路の状況、運転能力に応じた走行速度で運転しましょう。



### 警告

**事故の危険性** 本車両は同乗者を乗せるように設計されていません。

- 同乗者を乗せないで下さい。



### 警告

**事故の危険性** ブレーキシステムは過熱状態では稼動しません。

ブレーキペダルに足をかけたままにすると、ブレーキパッドが常にこすられる状態になります。

- ブレーキを作動しないときはブレーキペダルに足をかけないで下さい。



### 警告

**事故の危険性** 総重量および軸重は走行性能に影響を与えます。

- 最大許容総重量と最大許容軸重を遵守して下さい。



### 警告

**盗難の危険性** 常識のない行動をとる人物は自身および他の方への危険となります。

- エンジン稼働中には決して車両から目を離さないで下さい。
- 権限のない人物が車両に近づかないよう注意してください。



### 参考

運転の際は、過度の騒音で周辺の人々の迷惑にならないよう心がけましょう。

- KTM 正規ディーラーで納車前検査がきちんと行われた事を確認して下さい。  
✓ 納車の際、納車証明書がお客様に手渡されます。
- 初めて運転をする前に、オーナーズマニュアルを全頁よく読んで下さい。
- 操作各部の扱いに慣れて下さい。
- クラッチレバーの基本位置を調整します。 (☞ 頁 95)

## (EXC シリーズ)

- ブレーキレバーの遊びを調節します。 (☞ 頁 99)

## (XC-W シリーズ)

- ブレーキレバーの基本位置を調整します。 (☞ 頁 100)
- ブレーキペダルの基本位置を調整します。 (☞ 頁 105)
- シフトレバーの基本位置を調整します。 (☞ 頁 142)
- 難しい走行に出る前に、まず適切な路面で車両の取り扱いに慣れて下さい。

**i 参考**

オフロードではお互いに助け合えるよう、2台で行動する事をお勧めします。

- 一度、できるだけゆっくり走る練習やスタンディング走行などで、車両の感覚をつかむようにして下さい。
- 自分の能力や経験を超えた、無理なオフロード走行はしないで下さい。
- 走行中は両手でしっかりとハンドルバーを握り、フットレストに両足をのせて下さい。
- 荷物を積む場合は、できるだけ車両の中心にしっかりと固定し、前輪と後輪に均等に重量がかかるように注意して下さい。

**i 参考**

重量のかかり方によって車両の反応が大きく違ってきます。

- 許容最大重量並びに許容最大軸重を守って下さい。

## 規定

最大許容重量	335 kg
前方許容最大軸重	145 kg
最大許容軸重 後輪	190 kg

- スポークの張りを点検します。 (☞ 頁 116)

**i 参考**

スポークの張りを、30分走行した後に点検して下さい。

- 慣らし運転をします。 (☞ 頁 39)

**8.2 慣らし運転をする**

- 慣らし運転の段階では、以下に挙げたエンジン出力を超えないように注意して下さい。

## 規定

エンジンの最大出力	
最初の 3 運転時間まで	< 70 %
最初の 5 運転時間まで	< 100 %

- フルスロットルでの運転は避けて下さい！
- アイドリング回転数は定期的に点検してください。

## 規定

アイドリング回転数	1,400 ... 1,500 rpm
-----------	---------------------

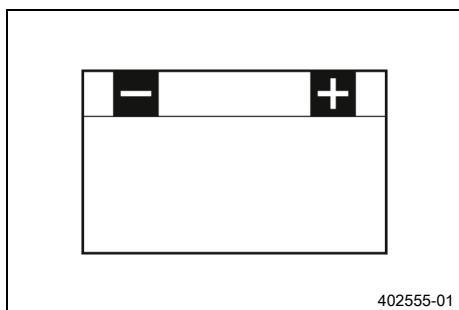
**i 参考**

慣らし運転期間中にアイドリング回転数が変化することがあります。

» アイドリング回転数が一定でない:

- アイドリング回転数を調節します。 (☞ 頁 139)

## 8.3 低温でのリチウムイオンバッテリーの始動出力



402555-01

リチウムイオンバッテリーは鉛バッテリーより遥かに軽量で、自己放電が少なく、15 °C 以上 (60 °F) の気温での始動出力が大きい点が特徴です。気温がそれ以下の場合、リチウムイオンバッテリーの始動時の出力は鉛バッテリーのそれよりも低くなります。

何度も始動をしなければならない場合もあります。そのためにはスタートキーを 5 秒間押し、再度行う場合には 30 秒間待ちます。この待ち時間は発生した熱をリチウムイオンバッテリー内で分配し、12V バッテリーに損傷を与えないために必要です。

充電されたリチウムイオンバッテリーが 15 °C (60 °F) 以下の気温でセルフスターターモーターをしっかりと起動しない、または弱い場合は、故障ではなく、始動出力 (電流出力) を向上させるために内側を暖機します。

暖機に伴い、始動出力は向上します。

## 8.4 過酷な環境での使用に備えて車両の準備をする

### 参考

砂地やぬかるみ、濡れたコースやオフロードなど、過酷な環境で車両を使用すると、駆動装置やブレーキシステム、サスペンションなどで部品の磨耗を大幅に早める原因となります。その結果、次回サービス実施時期に達する前に点検や部品の交換が必要になることがあります。

- エアフィルターとエアフィルターケースを清掃します。 (☞ 頁 82)

### 参考

エアフィルターは約 30 分ごとに点検して下さい。

- 電気プラグに水分が付着していないか、プラグが腐食していないか、きちんと接続されているかを確認します。  
» 水分の付着、腐食、損傷が見られる:
  - プラグを清掃して乾かすか、必要に応じて交換します。

#### 過酷な使用環境:

- 乾燥した砂地での走行。 (☞ 頁 40)
- 濡れた砂地での走行。 (☞ 頁 42)
- 濡れた道路や泥道での走行。 (☞ 頁 43)
- 高温または低速での走行。 (☞ 頁 43)
- 低温や雪上での走行。 (☞ 頁 44)

## 8.5 車両を乾燥した砂地での走行に備える



- ラジエーターキャップを点検します。

ラジエーターキャップの値	1.8 bar
--------------	---------

» 記載されている値が規定通りになっていない:

**警告**

**火傷の危険性** クーラントは運転中、非常に熱く、圧力がかかっています。

- エンジンまたは冷却システムが作動温度状態にある場合、ラジエーター、冷却管その他冷却システムの構成部品を開けないでください。
- 冷却システムとエンジンを冷ましてから、ラジエーター、冷却管その他冷却システムの構成部品を開けてください。
- 火傷した場合、速やかにその部位をぬるま湯に浸して下さい。

- ラジエーターキャップを交換します。

- エアフィルター防塵カバーを取り付けます。

**[エアフィルター防塵カバー (79006920000)]**

**参考**

KTM PowerPartsの組立説明書に従って下さい。



M01104-01



M01105-01

- エアフィルター防砂カバーを取り付けます。

**[エアフィルター防砂カバー (79006922000)]**

**参考**

KTM PowerPartsの組立説明書に従って下さい。



600868-01

- チェーンを清掃します。

**[チェーン洗浄剤 (☞ 頁 173)]**

- スチール製のリアスプロケットを取り付けます。

- チェーンをグリースアップして下さい。

**[汎用オイルスプレー (☞ 頁 174)]**

- ラジエーターのフィンを清掃します。

- 曲がっているラジエーターのフィンを慎重に直します。

**条件**

砂地での定期的な使用

- ピストンは 10 時間使用する度に交換して下さい。

## 8.6 車両を濡れた砂地での走行に備える



- ラジエーターキャップを点検します。

ラジエーターキャップの値	1.8 bar
--------------	---------

» 記載されている値が規定通りになつてない:



### 警告

**火傷の危険性** クーラントは運転中、非常に熱く、圧力がかかっています。

- エンジンまたは冷却システムが作動温度状態にある場合、ラジエーター、冷却管その他冷却システムの構成部品を開けないでください。
- 冷却システムとエンジンを冷ましてから、ラジエーター、冷却管その他冷却システムの構成部品を開けてください。
- 火傷した場合、速やかにその部位をぬるま湯に浸して下さい。

- ラジエーターキャップを交換します。

- エアフィルター防水カバーを取り付けます。

エアフィルター防水カバー (79006921000)
----------------------------



### 参考

KTM PowerPartsの組立説明書に従つて下さい。



- チェーンを清掃します。

チェーン洗浄剤 (☞ 頁 173)
-------------------

- スチール製のリアスプロケットを取り付けます。

- チェーンをグリースアップして下さい。

汎用オイルスプレー (☞ 頁 174)
---------------------

- ラジエーターのフィンを清掃します。

- 曲がっているラジエーターのフィンを慎重に直します。

### 条件

砂地での定期的な使用

- ピストンは 10 時間使用する度に交換して下さい。

## 8.7 車両を濡れた道路や泥道での走行に備える



M01106-01

- エアフィルター防水カバーを取り付けます。

**エアフィルター防水カバー (79006921000)**



### 参考

KTM PowerPartsの組立説明書に従って下さい。



600868-01

- スチール製のリアスプロケットを取り付けます。
- 洗車をします。(☞ 頁 152)
- 曲がっているラジエーターのフィンを慎重に直します。

## 8.8 車両を高温または低速走行に備える



M01129-01

- ラジエーターキャップを点検します。

**ラジエーターキャップの値** | 1.8 bar

» 記載されている値が規定通りになっていない:



### 警告

**火傷の危険性** クーラントは運転中、非常に熱く、圧力がかかっています。

- エンジンまたは冷却システムが作動温度状態にある場合、ラジエーター、冷却管その他冷却システムの構成部品を開けないでください。
- 冷却システムとエンジンを冷ましてから、ラジエーター、冷却管その他冷却システムの構成部品を開けてください。
- 火傷した場合、速やかにその部位をぬるま湯に浸して下さい。

- ラジエーターキャップを交換します。

- 走行道路に応じ、二次減速比を変更します。



### 参考

二次減速比が小さすぎるとクラッチの作動回数が増え、ミッションオイルがすぐに加熱してしまいます。

- チェーンを清掃します。

**チェーン洗浄剤 (☞ 頁 173)**

- ラジエーターのフィンを清掃します。

- 曲がっているラジエーターのフィンを慎重に直します。



600868-01

- クーラントのレベルを点検します。(☞ 頁 132)

### 8.9 車両を低温または雪道に備える



- エアフィルター防水カバーを取り付けます。

エアフィルター防水カバー (79006921000)

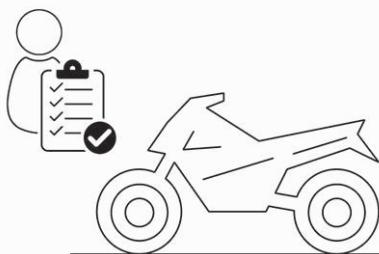
**i 参考**

KTM PowerPartsの組立説明書に従って下さい。

## 9.1 運転操作の前に必ず行う点検・メンテナンス作業

### 参考

走行前には必ず車両の状態を点検し、安全に操作できることを確認して下さい。  
運転の際は車両が技術的に完璧な状態でなければなりません。



- ミッションオイルのレベルを点検します。 (☞ 頁 149)
- 電装系部品を点検します。
- 前輪ブレーキのブレーキフルードのレベルを点検します。 (☞ 頁 101)
- 後輪ブレーキのブレーキフルードのレベルを点検します。 (☞ 頁 106)
- 前輪ブレーキのブレーキパッドを点検します。 (☞ 頁 102)
- 後輪ブレーキのブレーキパッドを点検します。 (☞ 頁 108)
- ブレーキシステムの機能を点検します。
- クーラントのレベルを点検します。 (☞ 頁 132)
- チェーンの汚れを点検します。 (☞ 頁 88)
- チェーン、リアスプロケット、フロントスプロケット、チェーンガイドを点検します。 (☞ 頁 91)
- チェーンの遊びを点検します。 (☞ 頁 89)
- タイヤの状態を点検します。 (☞ 頁 115)
- タイヤ空気圧を点検します。 (☞ 頁 116)
- スポークの張りを点検します。 (☞ 頁 116)

### 参考

スポークの張りが適切でない場合には走行安定性に大きく影響を及ぼすため、スポークの張りは定期的に点検しなければなりません。

- フォークレッグのダストシールを清掃します。 (☞ 頁 66)
- フォークレッグで工ア抜きをします。 (☞ 頁 65)
- 工アフィルターを点検します。
- 操作各部が正しく調節されているか、スムーズに操作できるかを点検します。
- 全てのスクリュー、ナット、ホースクランプがきちんと締められているか、定期的に点検します。
- 燃料の残量を確認します。
- 2ストロークオイルのレベルを点検します。 (☞ 頁 144)

## 9.2 車両を始動する



### 危険

**中毒の危険性** 排気ガスは毒性があり、意識不明や死亡の原因となる恐れがあります。

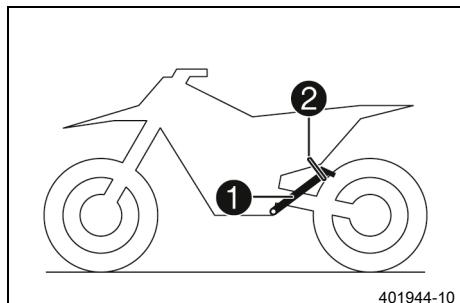
- エンジンを稼動する際は十分に換気が行えるように常に確認してください。
- 閉め切った室内でエンジンを始動したり、稼動状態にする場合は、適切な排気ガス抽出装置を使用してください。

## 9 運転上の注意事項

### 情報

**エンジン損傷** 冷えた状態でのエンジンを高回転させるのは、エンジンの耐久性に悪影響を与えます。

- 常に低回転数でエンジンを暖機してください。



- 車両を立ててスタンド①を上げ、ゴムバンド②でサイドスタンドを固定します。

- ギアをニュートラルに入れます。

#### 条件

外気温: < 10 °C

- チョークノブをいっぱいに引き、最大  $\frac{1}{4}$  回転だけ回します。



#### 参考

エンジンが作動温度に達している場合は、チョークノブをオフにして下さい。

- スタートキーを押します。



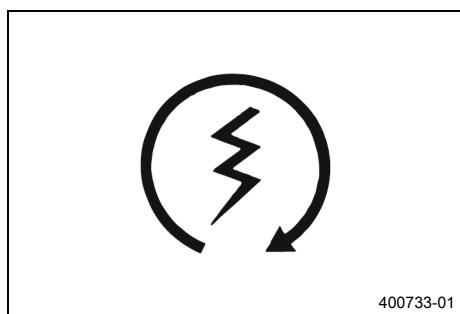
#### 参考

スロットルは開かないで下さい。

スタートキーは 5 秒以上押し続けないで下さい。再度試みるまで最低 30 秒は間隔をおいて下さい。

気温 15 °C (60 °F) ではリチウムイオンバッテリーを暖機し、始動出力を向上するために、何度も始動しなければならない場合があります。

エンジン始動中、不具合インジケーターランプが点灯します。



400733-01

## 9.3 発進



#### 参考

走行前に照明を点灯して下さい。これにより、他の車から認識されやすくなります。

走行中はサイドスタンドを上に閉じ、ゴムベルトで固定して下さい。

- クラッチレバーを握り、ギアを 1 速に入れ、クラッチレバーをゆっくりと離しながら慎重にスロットルを開いていきます。

## 9.4 シフト操作と走行



#### 警告

**事故の危険性** エンジンが高回転中にシフトダウンすると後輪がロックされ、エンジンが過回転します。

- エンジン回転数が高いままシフトダウンする事は避けて下さい。

**警告**

**エンジン損傷** オイルタンクが 2 ストロークオイルで充填されていない場合、エンジンは潤滑されません。

2 ストロークオイルのオイルレベル警告ランプが点灯しても燃料タンク残量分を走行することができます。

- オイルレベル警告ランプが点灯したら、その時点からの最高走行距離は燃料タンク残量分で走れる距離です。
- 燃料を給油する前に 2 ストロークオイルを充填してください。
- 2 ストロークオイルのホースが抜かれた場合、または 2 ストロークオイルタンクが空になってしまった場合、オイルポンプを誘発してください。

**参考**

運転中に異常な音がする場合にはすぐに停止し、エンジンを切り、KTM 正規ディーラーに連絡して下さい。

1速は発進または登り坂で使用するギアです。

- 状況(勾配や走行状況など)に応じてシフトアップできます。シフトアップするにはスロットルを閉じながらクラッチレバーを握り、次のギアに入れ、クラッチレバーを離しながらスロットルを開きます。
- チョーク機能が作動している場合、エンジンが暖まつたらチョークボタンを解除して下さい。
- スロットルグリップを全開にして最高速度に達したら、スロットルを  $\frac{3}{4}$ まで戻します。ほとんど減速する事なく燃費を大幅に抑える事ができます。
- エンジンが消費できる分だけの燃料を供給する事が大切です。急激にスロットルを開くと燃費が悪くなります。
- シフトダウンするにはブレーキをかけながらスロットルを閉じます。
- クラッチレバーを握り、低いギアに入れ、クラッチレバーをゆっくりと離しながらスロットルを開くか、再度シフトチェンジします。
- しばらくアイドリングや停止状態が続く場合は、エンジンを停止します。

規定

$\geq 2 \text{ min}$

- 長く、また頻繁に半クラッチを使用する事は避けて下さい。これにより、ミッションオイルが熱せられ、エンジン並びに冷却システム過熱の原因となります。
- 高回転・半クラッチは避け、エンジン回転数を抑えた走行をしましょう。

## 9.5 ブレーキをかける

**警告**

**事故の危険性** ブレーキを強くかけすぎると車輪がロックします。

- 走行状態や路面状況に応じて適切にブレーキをかけて下さい。

**警告**

**事故の危険性** 前輪または後輪ブレーキで圧点が安定していない場合、ブレーキ性能が低下します。

- ブレーキシステムを点検し、問題を解決するまでは車両を走行させないでください。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)

# 9 運転上の注意事項



## 警告

**事故の危険性** 水分や汚れはブレーキシステムに影響を及ぼします。

- ブレーキパッドとブレーキディスクを乾燥させ汚れを落とすために何度も慎重にブレーキをかけてください。

- 砂地、雨で濡れた地面やスリップしやすい場所では、主に後輪のブレーキを作動するようにします。
- ブレーキをかけるプロセスは常にカーブが始まる前までに終了させます。その際、速度に合わせてシフトダウンして下さい。

## 9.6 停止と駐車



## 警告

**盗難の危険性** 常識のない行動をとる人物は自身および他の方への危険となります。

- エンジン稼働中には決して車両から目を離さないでください。
- 権限のない人物が車両に近づかないよう注意してください。



## 警告

**火傷の危険性** 一部の部品は運転中非常に熱くなります。

- 車両部品が冷めるまで排気装置、ラジエーター、エンジン、ダンパー、ブレーキシステムなどの部品には触らないでください。
- 車両部品を十分に冷ましてから作業を実行してください。

## 情報

**部品の損傷** 誤った方法で駐車を行った場合、車両が破損する恐れがあります。

車両が動いたり倒れたりした場合、大きな破損につながる恐れがあります。

車両を立てる部品はその車両重量のみを考慮して設計されています。

- 車両は安定した平らな地面の上に立てます。
- 車両がスタンド一本で駐車されている場合、車両に誰も乗っていないことを確かめて下さい。

## 情報

**火事の危険** 高温になった車両部品は火傷や爆発の危険となります。

- 可燃性がある、または爆発の危険がある物付近に車両を設置しないでください。
- 車両を十分に冷ましてから、車両にカバーをかけてください。

- 車両にブレーキをかけます。

- ギアをニュートラルに入れます。

**(EXC シリーズ)**

- エンジンがアイドリング回転数に達したら、エンジンが止まるまでOFFスイッチを押し続けます。

**(XC-W シリーズ)**

- エンジンがアイドリング回転数に達したら、エンジンが止まるまでOFFスイッチを押し続けます。

- 車両を安定した地面の上に立てます。

## 9.7 輸送

### 情報

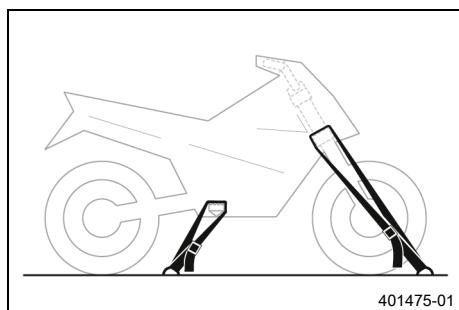
**損傷の危険性** 駐車中の車両が動き出たり倒れる恐れがあります。

- 車両は安定した平らな地面の上に立てます。

### 情報

**火事の危険** 高温になった車両部品は火傷や爆発の危険となります。

- 可燃性がある、または爆発の危険がある物付近に車両を設置しないでください。
- 車両を十分に冷ましてから、車両にカバーをかけてください。



- エンジンを停止します。
- ラッシングベルトが適切な固定器具で、車両が倒れたり動いたりしないよう固定します。

## 9.8 燃料を給油する



### 危険

**火事の危険** 燃料は可燃性です。

フューエルタンク内の燃料は熱により膨張し、溢れ出てしまうことがあります。

- 炎や火のついたタバコの近くで車両に給油しないでください。
- 給油の際にはエンジンを停止してください。
- 特に車両部品に燃料がこぼれることがないように注意してください。
- こぼれた燃料はすぐに拭き取ってください。
- 給油の際には燃料給油に関する注意事項を参照してください。



### 警告

**中毒の危険性** 燃料は毒性で、健康に害を及ぼします。

- 燃料が皮膚、目、衣服に接触しないよう注意してください。
- 燃料を飲み込んでしまった場合、即座に受診してください。
- 気化した燃料を吸い込まないでください。
- 接触した部分の肌は即座に多量の水で洗ってください。
- 燃料が目にはいった場合、速やかに水で洗い落とし、受診してください。
- 燃料が衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。

### 情報

**部品の損傷** 低品質の燃料を使用すると燃料フィルターが早期に詰まってしまいます。

国や地域によっては入手可能な燃料の品質が不十分であったり、また多くの不純物が混入していることがあります。その結果燃料システムで問題を引き起こす事があります。

- 指定された規格に適合し不純物の少ない燃料のみを使用してください。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)

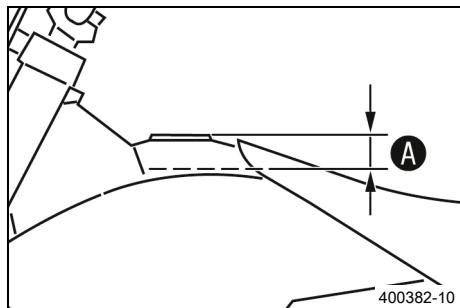
# 9 運転上の注意事項



## 情報

**環境汚染** 燃料の不適切な取り扱いは、環境汚染の原因となります。

- 燃料を地下水、土壌、下水道に流してはいけません。



- フィラーキャップを開けます。(図頁 19)

- **A**で示した範囲を超えないように注意してフューエルタンクに燃料を注ぎます。

### 規定

寸法 <b>A</b>	35 mm	
フューエルタンク総容量(約)	9 L	無鉛ハイオクガソリン (ROZ 95) (図頁 172)



## 参考

混合燃料を給油しないで下さい。

- フィラーキャップを閉めます。(図頁 20)

## 9.9 2ストロークオイルを給油する



### 警告

**エンジン損傷** オイルタンクが2ストロークオイルで充填されていない場合、エンジンは潤滑されません。

2ストロークオイルのオイルレベル警告ランプが点灯しても燃料タンク残量分を走行することができます。

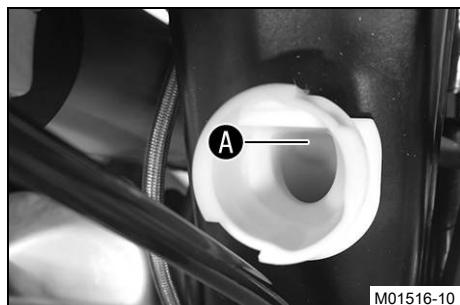
- オイルレベル警告ランプが点灯したら、その時点からの最高走行距離は燃料タンク残量分で走れる距離です。
- 燃料を給油する前に2ストロークオイルを充填してください。
- 2ストロークオイルのホースが抜かれた場合、または2ストロークオイルタンクが空になってしまった場合、オイルポンプを誘発してください。

- 2ストロークオイルタンクのフィラーキャップを開けます。(図頁 20)

- 2ストロークオイルを注入口の下端**A**まで注ぎます。

### 規定

分離潤滑方式に適した2ストロークオイルのみを使用してください。
---------------------------------



- 2ストロークオイルタンクのフィラーキャップを閉めます。(図頁 21)

## 10.1 据足情報

必須項目や推奨項目の作業実施により発生した、これら項目以外の作業については、別途注文・請求となります。現地における使用環境によってはサービス頻度が異なってくる場合もあります。技術改良が行われていく中で、個々のサービス頻度および範囲が変わってくることがあります。最終的なサービスプランは KTM Dealer.net に表示されています。KTM 正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。

## 10.2 必須作業

	競技走行では 10時間走行毎	40時間走行ごと	20時間走行ごと	5時間走行後	1時間走行後
KTM 診断ツールでエラーメモリーを解読します。	○ ○	● ●	● ●	● ●	● ●
電装系部品の機能を点検します。	○	●	●	●	●
12V バッテリーを点検し、充電します。			● ●	● ●	● ●
前輪ブレーキのブレーキパッドを点検します。 (  頁 102)			● ●	● ●	● ●
後輪ブレーキのブレーキパッドを点検します。 (  頁 108)			● ●	● ●	● ●
ブレーキディスクを点検します。 (  頁 100)			● ●	● ●	● ●
ブレーキホースに損傷や漏れがないかを点検します。			● ●	● ●	● ●
後輪ブレーキのブレーキフルードのレベルを点検します。 (  頁 106)			● ●	● ●	● ●
ブレーキペダルの遊びを点検します。 (  頁 105)			● ●	● ●	● ●
フレームを点検します。  (  頁 94)			● ●	● ●	● ●
スイングアームを点検します。  (  頁 94)			● ●	● ●	● ●
スイングアームのペアリングのガタを点検します。			● ●		
ショックアブソーバーのピボットペアリングのガタを点検します。			● ●		
タイヤの状態を点検します。 (  頁 115)	○	●	●	●	●
タイヤ空気圧を点検します。 (  頁 116)	○	●	●	●	●
ホイールペアリングのガタを点検します。			● ●	● ●	● ●
ハブを点検します。			● ●	● ●	● ●
リムの歪みを点検します。	○	●	●		
スポークの張りを点検します。 (  頁 116)	○	●	●	●	●
チェーン、リアスプロケット、フロントスプロケット、チェーンガイドを点検します。 (  頁 91)			● ●	● ●	● ●
チェーンの遊びを点検します。 (  頁 89)	○	●	●	●	●
全ての可動部品 (サイドスタンド、ハンドレバー、チェーンなど)をグリースアップし、これら部品がスムーズに動くかを点検します。			● ●	● ●	● ●
油圧式クラッチのフルードレベルを点検・調節します。 (  頁 95)			● ●	● ●	● ●
前輪ブレーキのブレーキフルードのレベルを点検します。 (  頁 101)			● ●	● ●	● ●
ブレーキレバーの遊びを点検します。 (  頁 99)			● ●	● ●	● ●
ステアリングヘッドペアリングの遊びを点検します。 (  頁 76)	○	●	●		
スパークプラグとスパークプラグのコネクターを交換します。				●	
ダイヤフラムケース、ダイヤフラム、インテークフランジを点検します。			● ●		
ミッションオイルを交換します。  (  頁 150)	○		●		
ホース類 (燃料、クーラント、エア抜き、排水などの各ホース)とワイヤーブーツの全てで、ひびや漏れがないか、正しく取り回されているかを点検します。	○	●	●	●	●

# 10 サービスプラン

	競技走行では 10 時間走行毎	40 時間走行ごと	20 時間走行ごと	5 時間走行後	1 時間走行後
不凍液とクーラントのレベルを点検します。 (図 頁 131)	○	●	●	●	●
ケーブルに損傷がないか、そして配線折れがないか点検します。 ↗			●	●	●
ワイヤーが損傷していないか、折れがなく配線・調節されているかを点検します。	○	●	●	●	●
エアフィルターとエアフィルターケースを清掃します。 ↗ (図 頁 82)			●	●	●
メインサイレンサーのグラスファイバーを交換します。 ↗ (図 頁 84)			●	●	
フロントフォークの整備を行います。 ↗					●
ショックアブソーバーの整備を行います。 ↗					●
簡単に確認することができる、安全性に関するスクリューとナットがきちんと締められているかを点検します。 ↗	○	●	●	●	●
燃料スクリーンを交換します。 ↗ (図 頁 143)	○	●	●	●	●
燃圧を点検します。 ↗			●	●	●
ヘッドライトの設定を点検します。 (図 頁 128)	○	●	●	●	●
アイドリング回転数を点検します。 ↗			●	●	●
最終確認: 車両が安全に操作できることを確認し、試験走行を行います。 ↗	○	○	●	●	●
試験走行後に KTM 診断ツールでエラーメモリーを解読します。 ↗	○	○	●	●	●
KTM Dealer.netでサービス登録を行います。 ↗	○	○	●	●	●

- 一度限りの実施時期
- 定期的な実施時期

## 10.3 推奨作業

	競技走行では 40 時間走行毎	競技走行では 10 時間走行毎	48 力月毎	12 力月毎	80 時間走行ごと	40 時間走行ごと	20 時間走行後	10 時間走行後
前輪ブレーキのブレーキフルードを交換します。 ↗				●	●			
後輪ブレーキのブレーキフルードを交換します。 ↗				●	●			
油圧式クラッチのフルードを交換します。 ↗ (図 頁 96)				●	●			
ステアリングヘッドのペアリングをグリスアップします。 ↗ (図 頁 77)				●	●			
圧力センサーのホースを清掃します。 ↗				●	●	●		
フロントフォークの整備を行います。 ↗	○							
ショックアブソーバーの整備を行います。 ↗	○							
Eスタートーを点検します。 ↗			●					●
燃料フィルターを交換します。 ↗			●					●
ピストンを交換し、シリンダーを点検します。 ↗			●					●
オイルポンプを交換し、オイルタンク内のオイルスクリーンを清掃します。 ↗			●					

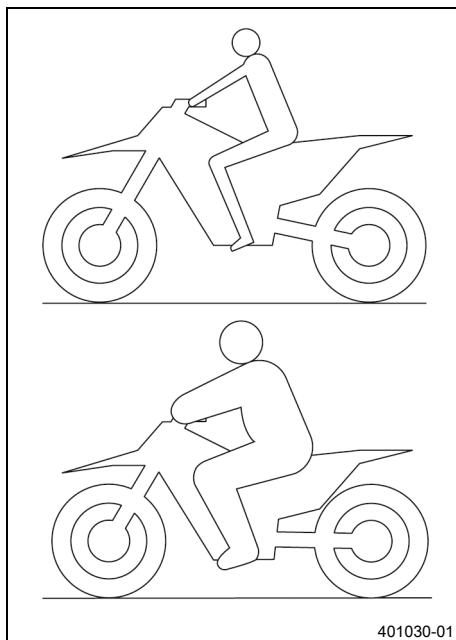
	競技走行では 40 時間走行毎					
	競技走行では 10 時間走行毎					
		48 力月毎				
		12 力月毎				
	80 時間走行ごと					
	40 時間走行ごと					
	20 時間走行後					
	10 時間走行後					
○ オイルタンクのオイルスクリーンを清掃します。 		●				
○ 圧力センサーのカバーキャップを清掃します。 		●	●		●	●
○ クーラントを交換します。  (  頁 135 )				●		
○ エンジン整備 ( 小 ) を実施します。 ( 排気デバイスが正しく機能するか、スムーズに動くか点検します。クラッチを点検します。 ) 		●	●		●	●
○ エンジン取り外し / 取り付けを含むエンジン整備 ( 大 ) を実施します。 ( コンロッド、コンロッドベアリング、クランクピンを交換します。圧力センサーのホースコネクターを清掃します。ギアとシフトを点検します。エンジンのベアリングを全て交換します。 ) 		●			●	

- 一度限りの実施時期
- 定期的な実施時期

## 11.1 シャーシの基本設定を運転者の体重に応じて確認する

### i 参考

シャーシの基本設定はまずショックアブソーバーを、次にフロントフォークを調節して下さい。



- 最適な走行性能を実現し、フロントフォーク、ショックアブソーバー、スイングアーム、フレームを損傷させないため、サスペンション各部品の基本設定を運転者の体重に合わせる事が必要です。

- KTM オフロードモーターサイクルは納車時、標準体重（保護服を完全に着用した状態）に合わせて設定してあります。

#### 規定

運転者の標準体重	75 ... 85 kg
----------	--------------

- 運転者の体重がこの範囲外の場合、サスペンション各部品の基本設定を適宜変更する必要があります。

- 偏差が小さい場合はスプリングプリロードの調節で対応可能ですが、偏差が大きい場合は対応するスプリングの取付けが必要となります。

## 11.2 ショックアブソーバーのコンプレッションダンパー

ショックアブソーバーのコンプレッションダンパーは高速・低速の2つの領域に分けられています。

ここでいう高速・低速は、後輪のサスペンションが圧縮する際の速度を示しており、車両の走行速度とは関係がありません。

高速コンプレッションレベル設定は、ジャンプ後の着地など、後輪のサスペンションが素早く縮む際にその効果を発揮します。

低速コンプレッションレベル設定は、緩やかな凹凸のある道の走行など、後輪のサスペンションがゆっくりと縮む際にその効果を発揮します。

これら2つの範囲は別々に設定できますが、低速設定と高速設定の切り替えは流動的に行われます。そのため、高速範囲のコンプレッションレベルで設定を変更すると、低速範囲の設定にも影響を及ぼします。逆も同様です。

## 11.3 ショックアブソーバーのコンプレッションダンパー低速を調節する



### 注意

人体への危険 ショックアブソーバーの部品は不適切に分解した場合、様々な方向に動いてしまいます。

ショックアブソーバーには高圧縮窒素が充填されています。

- 注意事項に従ってください。（お近くのKTM正規ディーラーにお問い合わせ下さい。）



### 参考

低速コンプレッションレベル設定は、ショックアブソーバーが低速から通常速度で圧縮する際にその効果を発揮します。



S04870-10

- ドライバーで調節スクリュー①を、最後のカチッというラッヂ音が感じられるまで時計回りに回します。

**i 参考**

ナット留め②は緩めないで下さい！

- ショックアブソーバーのタイプに応じた回数カチッとクリックするよう、時計と反対回りに回します。

規定

コンプレッションダンパー低速	
コンフォート	18 クリック
標準	15 クリック
スポーツ	12 クリック

**i 参考**

時計回りに回すとダンパー効果を高め、逆方向に回すとこれを低減します。

## 11.4 ショックアブソーバーのコンプレッションダンパー高速を調節する



**注意**

**人体への危険** ショックアブソーバーの部品は不適切に分解した場合、様々な方向に動いてしまいます。ショックアブソーバーには高压縮窒素が充填されています。

- 注意事項に従ってください。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



**参考**

高速コンプレッションレベル設定は、ショックアブソーバーが高速で圧縮する際にその効果を発揮します。



S04870-11

- 調節スクリュー①をスパナで時計回りに最後まで回し切ります。

**i 参考**

ナット留め②は緩めないで下さい！

- ショックアブソーバーのタイプに応じた回数、時計と反対回りに回します。

規定

コンプレッションダンパー高速	
コンフォート	2.5 回転
標準	2 回転
スポーツ	1 回転

**i 参考**

時計回りに回すとダンパー効果を高め、逆方向に回すとこれを低減します。

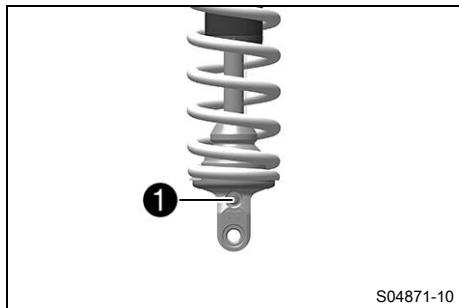
## 11.5 ショックアブソーバーのリバウンドダンパーを調節する



### 注意

**人体への危険** ショックアブソーバーの部品は不適切に分解した場合、様々な方向に動いてしまいます。ショックアブソーバーには高圧縮窒素が充填されています。

- 注意事項に従ってください。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



- 調節スクリュー①を、最後のカチッというクリックを感じられるまで時計回りに回します。
- ショックアブソーバーのタイプに応じた回数カチッとクリックするよう、時計と反対回りに回します。

#### 規定

リバウンドダンパー	
コンフォート	18 クリック
標準	15 クリック
スポーツ	12 クリック



### 参考

時計回りに回すとスプリングがリバウンドする際のダンパー効果を高め、逆方向に回すとこれを低減します。

## 11.6 後輪に負荷をかけない状態で寸法を測定する

#### 準備作業

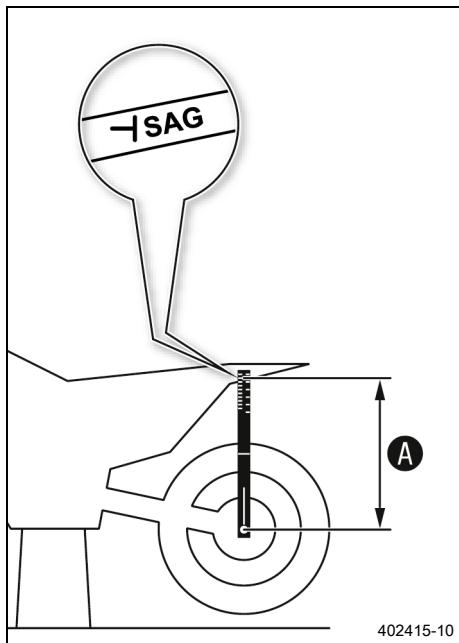
- 車両をリフトスタンドでジャッキアップします。(☞ 頁 65)

#### 主な作業

- サグ測定定規を後輪アクスルに合わせ、後輪フェンダーのマーキングSAGまでの距離を測定します。

サグ測定定規 (00029090100)
サグ測定定規用ボルト (00029990010)

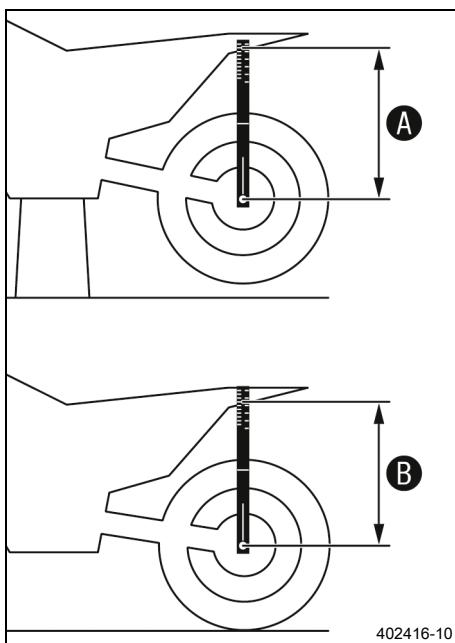
- 測定値を寸法Aとして書きとめます。



#### その後の作業

- 車両をリフトスタンドから降ろします。(☞ 頁 65)

### 11.7 ショックアブソーバーの空車サグを点検する



- 後輪に負荷をかけない状態で寸法**A**を測定します。  
( 頁 56)
- 誰かに車両を垂直に支えてもらいます。
- あらためて、サグ測定定規で後輪アクスルと後輪フェンダーのマーキングSAGの距離を測定します。
- 測定値を寸法**B**として書きとめます。



#### 参考

空車サグとは値**A**と値**B**の差を示します。

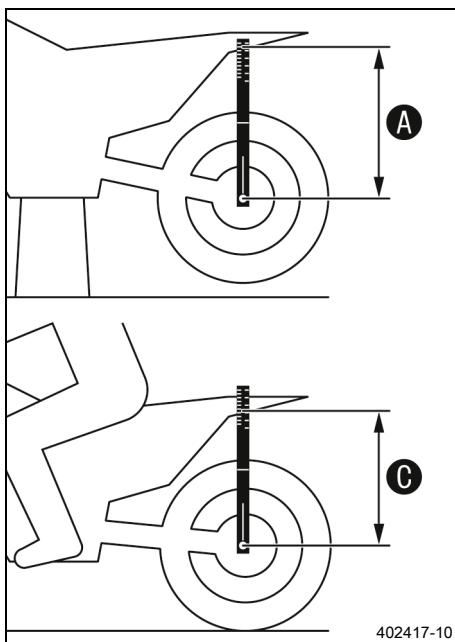
- 空車サグを確認します。

空車サグ	37 mm
------	-------

» 空車サグが規定値より大きいまたは小さい:

- ショックアブソーバーのスプリングプリロードを調節します。🔧 ( 頁 58)

### 11.8 ショックアブソーバーのライディングサグを点検する



- 後輪に負荷をかけない状態で寸法**A**を測定します。  
( 頁 56)
- 誰かに車両を支えてもらい、運転者が保護服を完全着用の上、通常のライディングポジション(両足をフットレストにのせた状態)で車両に乗り、身体を上下に何回か動かします。  
✓ 後輪サスペンションの位置が安定します。
- もう一人が改めてサグ測定定規で後輪アクスルと後輪フェンダーのマーキングSAGまでの距離を測定します。
- 測定値を寸法**C**として書きとめます。



#### 参考

ライディングサグとは値**A**と値**C**の差を示します。

- ライディングサグを確認します。

ライディングサグ	110 mm
----------	--------

» ライディングサグの値が規定通りになっていない:

- ライディングサグを調節します。🔧 ( 頁 59)

## 11.9 ショックアブソーバーのスプリングプリロードを調節する



### 注意

**人体への危険** ショックアブソーバーの部品は不適切に分解した場合、様々な方向に動いてしまいます。ショックアブソーバーには高圧縮窒素が充填されています。

- 注意事項に従ってください。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



### 参考

スプリングプリロードを変更する前に、スプリング長を計測するなどして現在の設定状態を書きとめておいて下さい。

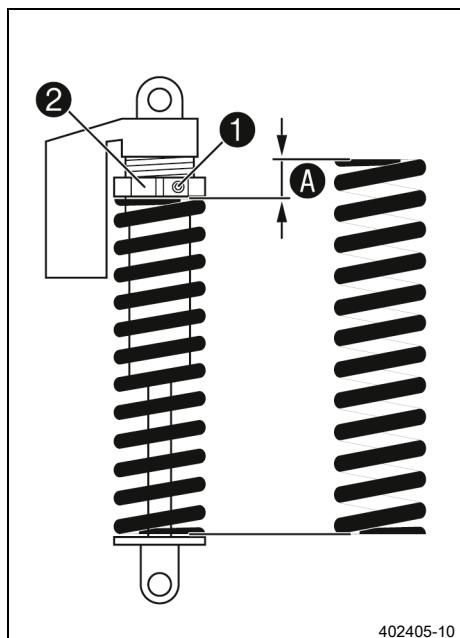
#### 準備作業

- 車両をリフトスタンドでジャッキアップします。(☞ 頁 65)
- ショックアブソーバーを取り外します。☛(☞ 頁 79)
- ショックアブソーバーを取り外した状態で念入りに清掃します。

#### 主な作業

- スクリュー①を緩めます。
- 調節リング②を回し、スプリングを完全に緩めます。

フックレンチ (90129051000)



### 参考

スプリングの張りを緩めることができない場合は、スプリング長の測定のためにスプリングを取り外さなければなりません。

- 緩めた状態でスプリングの全長を測ります。
- 調節リング②を回し、スプリングを A で規定された分だけ縮めます。

#### 規定

スプリングプリロード | 9 mm



### 参考

空車サグおよびライディングサグに応じて、規定値より大きいまたは小さいスプリングプリロードの設定が必要になる事もあります。

- スクリュー①をしっかりと締めます。

#### 規定

ショックアブソーバー調節リング用スクリュー	M5	5 Nm
-----------------------	----	------

#### その後の作業

- ショックアブソーバーを取り付けます。☛(☞ 頁 79)
- 車両をリフトスタンドから降ろします。(☞ 頁 65)

## 11.10 ライディングサグを調節する

### 準備作業

- 車両をリフトスタンドでジャッキアップします。 (☞ 頁 65)
- ショックアブソーバーを取り外します。 (☞ 頁 79)
- ショックアブソーバーを取り外した状態で念入りに清掃します。



B00292-10

### 主な作業

- 適切なスプリングを選び、これを取り付けます。

#### 規定

スプリング係数	
運転者の体重: 65 ... 75 kg	57 ... 63 N/mm
運転者の体重: 75 ... 85 kg	60 ... 66 N/mm
運転者の体重: 85 ... 95 kg	63 ... 69 N/mm



### 参考

ばね定数はスプリングの外側に記載されています。

### その後の作業

- ショックアブソーバーを取り付けます。 (☞ 頁 79)
- 車両をリフトスタンドから降ろします。 (☞ 頁 65)
- ショックアブソーバーの空車サグを点検します。 (☞ 頁 57)
- ショックアブソーバーのライディングサグを点検します。 (☞ 頁 57)
- ショックアブソーバーのリバウンドダンパーを調節します。 (☞ 頁 56)

## 11.11 フロントフォークの基本設定を確認する



### 参考

様々な理由により、フロントフォークでは正確なライディングサグを特定する事ができません。



401000-01

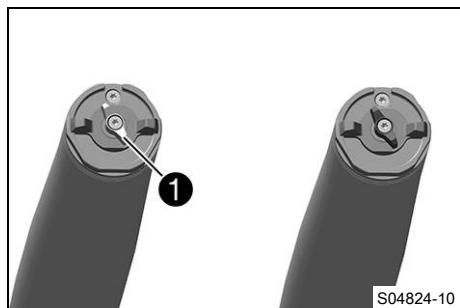
- ショックアブソーバーと同様、運転者体重の偏差が小さい場合はスプリングのプリロードで調節可能です。
- フロントフォークがしばしば最後まで沈み切ってしまう(スプリングが圧縮する際、底を強打する)ような場合には、より強力なスプリングを取り付け、フロントフォークやフレームを損傷しないようにする必要があります。
- 長時間走行後フロントフォークが通常異常に硬く感じられる場合、フォークレッグの空気を抜く必要があります。

# 11 シャーシを調整する

## 11.12 フロントフォークのコンプレッションダンパーを調節する

### i 参考

油圧式コンプレッションダンパーはフロントフォークのスプリングの縮み方を調節します。



- 白い調節部品①を時計回りに最後まで回しります。

### i 参考

調節部品①は左のフォークレッグの上端にあります。コンプレッションダンパーは左のフォークレッグCOMP(白い調節部品)に設置されています。リバウンドダンパーは右のフォークレッグREB(赤い調節部品)に設置されています。

- フロントフォークのタイプに応じた回数カチッとクリックするよう、時計と反対回りに回します。

規定

コンプレッションダンパー	
コンフォート	18 クリック
標準	15 クリック
スポーツ	12 クリック

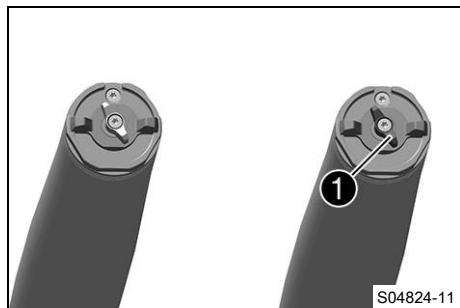
### i 参考

時計回りに回すとスプリングが圧縮する際のダンパー効果を高め、逆方向に回すとこれを低減します。

## 11.13 フロントフォークのリバウンドダンパーを調節する

### i 参考

油圧式リバウンドダンパーはフロントフォークのスプリングの伸び方を調節します。



- 赤い調節部品①を時計回りに最後まで回しります。

### i 参考

調節部品①は右のフォークレッグの上端にあります。リバウンドダンパーは右のフォークレッグREB(赤い調節部品)に設置されています。コンプレッションダンパーは左のフォークレッグCOMP(白い調節部品)に設置されています。

- フロントフォークのタイプに応じた回数カチッとクリックするよう、時計と反対回りに回します。

規定

リバウンドダンパー	
コンフォート	18 クリック
標準	15 クリック
スポーツ	12 クリック

**i 参考**

時計回りに回すとスプリングがリバウンドする際のダンパー効果を高め、逆方向に回すとこれを低減します。

### 11.14 フロントフォークのスプリングプリロードを調節する

#### 準備作業

- 車両をリフトスタンドでジャッキアップします。(図 頁 65)

#### 主な作業

- Tハンドル①を時計と反対回りに最後まで回し切れます。
- ✓ マーキング+0が、両方のフォークレッグで右のTハンドルと揃っています。

**i 参考**

設定は手で行って下さい。工具は使用しないで下さい。両側のフォークレッグで同じように調節します。

- Tハンドルを時計回りに回します。

#### 規定

スプリングプリロード - プリロードアジャスター	
コンフォート	+0
標準	+0
スポーツ	+3

- ✓ Tハンドルが数値にはまるときチッと感じ取ることができます。

**i 参考**

スプリングプリロードは数値に合わせてのみ設定することができ、数値と数値の間ではプリロードがカチッとはまることがありません。

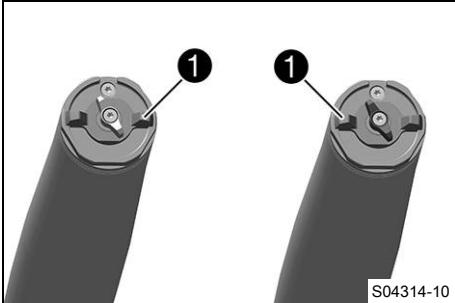
時計回りに回すとスプリングプリロードを高め、逆方向に回すとこれを低減します。

スプリングプリロードを調節しても、リバウンドダンパーの調節には影響を及ぼしません。

それでも、スプリングプリロードを大きくしたら、原則としてリバウンドダンパーの設定も上げるようにして下さい。

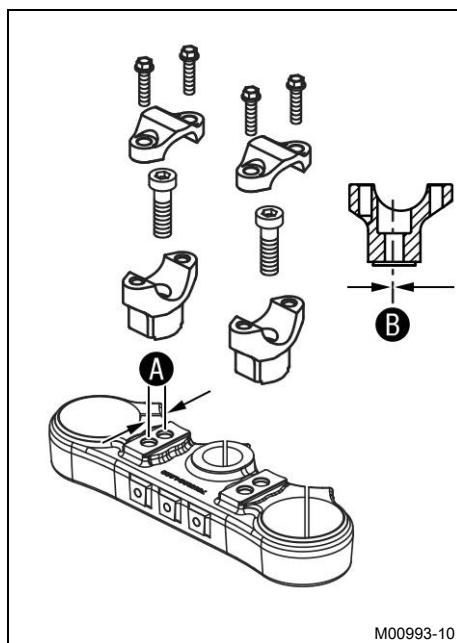
#### その後の作業

- 車両をリフトスタンドから降ろします。(図 頁 65)



# 11 シャーシを調整する

## 11.15 ハンドルバーの位置



### (XC-W 全標準モデル, EXC 全標準モデル)

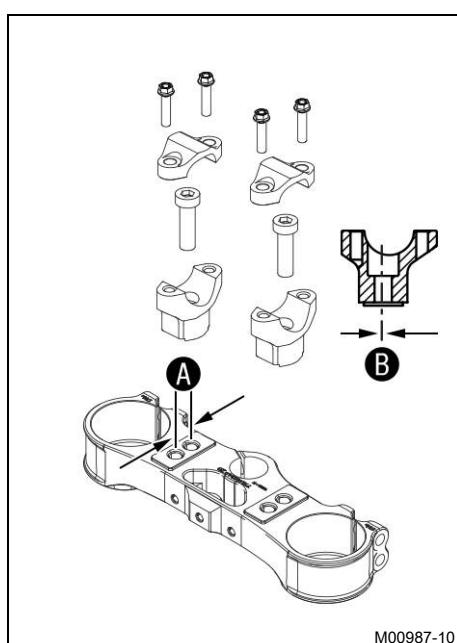
アッパートリプルクランプにはAの間隔で2つの穴があります。

穴間の距離 A	15 mm
---------	-------

ハンドルアダプターの穴は中心からBの距離に配置されています。

中心からの距離 B	3.5 mm
-----------	--------

ハンドルバーは4つの異なったポジションニングで取り付けられます。これにより、運転者に最適なポジショニングを選ぶことができます。



### (特別モデルシリーズ)

アッパートリプルクランプにはAの間隔で2つの穴があります。

穴間の距離 A	15 mm
---------	-------

ハンドルアダプターの穴は中心からBの距離に配置されています。

中心からの距離 B	3.5 mm
-----------	--------

ハンドルバーは4つの異なったポジションニングで取り付けられます。これにより、運転者に最適なポジショニングを選ぶことができます。

## 11.16 ハンドルバーの位置を調節する

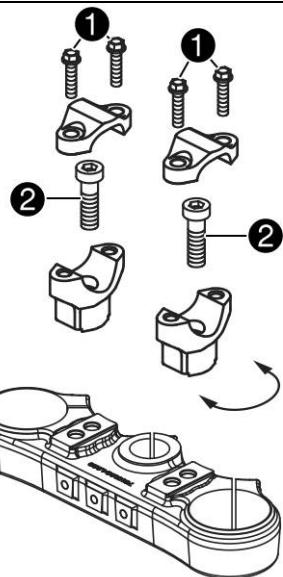


### 警告

**事故の危険性** 修正されたハンドルバーは安全面での危険を提示するものです。

ハンドルバーが曲げられたり、伸ばされたりすると素材が老化します。その結果ハンドルバーが折れてしまうこともあります。

- ハンドルバーが破損または曲がってしまった場合、ハンドルバーを交換してください。



M00993-11

## (XC-W 全標準モデル, EXC 全標準モデル)

- スクリュー①を外します。ハンドルバーのクランプを取り外します。ハンドルバーを取り外し、脇に置きます。

**i 参考**

部品を損傷させないよう、カバーをかけて保護して下さい。  
ケーブル、ホース、ワイヤー類は折り曲げないで下さい。

- スクリュー②を外します。ハンドルアダプターを取り外します。
- ハンドルアダプターの向きを好みに応じて変更します。スクリュー②を取り付け、しっかりと締めます。

## 規定

ハンドルアダ プター用スク リュー	M10	40 Nm Loctite®243™
-------------------------	-----	-----------------------

**i 参考**

ハンドルアダプターの位置は左右で同じように調節して下さい。

- ハンドルバーの位置を調整します。

**i 参考**

ケーブル、ホース、ワイヤー類が正しく取り回されているか注意して下さい。

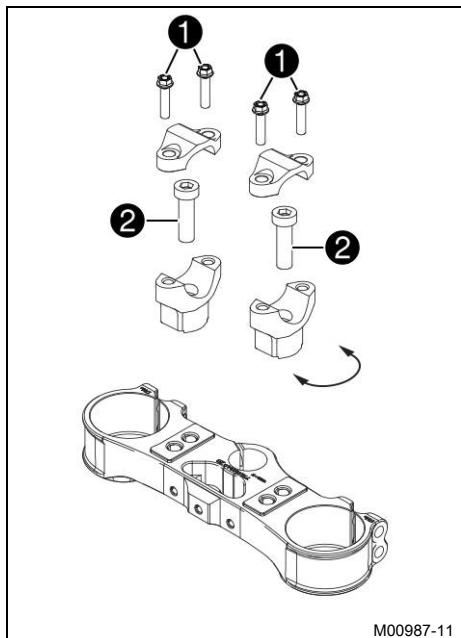
- ハンドルバーのクランプの位置を調整します。スクリュー①を取り付け、均等にしっかりと締めます。

## 規定

ハンドルバークラ ンプ用スクリュー	M8	20 Nm
----------------------	----	-------

**i 参考**

隙間の大きさが均等になっている事を確認して下さい。



## (特別モデルシリーズ)

- スクリュー①を外します。ハンドルバーのクランプを取り外します。ハンドルバーを取り外し、脇に置きます。

### i 参考

部品を損傷させないよう、カバーをかけて保護して下さい。  
ケーブル、ホース、ワイヤー類は折り曲げないで下さい。

- スクリュー②を外します。ハンドルアダプターを取り外します。
- ハンドルアダプターの向きを好みに応じて変更します。スクリュー②を取り付け、しっかりと締めます。

#### 規定

ハンドルアダプター用スクリュー	M10	40 Nm Loctite®243™
-----------------	-----	-----------------------

### i 参考

ハンドルアダプターの位置は左右で同じように調節して下さい。

- ハンドルバーの位置を調整します。

### i 参考

ケーブル、ホース、ワイヤー類が正しく取り回されているか注意して下さい。

- ハンドルバーのクランプの位置を調整します。スクリュー①を取り付け、均等にしっかりと締めます。

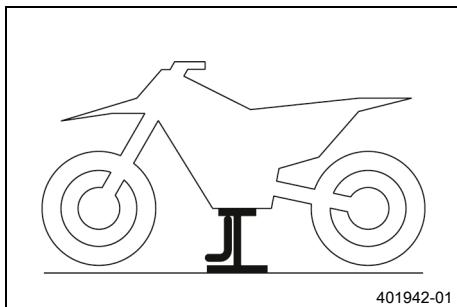
#### 規定

ハンドルバークランプ用スクリュー	M8	20 Nm
------------------	----	-------

### i 参考

隙間の大きさが均等になっている事を確認して下さい。

## 12.1 車両をリフトスタンドでジャッキアップする



### 情報

**損傷の危険性** 駐車中の車両が動き出たり倒れる恐れがあります。

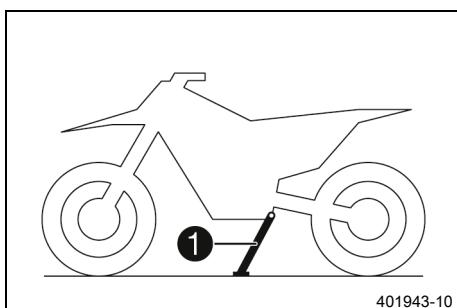
- 車両は安定した平らな地面の上に立てます。
  - エンジン下のフレーム部分で車両をジャッキアップします。
- リフトスタンド (78129955100)**
- ✓ 両方のホイールは接地していません。
  - 車両が倒れないように支えをします。

## 12.2 車両をリフトスタンドから降ろす

### 情報

**損傷の危険性** 駐車中の車両が動き出たり倒れる恐れがあります。

- 車両は安定した平らな地面の上に立てます。



- 車両をリフトスタンドから降ろします。
- リフトスタンドを片付けます。
- 車両を立てるには、足でサイドスタンド①を地面に向かって押し下げ、車両の重量をかけます。



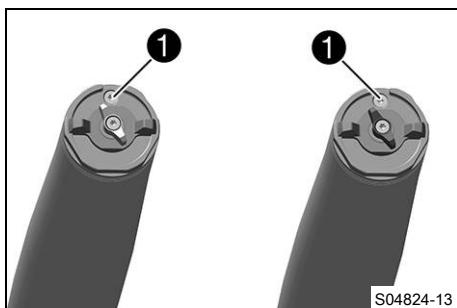
### 参考

走行中はサイドスタンドを上に閉じ、ゴムベルトで固定して下さい。

## 12.3 フォークレッグの空気を抜く

### 準備作業

- 車両をリフトスタンドでジャッキアップします。 (図頁 65)



### 主な作業

- エアブリーダー①を緩めます。
- ✓ 過圧状態の場合、フォーク内部から過剰な圧力が抜けていきます。
- エアブリーダーをしっかりと締めます。

### その後の作業

- 車両をリフトスタンドから降ろします。 (図頁 65)

## 12.4 フォークレッグのダストシールを清掃する

### 準備作業

- 車両をリフトスタンドでジャッキアップします。 (☞ 頁 65)
- フォークカバーを取り外します。 (☞ 頁 66)

### 主な作業

- 両側のフォークレッグで、ダストシール①を下にずらします。



### 参考

ダストシールはフォークインナーパイプのほこりや汚れをこすり落とします。時間が経つにつれ、汚れがダストシールの裏に入り込むことがあります。この汚れを取り除かないと、その後ろにあるオイルシールリングに漏れが生じる恐れがあります。



### 警告

**事故の危険性** オイルやグリースがブレーキディスクに付着するとブレーキ性能が低下します。

- ブレーキディスクを常にオイルやグリースから保護してください。
- 必要な場合、ブレーキディスクをブレーキ洗浄剤を使って清掃してください。

- 両側のフォークレッグのダストシールとインナーチューブを清掃し、オイルを差します。

### 汎用オイルスプレー (☞ 頁 174)

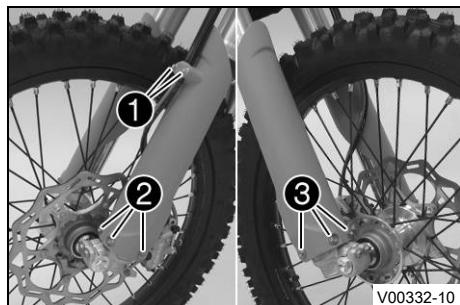
- ダストシールを取付け位置に押し戻します。
- 余分なオイルを取り除きます。

### その後の作業

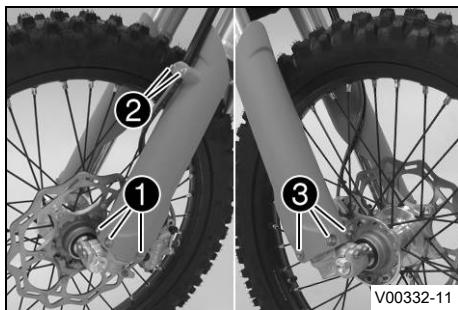
- フォークカバーを取り付けます。 (☞ 頁 67)
- 車両をリフトスタンドから降ろします。 (☞ 頁 65)

## 12.5 フォークカバーを取り外す

- スクリュー①を外し、クランプを取り外します。
- スクリュー②を外し、左のフォークカバーを取り外します。
- スクリュー③を外し、右のフォークカバーを取り外します。



## 12.6 フォークカバーを取り付ける



- 左のフォークレッグのカバーの位置を調整します。スクリュー①を取り付け、しっかりと締めます。

規定

シャーシ用その他の スクリュー	M6	10 Nm
--------------------	----	-------

- ブレーキホース、ワイヤーハーネス、クランプの位置を調整します。スクリュー②を取り付け、しっかりと締めます。
- 右のフォークレッグでカバーの位置を調整します。スクリュー③を取り付け、しっかりと締めます。

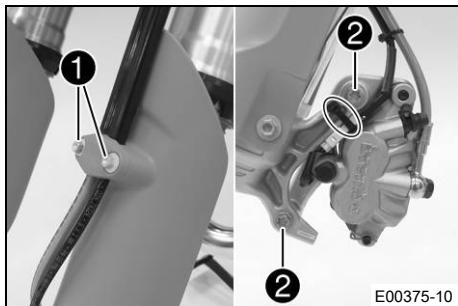
規定

シャーシ用その他の スクリュー	M6	10 Nm
--------------------	----	-------

## 12.7 フォークレッグを取り外す

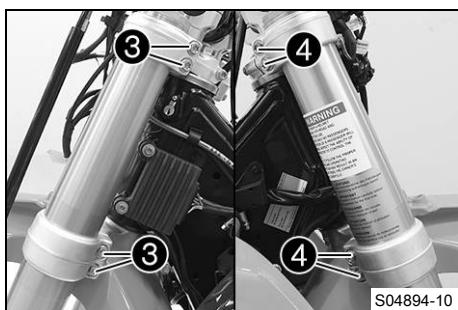
### 準備作業

- 車両をリフトスタンドでジャッキアップします。(図頁 65)
- 前輪を取り外します。(図頁 111)
- ヘッドライトマスクとヘッドライトを取り外します。(図頁 126)



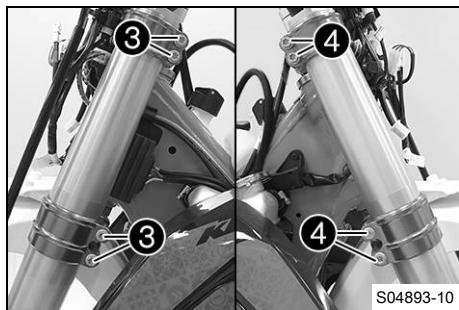
### 主な作業

- スクリュー①を外し、クランプを取り外します。
- ケーブル留めを取り除きます。
- スクリュー②を外し、ブレーキキャリパーを取り外します。
- ブレーキワイヤーが引っ張られないよう、ブレーキキャリパーを脇にかけておきます。



### (XC-W 全標準モデル, EXC 全標準モデル)

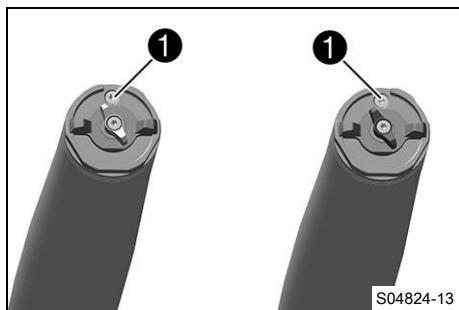
- スクリュー③を緩めます。左のフォークレッグを取り外します。
- スクリュー④を緩めます。右のフォークレッグを取り外します。



## (特別モデルシリーズ)

- スクリュー③を緩めます。左のフォークレッグを取り外します。
- スクリュー④を緩めます。右のフォークレッグを取り外します。

## 12.8 フォークレッグを取り付ける

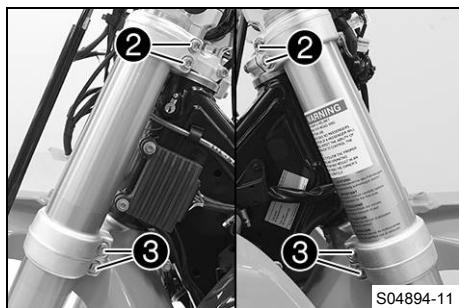


### 主な作業

- フォークレッグの位置を調整します。
- ✓ エアブリーダー①の位置を前方に合わせます。

### 参考

リバウンドダンパーは右のフォークレッグREB(赤い調節部品)に設置されています。コンプレッションダンパーは左のフォークレッグCOMP(白い調節部品)に設置されています。  
フォークレッグ上端の横手に溝が加工してあります。  
上から2番目の溝とアッパートリプルクランプの上端を揃えて下さい。



### (XC-W 全標準モデル, EXC 全標準モデル)

- スクリュー②をしっかりと締めます。

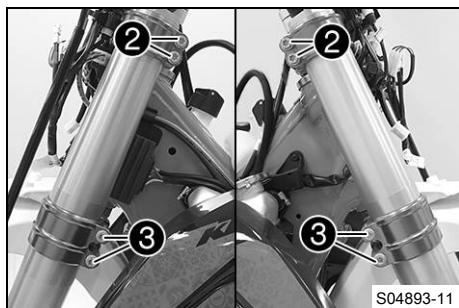
#### 規定

アッパートリプルクランプ用スクリュー	M8	20 Nm
--------------------	----	-------

- スクリュー③をしっかりと締めます。

#### 規定

ロアートリプルクランプ用スクリュー	M8	15 Nm
-------------------	----	-------



### (特別モデルシリーズ)

- スクリュー②をしっかりと締めます。

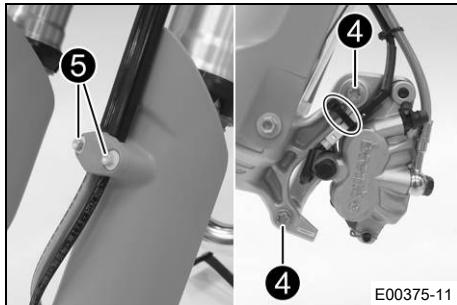
#### 規定

アッパートリプルクランプ用スクリュー	M8	17 Nm
--------------------	----	-------

- スクリュー③をしっかりと締めます。

#### 規定

ロアートリプルクランプ用スクリュー	M8	15 Nm
-------------------	----	-------



- ブレーキキャリパーの位置を調整し、スクリュー④を取り付け、しっかりと締めます。

**規定**

前方ブレーキ キャリパー用ス クリュー	M8	25 Nm	Loctite®243™
---------------------------	----	-------	--------------

- ケーブル留めを取り付けます。
- ブレーキホース、ワイヤーハーネス、クランプの位置を調整します。スクリュー⑤を取り付け、しっかりと締めます。

**その後の作業**

- 前輪を取り付けます。 (☞ 頁 112)
- ヘッドライトマスクとヘッドライトを取り付けます。 (☞ 頁 126)
- ヘッドライトの設定を点検します。 (☞ 頁 128)

## 12.9 ロアートリプルクランプを取り外す (XC-W 全標準モデル, EXC 全標準モデル)

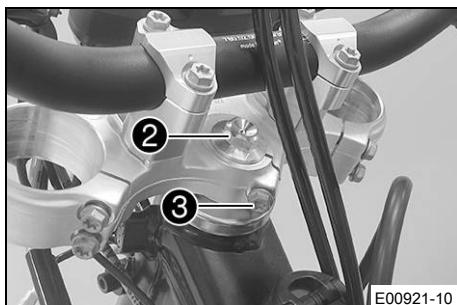
**準備作業**

- 車両をリフトスタンドでジャッキアップします。 (☞ 頁 65)
- 前輪を取り外します。 (☞ 頁 111)
- ヘッドライトマスクとヘッドライトを取り外します。 (☞ 頁 126)
- フォークリエッグを取り外します。 (☞ 頁 67)
- フロントフェンダーを取り外します。 (☞ 頁 78)
- バーパッドを取り外します。



**主な作業**

- スクリュー①を外し、コンビネーションインストルメントホルダーを脇にかけておきます。

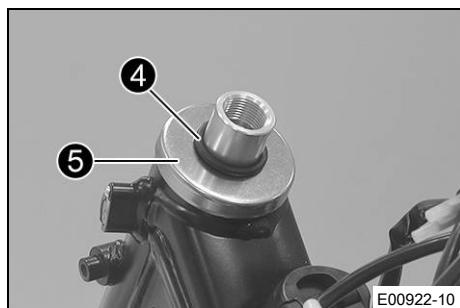


- スクリュー②を外します。
- スクリュー③を緩めます。アッパートリプルクランプをハンドルバーと一緒に取り外し、かけて置きます。



**参考**

部品を損傷させないよう、カバーをかけて保護します。  
ケーブル、ホース、ワイヤー類は折り曲げないで下さい。

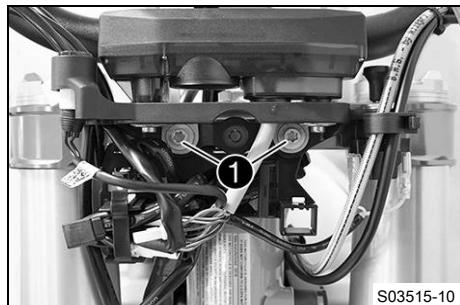


- Oリング ④を取り外します。保護リング ⑤を外します。
- ロアトリプルクランプをステアリングシステムと一緒に取り外します。
- ステアリングヘッドの上側のベアリングを取り外します。

## 12.10 ロアトリプルクランプを取り外す (特別モデルシリーズ)

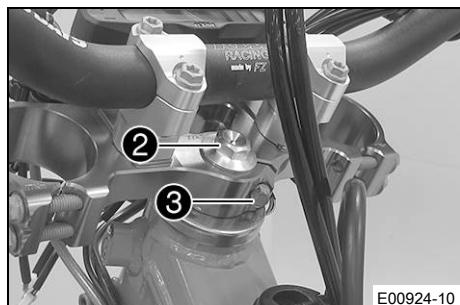
### 準備作業

- 車両をリフトスタンドでジャッキアップします。 (☞ 頁 65)
- 前輪を取り外します。 (☞ 頁 111)
- ヘッドライトマスクとヘッドライトを取り外します。 (☞ 頁 126)
- フォークリエッグを取り外します。 (☞ 頁 67)
- フロントフェンダーを取り外します。 (☞ 頁 78)
- バーパッドを取り外します。



### 主な作業

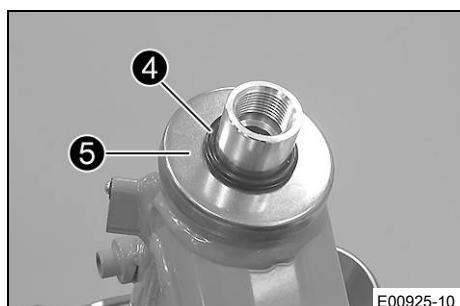
- スクリュー①を外し、コンビネーションインストルメントホルダーを脇にかけておきます。



- スクリュー②を外します。
- スクリュー③を外します。アッパートリプルクランプをハンドルバーと一緒に取り外し、かけて置きます。

### 参考

部品を損傷させないよう、カバーをかけて保護します。ケーブル、ホース、ワイヤー類は折り曲げないで下さい。



- Oリング ④を取り外します。保護リング ⑤を外します。
- ロアトリプルクランプをステアリングシステムと一緒に取り外します。
- ステアリングヘッドの上側のベアリングを取り外します。

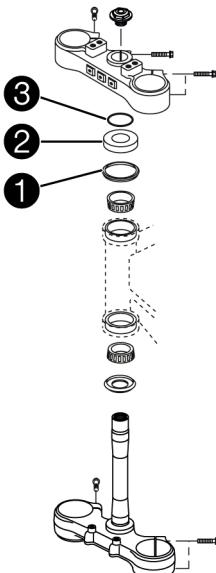
## 12.11 ロアートリプルクランプを取り付ける (XC-W 全標準モデル, EXC 全標準モデル)

### 主な作業

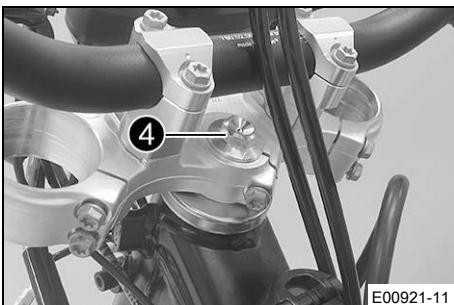
- ベアリングとシーリング要素を清掃し、損傷がないかどうかを確認してグリースを塗布します。

高粘度グリース (☞ 頁 173)

- ロアートリプルクランプをステアリングシステムと一緒に取り付けます。ステアリングヘッドの上側のベアリングを取り付けます。
- ステアリングヘッドの上側のガスケット ① が正しい位置にあるか確認します。
- 保護リング ② と O リング ③ を取り付けます。

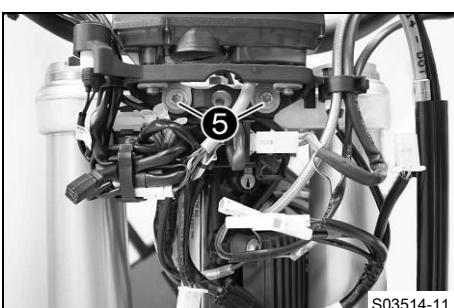


V00359-10



E00921-11

- アッパートリプルクランプとハンドルバーの位置を調整します。
- クラッチホースとワイヤーハーネスの位置を調整します。
- スクリュー ④ を取り付け、締めないままにしておきます。

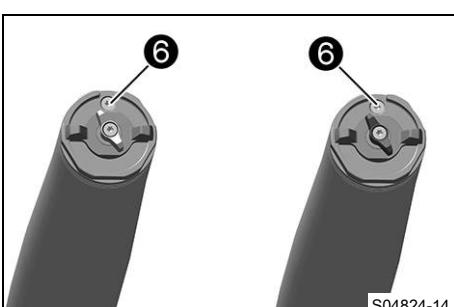


S03514-11

- コンビネーションインストルメントホルダーの位置を調整し、スクリュー ⑤ を取り付け、しっかりと締めます。

#### 規定

シャーシ用その他の スクリュー	M6	10 Nm
--------------------	----	-------



S04824-14

- フォークレッグの位置を調整します。

✓ エアブリーダー ⑥ の位置を前方に合わせます。



## 参考

リバウンドダンパーは右のフォークレッグREB(赤い調節部品)に設置されています。コンプレッションダンパーは左のフォークレッグCOMP(白い調節部品)に設置されています。

フォークレッグ上端の横手に溝が加工してあります。上から2番目の溝とアッパートリプルクランプの上端を揃えて下さい。

- スクリュー⑦をしっかりと締めます。

規定

ロアートリプルクラ ンプ用スクリュー	M8	15 Nm
-----------------------	----	-------

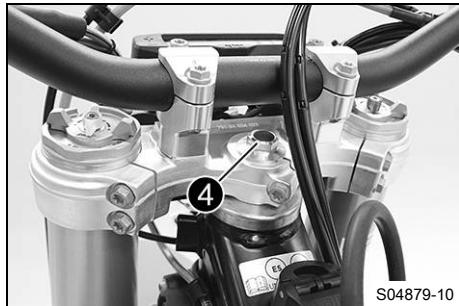


S04894-12

- スクリュー④をしっかりと締めます。

規定

ステアリングヘッド 用上部スクリュー	M20x1.5	12 Nm
-----------------------	---------	-------

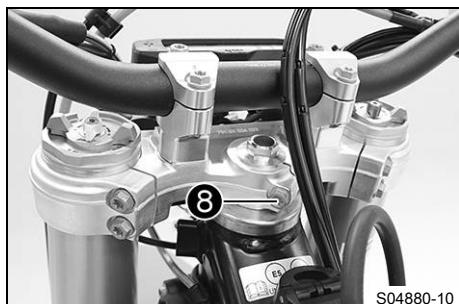


S04879-10

- スクリュー⑧をしっかりと締めます。

規定

ステアリングステム 用上部スクリュー	M8	20 Nm
-----------------------	----	-------

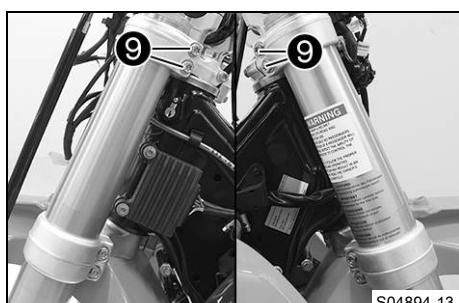


S04880-10

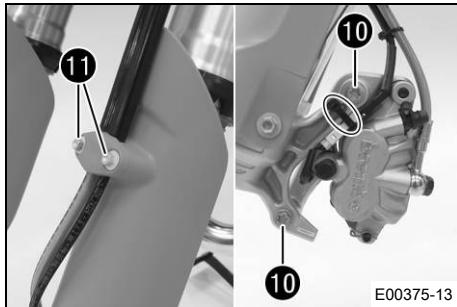
- スクリュー⑨をしっかりと締めます。

規定

アッパートリプルク ランプ用スクリュー	M8	20 Nm
------------------------	----	-------



S04894-13



- ブレーキキャリパーの位置を調整し、スクリュー⑩を取り付け、しっかりと締めます。

**規定**

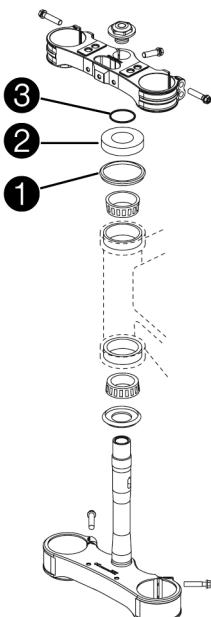
前方ブレーキ キャリパー用ス クリュー	M8	25 Nm	Loctite®243™
---------------------------	----	-------	--------------

- ケーブル留めを取り付けます。
- ブレーキホース、ワイヤーハーネス、クランプの位置を調整します。スクリュー⑪を取り付け、しっかりと締めます。

**その後の作業**

- バーパッドを取り付けます。
- フロントフェンダーを取り付けます。 (☞ 頁 78)
- 前輪を取り付けます。 (☞ 頁 112)
- ヘッドライトマスクとヘッドライトを取り付けます。 (☞ 頁 126)
- ワイヤーハーネス、アクセルワイヤー、ブレーキホース、クラッチホースが自由に動けるようになっているか、正しく取り回されているかを確認します。
- ステアリングヘッドベアリングの遊びを点検します。 (☞ 頁 76)
- 車両をリフトスタンドから降ろします。 (☞ 頁 65)
- ヘッドライトの設定を点検します。 (☞ 頁 128)

## 12.12 ロアートリプルクランプを取り付ける ☞(特別モデルシリーズ)



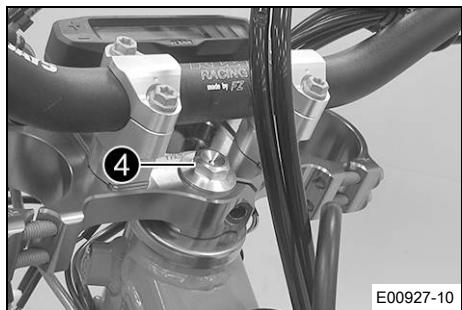
**主な作業**

- ベアリングとシーリング要素を清掃し、損傷がないかどうかを確認してグリースを塗布します。

**高粘度グリース (☞ 頁 173)**

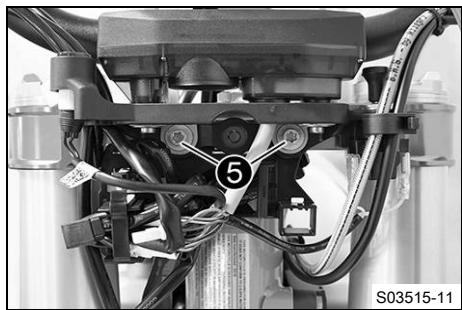
- ロアートリプルクランプをステアリングシステムと一緒に取り付けます。ステアリングヘッドの上側のベアリングを取り付けます。
- ステアリングヘッドの上側のガスケット①が正しい位置にあるか確認します。
- 保護リング②とOリング③を取り付けます。

## 12 サービス作業シャーシ



E00927-10

- アッパートリプルクランプとハンドルバーの位置を調整します。
- スクリュー④を取り付け、締めないままにしておきます。
- クラッチホースとワイヤーハーネスの位置を調整します。

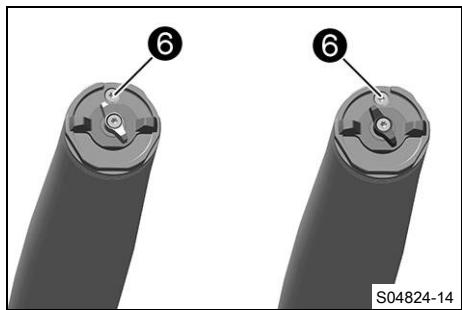


S03515-11

- コンビネーションインストルメントホルダーの位置を調整し、スクリュー⑤を取り付け、しっかりと締めます。

規定

シャーシ用その他の スクリュー	M6	10 Nm
--------------------	----	-------



S04824-14

- フォークレッグの位置を調整します。

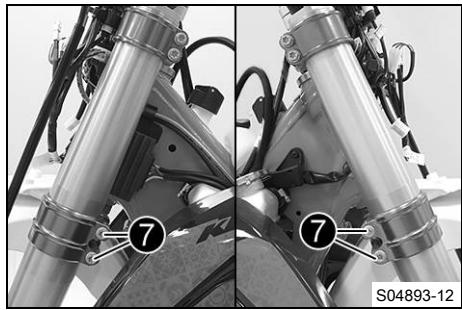
✓ エアブリーダー⑥の位置を前方に合わせます。



### 参考

リバウンドダンパーは右のフォークレッグREB(赤い調節部品)に設置されています。コンプレッションダンパーは左のフォークレッグCOMP(白い調節部品)に設置されています。

フォークレッグ上端の横手に溝が加工してあります。上から2番目の溝とアッパートリプルクランプの上端を揃えて下さい。

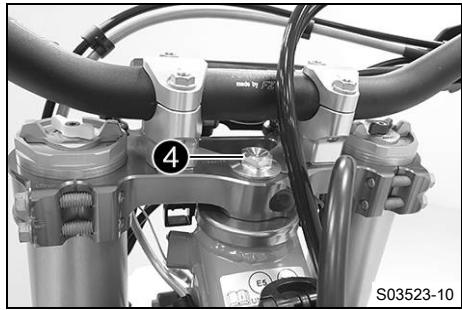


S04893-12

- スクリュー⑦をしっかりと締めます。

規定

ロアトリプルクラ ンプ用スクリュー	M8	15 Nm
----------------------	----	-------

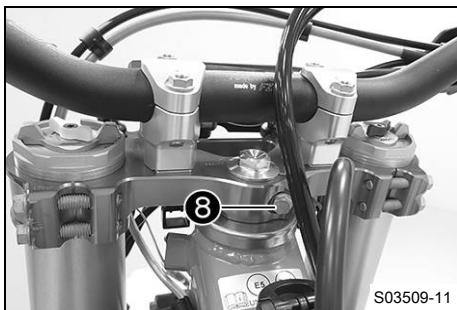


S03523-10

- スクリュー④をしっかりと締めます。

規定

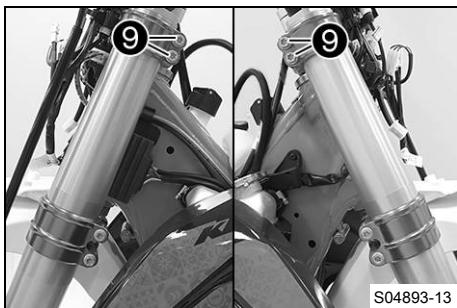
ステアリングヘッド 用上部スクリュー	M20x1.5	12 Nm
-----------------------	---------	-------



- スクリュー⑧を取り付け、しっかりと締めます。

規定

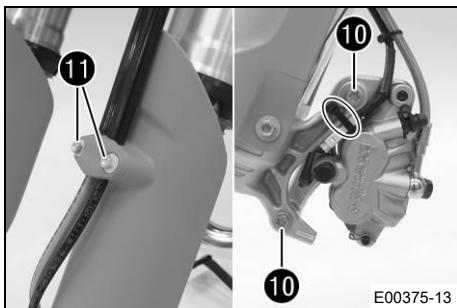
ステアリングス テム用上部スク リュー	M8	17 Nm	Loctite®243™
---------------------------	----	-------	--------------



- スクリュー⑨をしっかりと締めます。

規定

アップパートリップルク ランプ用スクリュー	M8	17 Nm
--------------------------	----	-------



- ブレーキキャリパーの位置を調整し、スクリュー⑩を取り付け、しっかりと締めます。

規定

前方ブレーキ キャリパー用ス クリュー	M8	25 Nm	Loctite®243™
---------------------------	----	-------	--------------

- ケーブル留めを取り付けます。
- ブレーキホース、ワイヤーハーネス、クランプの位置を調整します。スクリュー⑪を取り付け、しっかりと締めます。

#### その後の作業

- バーパッドを取り付けます。
- フロントフェンダーを取り付けます。 (☞ 頁 78)
- 前輪を取り付けます。 (☞ 頁 112)
- ヘッドライトマスクとヘッドライトを取り付けます。 (☞ 頁 126)
- ワイヤーハーネス、アクセルワイヤー、ブレーキホース、クラッチホースが自由に動けるようになっているか、正しく取り回されているかを確認します。
- ステアリングヘッドベアリングの遊びを点検します。 (☞ 頁 76)
- 車両をリフトスタンドから降ろします。 (☞ 頁 65)
- ヘッドライトの設定を点検します。 (☞ 頁 128)



## 12.13 ステアリングヘッドベアリングの遊びを点検する



### 警告

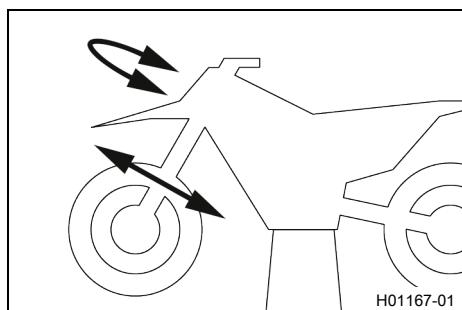
**事故の危険性** ステアリングヘッドベアリングの遊びが不適切な場合、走行性能に影響を及ぼし構成部品を破損させることができます。

- ステアリングヘッドベアリングの遊びは速やかに修正してください。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



### 参考

ステアリングヘッドのベアリングにガタがある状態で長い間使用すると、まずベアリングが、続いてフレームのベアリングシートが損傷してしまいます。



#### 準備作業

- 車両をリフトスタンドでジャッキアップします。(図解 頁 65)

#### 主な作業

- ハンドルバーを直進の状態にします。フォークレッグを進行方向に向かって前後に動かします。

ステアリングヘッドのベアリングにガタが感じられる場合はメンテナンスが必要です。

» ガタが感じられる:

- ステアリングヘッドベアリングの遊びを調節します。図解(図解 頁 76)

- ハンドルバーをハンドル限界全体にわたり左右に動かします。

ハンドルバーがハンドル限界全体にわたりスムーズに動かせる事を確認して下さい。どこかで動きが止まると感じられる場合はメンテナンスが必要です。

» 動きの止まりが感じられる:

- ステアリングヘッドベアリングの遊びを調節します。図解(図解 頁 76)
- ステアリングヘッドのベアリングを点検し、必要に応じて交換します。

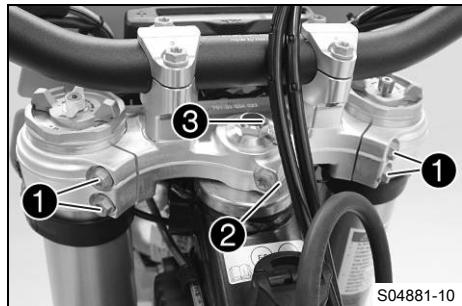
#### その後の作業

- 車両をリフトスタンドから降ろします。(図解 頁 65)

## 12.14 ステアリングヘッドベアリングの遊びを調節する

#### 準備作業

- 車両をリフトスタンドでジャッキアップします。(図解 頁 65)



#### 主な作業

(XC-W 全標準モデル, EXC 全標準モデル)

- スクリュー①と②を緩めます。
- スクリュー③を緩め、また締め直します。

#### 規定

ステアリングヘッド用上部スクリュー	M20x1.5	12 Nm
-------------------	---------	-------

- プラスチックのハンマーでアップトリプルクランプを軽く叩き、歪みをなくします。
- スクリュー①をしっかりと締めます。

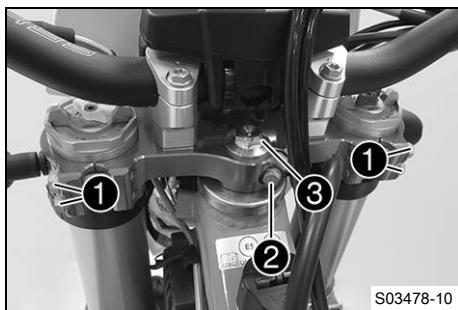
規定

アップトリップルクランプ用スクリュー	M8	20 Nm
--------------------	----	-------

- スクリュー②をしっかりと締めます。

規定

ステアリングヘッド用上部スクリュー	M8	20 Nm
-------------------	----	-------



## (特別モデルシリーズ)

- スクリュー①を緩めます。スクリュー②を外します。
- スクリュー③を緩め、また締め直します。

規定

ステアリングヘッド用上部スクリュー	M20x1.5	12 Nm
-------------------	---------	-------

- プラスチックのハンマーでアップトリプルクランプを軽く叩き、歪みをなくします。
- スクリュー①をしっかりと締めます。

規定

アップトリップルクランプ用スクリュー	M8	17 Nm
--------------------	----	-------

- スクリュー②を取り付け、しっかりと締めます。

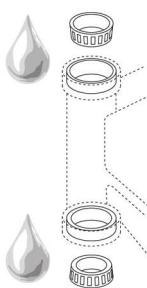
規定

ステアリングヘッド用上部スクリュー	M8	17 Nm	Loctite®243™
-------------------	----	-------	--------------

## その後の作業

- ステアリングヘッドベアリングの遊びを点検します。  
( 頁 76)
- 車両をリフトスタンドから降ろします。  
( 頁 65)

## 12.15 ステアリングヘッドのベアリングをグリスアップする



## (XC-W 全標準モデル, EXC 全標準モデル)

- ロアトリプルクランプを取り外します。  
( ( 頁 69))
- ロアトリプルクランプを取り付けます。  
( ( 頁 71))

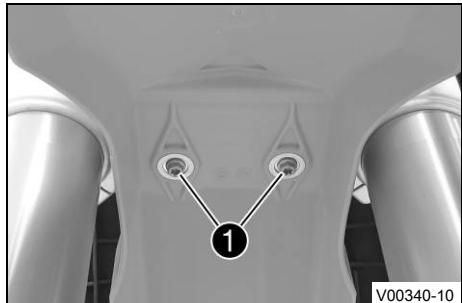
## (特別モデルシリーズ)

- ロアトリプルクランプを取り外します。  
( ( 頁 70))
- ロアトリプルクランプを取り付けます。  
( ( 頁 73))

## 12.16 フロントフェンダーを取り外す

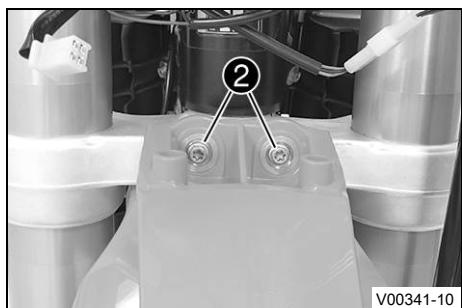
### 準備作業

- ヘッドライトマスクとヘッドライトを取り外します。  
( 頁 126)



### 主な作業

- スクリュー①を外します。



- スクリュー②を外します。フロントフェンダーを取り出します。

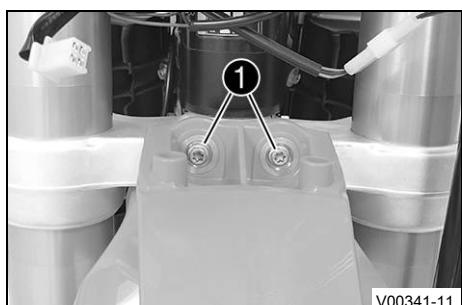
## 12.17 フロントフェンダーを取り付ける

### 主な作業

- フロントフェンダーを配置します。スクリュー①を取り付け、しっかりと締めます。

#### 規定

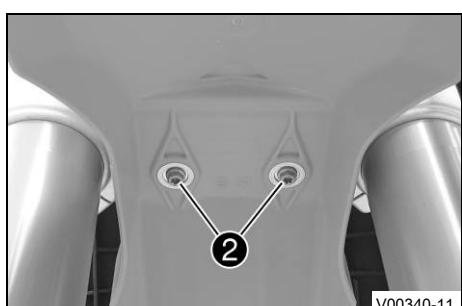
シャーシ用その他の スクリュー	M6	10 Nm
--------------------	----	-------



- スクリュー②を取り付け、しっかりと締めます。

#### 規定

シャーシ用その他の スクリュー	M6	10 Nm
--------------------	----	-------



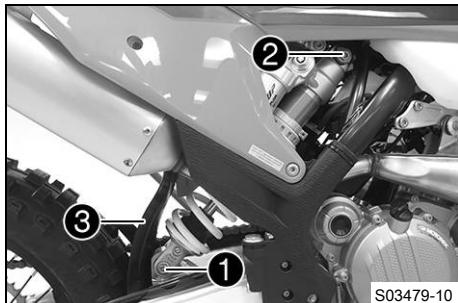
### その後の作業

- ヘッドライトマスクとヘッドライトを取り付けます。  
( 頁 126)
- ヘッドライトの設定を点検します。( 頁 128)

## 12.18 ショックアブソーバーを取り外す

### 準備作業

- 車両をリフトスタンドでジャッキアップします。 (図頁 65)



## 12.19 ショックアブソーバーを取り付ける

### 主な作業

- スプラッシュガード①を脇によけ、ショックアブソーバーの位置を調整します。スクリュー②を取り付け、しっかりと締めます。

#### 規定

ショックアブ ソーバー用上部 スクリュー	M12	80 Nm	Loctite®2701™
----------------------------	-----	-------	---------------

- スクリュー③を取り付け、しっかりと締めます。

#### 規定

ショックアブ ソーバー用下部 スクリュー	M12	80 Nm	Loctite®2701™
----------------------------	-----	-------	---------------



### 参考

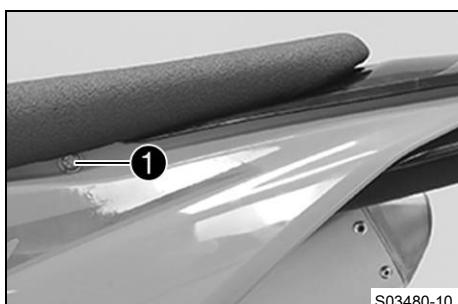
スイングアームにあるショックアブソーバー用のピボットペアリングはテフロン加工されています。グリースその他、潤滑剤は使用しないで下さい。潤滑剤はテフロン層を分解し、寿命を極端に縮めることになります。

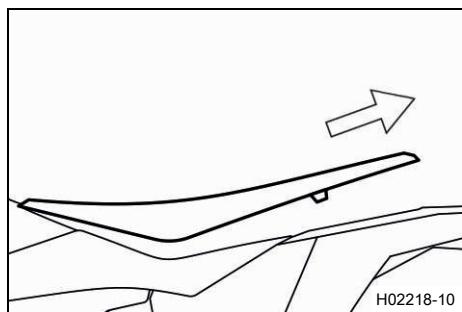
### その後の作業

- 車両をリフトスタンドから降ろします。 (図頁 65)

## 12.20 シートを取り外す

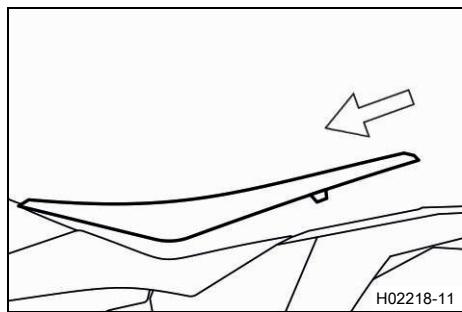
- 左側のスクリュー①を外します。



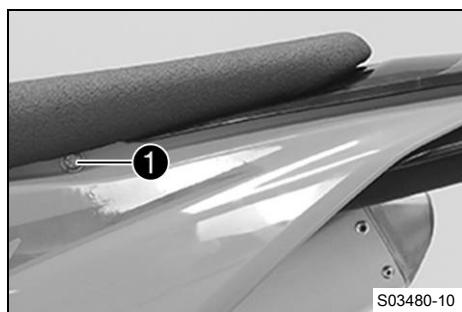


- シートの後部を持ち上げ、後ろに引き、上方向に取り外します。

### 12.21 シートを取り付ける



- シート前部をフューエルタンクの両方のブッシングに掛け、後部を下げ前方に押します。
- シートが正しくロックされているか確認します。



- 左側のスクリュー①を取り付け、しっかりと締めます。  
規定

シート取り付け用スクリュー	M6	10 Nm
---------------	----	-------

### 12.22 エアフィルター ボックスカバーの取り外し

#### 準備作業

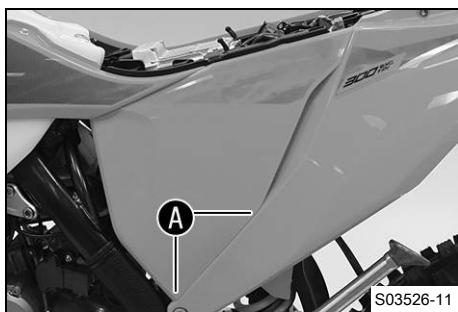
- シートを取り外します。 (図頁 79)

#### 条件

エアフィルター ボックスカバーは固定されています。

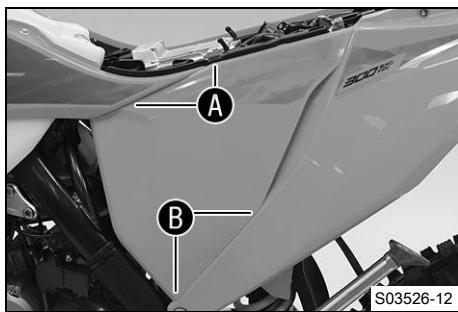
- スクリュー①を外します。



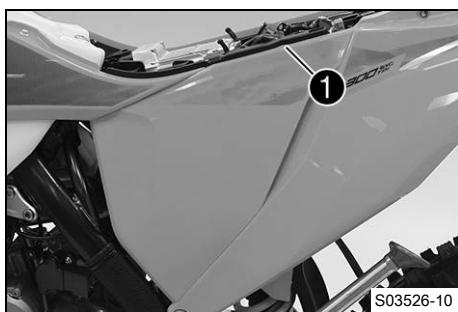


- エアフィルター ボックスカバーの**A**横側を外し、前方へ取り外します。

### 12.23 エアフィルター ボックスカバーの取り付け



- 主な作業**
- エアフィルター ボックスカバーを**A**の部分にかけ、**B**の部分にはめます。



**条件**

エアフィルター ボックスカバーは固定されています。

- スクリュー①を取り付け、しっかりと締めます。

**規定**

エアフィルター ボックスカバー用 スクリュー	EJOT PT® K60x20-Z	3 Nm
------------------------------	----------------------	------

**その後の作業**

- シートを取り付けます。 (☞ 頁 80)

### 12.24 エアフィルターを取り外す

**情報**

**エンジン損傷** フィルターを通さずに吸い込んだ空気は、エンジンの耐久性に悪影響を与えます。

エアフィルターがないと埃や汚れがエンジンに侵入します。

- 車両はエアフィルターがある状態でのみ使用して下さい。



**情報**

**環境汚染** 問題物質が環境汚染の原因となります。

- オイル、グリース、フィルター、燃料、洗浄剤、ブレーキフルードなどは、定められた規則に従い正しく廃棄して下さい。

**準備作業**

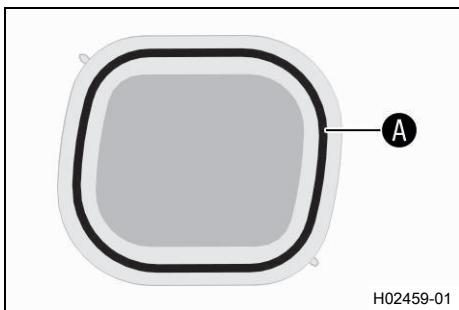
- シートを取り外します。 (☞ 頁 79)
- エアフィルター ボックスカバーを取り外します。 (☞ 頁 80)



## 主な作業

- 固定用金具①を外します。エアフィルターをホルダーと一緒に取り出します。
- エアフィルターをホルダーから取り出します。

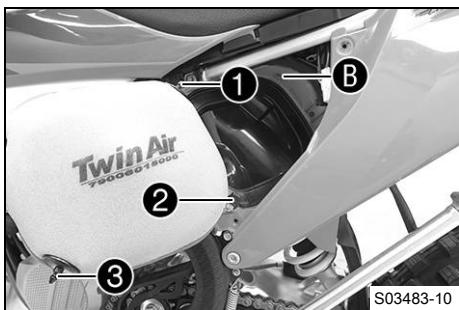
## 12.25 エアフィルターを取り付ける



## 主な作業

- きれいなエアフィルターをホルダーに取り付けます。
- エアフィルターのAの範囲にグリースを塗布します。

耐久性グリース (☞ 頁 173)



- エアフィルターを入れ、固定用の突起部①をブッシング②の位置で調整します。
  - ✓ エアフィルターを正しい位置に調整します。
- 固定用金具②を掛けます。
  - ✓ 固定用突起部③を固定用金具②で固定します。



## 参考

エアフィルターが正しく取り付けられていないと、ほこりや汚れがエンジン内に入り、損傷の原因となる恐れがあります。

## その後の作業

- エアフィルター ボックスカバーを取り付けます。 (☞ 頁 81)
- シートを取り付けます。 (☞ 頁 80)

## 12.26 エアフィルターとエアフィルターケースを清掃する



## 情報

**環境汚染** 問題物質が環境汚染の原因となります。

- オイル、グリース、フィルター、燃料、洗浄剤、ブレーキフルードなどは、定められた規則に従い正しく廃棄して下さい。



## 参考

発泡材を損傷しますので、エアフィルターを燃料や灯油で洗浄しないで下さい。

## 準備作業

- シートを取り外します。 (☞ 頁 79)
- エアフィルター ボックスカバーを取り外します。 (☞ 頁 80)
- エアフィルターを取り外します。 (☞ 頁 81)

**主な作業**

- エアフィルターを専用の洗浄液で念入りに洗浄し、よく乾燥させます。

**[エアフィルター洗浄剤 (図) 頁 173]**

**参考**

エアフィルターは決して絞らず、水分は押し出すようにして下さい。

- 乾燥したエアフィルターに高品質のエアフィルターオイルを差します。

**[発泡材エアフィルター用オイル (図) 頁 174)**

- エアフィルターケースを清掃します。
- インテークマニホールドを清掃し、破損がないか、きちんと固定されているかを確認します。

**その後の作業**

- エアフィルターを取り付けます。 (図) (図) 頁 82)
- エアフィルターボックスカバーを取り付けます。 (図) (図) 頁 81)
- シートを取り付けます。 (図) (図) 頁 80)

**12.27 エアフィルターケースカバーにヒューズ孔を加工する****準備作業**

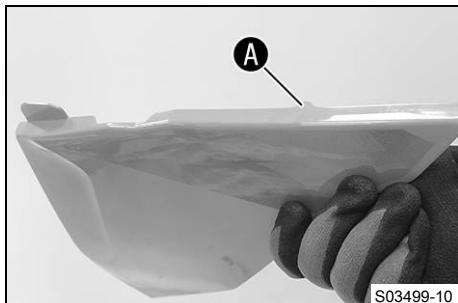
- シートを取り外します。 (図) (図) 頁 79)
- エアフィルターボックスカバーを取り外します。 (図) (図) 頁 80)

**主な作業**

- マーキング A にドリルで穴を開けます。

**規定**

直径	6 mm
----	------

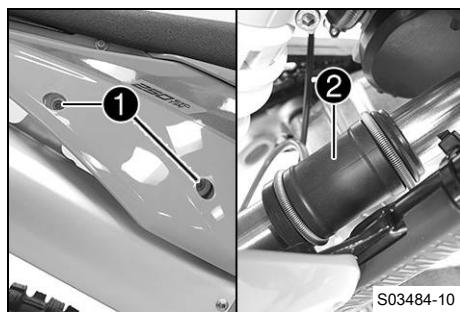
**その後の作業**

- エアフィルターボックスカバーを取り付けます。 (図) (図) 頁 81)
- シートを取り付けます。 (図) (図) 頁 80)

**12.28 メインサイレンサーを取り外す****警告**

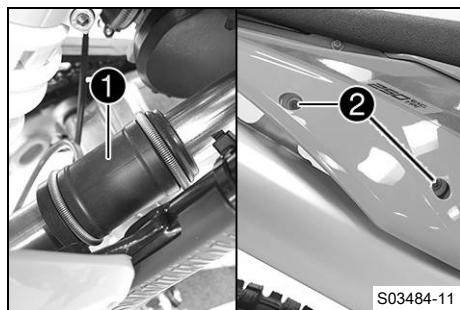
**火傷の危険性** 排気装置は運転中非常に熱くなります。

- 排気装置を十分に冷ましてから作業を実行してください。



- スクリュー①を外します。
- メインサイレンサーを排気スリーブ②とスプリングリングと一緒にマニホールドから抜き取ります。

## 12.29 メインサイレンサーを取り付ける



- メインサイレンサーを排気スリーブ①とスプリングリングと一緒に取り付けます。
  - スクリュー②を取り付け、しっかりと締めます。
- 規定

シャーシ用その他の スクリュー	M6	10 Nm
--------------------	----	-------

## 12.30 メインサイレンサーのグラスファイバーを交換する



### 警告

**火傷の危険性** 排気装置は運転中非常に熱くなります。

- 排気装置を十分に冷ましてから作業を実行してください。

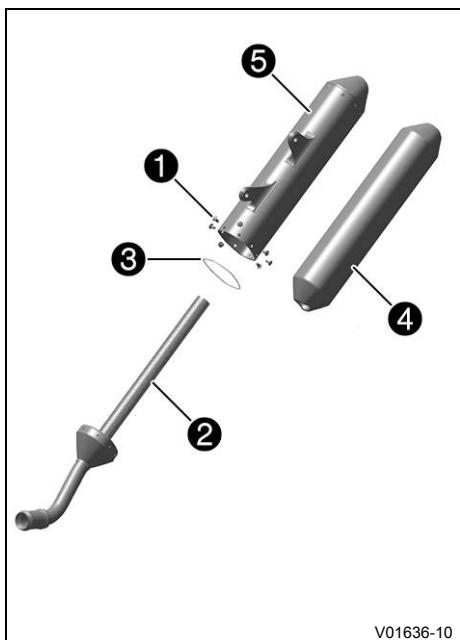


### 参考

時間が経つとグラスファイバーが空気中に消失し、防音材が「焼け切って」しまいます。これにより騒音レベルが高くなるだけでなく、出力特性にも変化が現れます。

### 準備作業

- メインサイレンサーを取り外します。 (☞ 頁 83)

**主な作業**

- スクリュー①を外します。インナーパイプ②をOリング③と一緒に引き抜きます。
- ガラスファイバー④をインナーパイプから取り外します。
- 再度使用する部品を清掃し、損傷がないか点検します。
- 新しいガラスファイバー④をインナーパイプに取り付けます。
- 新しいガラスファイバーとOリングを取り付けたインナーパイプに、アウターパイプ⑤をかぶせます。
- 全てのスクリュー①を取り付け、しっかりと締めます。

**規定**

メインサイレンサー 用スクリュー	M5	7 Nm
---------------------	----	------

**その後の作業**

- メインサイレンサーを取り付けます。(図頁 84)

**12.31 フューエルタンクを取り外す****危険****火事の危険** 燃料は可燃性です。

フューエルタンク内の燃料は熱により膨張し、溢れ出てしまうことがあります。

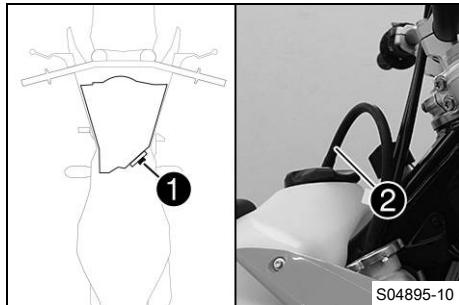
- 炎や火のついたタバコの近くで車両に給油しないでください。
- 給油の際にはエンジンを停止してください。
- 特に車両部品に燃料がこぼれるないように注意してください。
- こぼれた燃料はすぐに拭き取ってください。
- 給油の際には燃料給油に関する注意事項を参照してください。

**警告****中毒の危険性** 燃料は毒性で、健康に害を及ぼします。

- 燃料が皮膚、目、衣服に接触しないよう注意してください。
- 燃料を飲み込んでしまった場合、即座に受診してください。
- 気化した燃料を吸い込まないでください。
- 接触した部分の肌は即座に多量の水で洗ってください。
- 燃料が目にはいった場合、速やかに水で洗い落とし、受診してください。
- 燃料が衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。
- 燃料は適切なキャニスターに入れ、子供の手の届かない場所に保管して下さい。

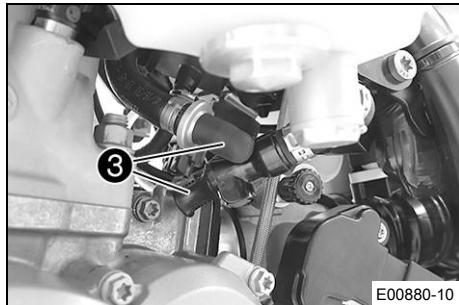
**準備作業**

- シートを取り外します。(図頁 79)



## 主な作業

- 燃料ポンプのプラグ①を外します。
- フューエルタンクのエア抜き穴からホース②を抜き取ります。



- クイックカップリングを圧縮空気で念入りに清掃します。

### i 参考

燃料ホースに汚れが絶対に入らないよう注意して下さい。汚れが入り込むとインジェクションバルブが詰まる原因となります。

- クイックカップリングを外します。

### i 参考

燃料ホースから残りの燃料が流れ出る事があります。

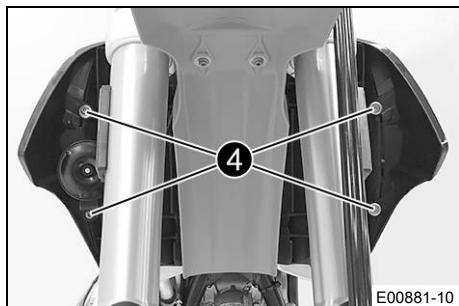
- 洗浄用キャップセット③を取り付けます。

**洗浄用キャップセット (81212016100)**

- スクリュー④をブッシングと共に外します。

**(EXC シリーズ)**

- ホーンをホーンホルダーと一緒に脇にかけておきます。



- スクリュー⑤をゴムブッシングと一緒に外します。



- ラジエーター取付け部の横にある両側のspoilerを引き、フューエルタンクを上から取り外します。



## 12.32 フューエルタンクを取り付ける



### 危険

**火事の危険** 燃料は可燃性です。

フューエルタンク内の燃料は熱により膨張し、溢れ出てしまうことがあります。

- 炎や火のついたタバコの近くで車両に給油しないでください。
- 給油の際にはエンジンを停止してください。
- 特に車両部品に燃料がこぼれるないように注意してください。
- こぼれた燃料はすぐに拭き取ってください。
- 給油の際には燃料給油に関する注意事項を参照してください。



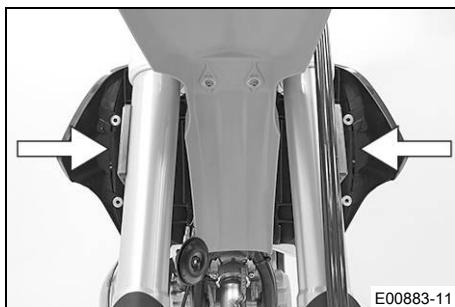
### 警告

**中毒の危険性** 燃料は毒性で、健康に害を及ぼします。

- 燃料が皮膚、目、衣服に接触しないよう注意してください。
- 燃料を飲み込んでしまった場合、即座に受診してください。
- 気化した燃料を吸い込まないでください。
- 接触した部分の肌は即座に多量の水で洗ってください。
- 燃料が目にはいった場合、速やかに水で洗い落とし、受診してください。
- 燃料が衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。

### 主な作業

- アクセルワイヤーの取り回しを点検します。 (図頁 94)
- フューエルタンクを位置決めし、両側のspoilerをラジエーター前のサイドに取り付けます。
- ケーブルやアクセルワイヤーを挟んだり、損傷しないよう注意します。



E00883-11



E00882-11

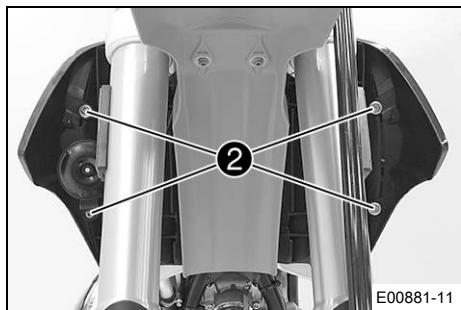
- スクリュー①をゴムブッシュと一緒に取り付け、しっかりと締めます。

#### 規定

シャーシ用その他の スクリュー	M6	10 Nm
--------------------	----	-------

#### (EXC シリーズ)

- ホーンとホーンホルダーの位置を調整します。



- スクリュー②をブッシングと一緒に取り付け、しっかりと締めます。

規定

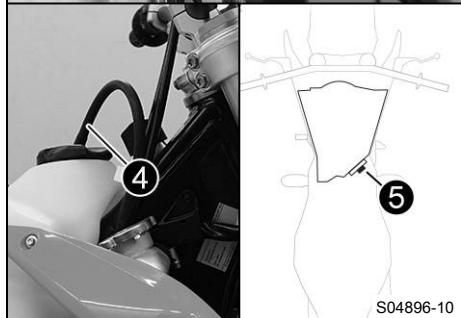
シャーシ用その他の スクリュー	M6	10 Nm
--------------------	----	-------



- 洗浄用キャップセットを取り外します。
- クイックカップリングを圧縮空気で念入りに清掃します。

**参考**

燃料ホースに汚れが絶対に入らないよう注意して下さい。汚れが入り込むとインジェクションバルブが詰まる原因となります。



- 糸くずの出ない布にシリコンスプレーを吹きかけ、クイックカップリングのOリングを軽くグリースアップします。

シリコンスプレー (☞ 頁 173)

- クイックカップリング③を差し込みます。

**参考**

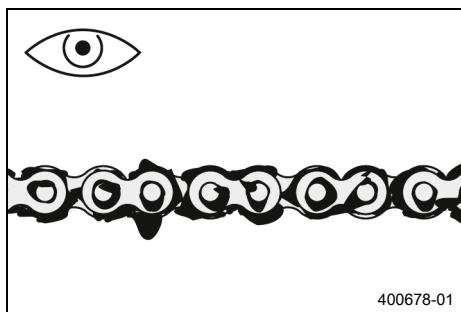
ケーブルと燃料ホースは、排気装置から安全な距離を確保して配線して下さい。

- フューエルタンクのエア抜き穴にホース④を差し込みます。
- 燃料ポンプのプラグ⑤を差し込みます。

**その後の作業**

- シートを取り付けます。 (☞ 頁 80)

## 12.33 チェーンの汚れを点検する



- チェーンに大きな汚れがついていないか点検します。
  - » チェーンがひどく汚れている:
    - チェーンを清掃します。 (☞ 頁 89)

## 12.34 チェーンを清掃する



### 警告

**事故の危険性** 潤滑剤がタイヤに付着すると、タイヤの粘着力が低下します。

- 潤滑剤を適切な洗浄剤を利用してタイヤから拭き取ってください。



### 警告

**事故の危険性** オイルやグリースがブレーキディスクに付着するとブレーキ性能が低下します。

- ブレーキディスクを常にオイルやグリースから保護してください。
- 必要な場合、ブレーキディスクをブレーキ洗浄剤を使って清掃してください。



### 情報

**環境汚染** 問題物資が環境汚染の原因となります。

- オイル、グリース、フィルター、燃料、洗浄剤、ブレーキフルードなどは、定められた規則に従い正しく廃棄して下さい。

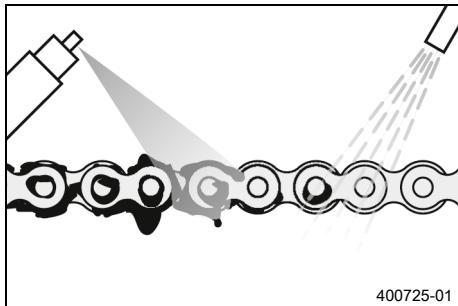


### 参考

チェーンの寿命は手入れの仕方で大きく変わってきます。

#### 準備作業

- 車両をリフトスタンドでジャッキアップします。 (図 頁 65)



#### その後の作業

- 車両をリフトスタンドから降ろします。 (図 頁 65)

## 12.35 チェーンの遊びを点検する



### 警告

**事故の危険性** 不適切なチェーンの遊びは部品を破損し、事故の原因となります。

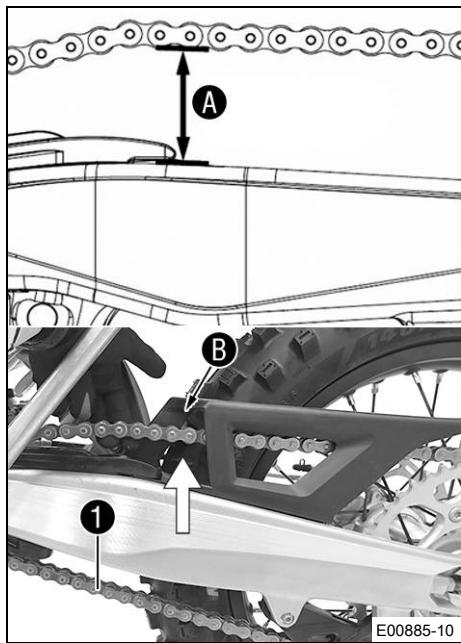
チェーンが貼りすぎているとチェーン、フロントスプロケット、リアスプロケット、そしてギアベアリングおよび後輪ベアリングが早期磨耗してしまいます。部品の中には過負荷により切れたり壊れたりするものもあります。

チェーンが緩すぎるとチェーンがフロントスプロケットまたはリアスプロケットから外れてしまします。その結果、後輪ロック、またはエンジン破損の原因となります。

- チェーンの遊びを定期的に点検してください。
- チェーンの遊びを規定値に従って設定してください。

#### 準備作業

- 車両をリフトスタンドでジャッキアップします。 (図 頁 65)



## 主な作業

- チェーンスライダーの端でチェーンを上に引き、チェーンの遊び **A** を確認します。

### 参考

その際、チェーン下部**①**がピンと張っている事を確認して下さい。

チェーンガードを取り付けた状態で、チェーンが少なくともチェーンガードのストップバー**②**の位置まで上に引ける状態でなければなりません。

チェーンは均等に擦り切れるとは限らないので、上記確認を何箇所か別の場所で繰り返し行って下さい。

チェーンの遊び	55 ... 58 mm
---------	--------------

» チェーンの遊びが規定通りになっていない:

- チェーンの遊びを調節します。 (☞ 頁 90)

## その後の作業

- 車両をリフトスタンドから降ろします。 (☞ 頁 65)

## 12.36 チェーンの遊びを調節する



### 警告

**事故の危険性** 不適切なチェーンの遊びは部品を破損し、事故の原因となります。

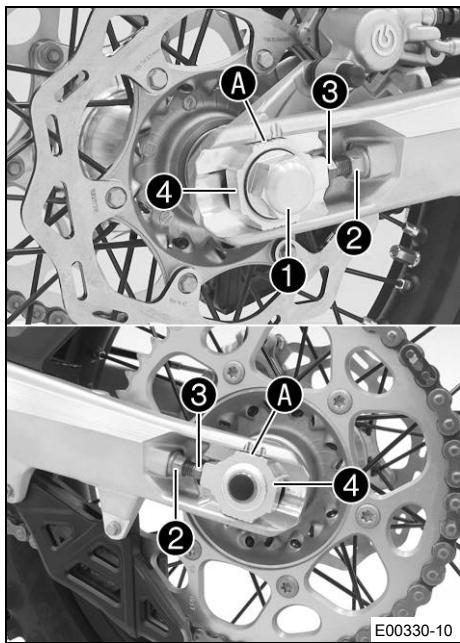
チェーンが貼りすぎているとチェーン、フロントスプロケット、リアスプロケット、そしてギアベアリングおよび後輪ペアリングが早期磨耗してしまいます。部品の中には過負荷により切れたり壊れたりするものもあります。

チェーンが緩すぎるとチェーンがフロントスプロケットまたはリアスプロケットから外れてしまします。その結果、後輪ロック、またはエンジン破損の原因となります。

- チェーンの遊びを定期的に点検してください。
- チェーンの遊びを規定値に従って設定してください。

## 準備作業

- 車両をリフトスタンドでジャッキアップします。 (☞ 頁 65)
- チェーンの遊びを点検します。 (☞ 頁 89)

**主な作業**

- ナット①を緩めます。
- ナット②を緩めます。
- 左右の調節スクリュー③を回し、チェーンの遊びを調節します。

**規定**

チェーンの遊び	55 ... 58 mm
左右の調節スクリュー③を回し、両側のチェーンアジャスターのマーキングが目印Aに対して同じ位置に来るよう調節します。これにより後輪の位置が正しく調整されます。	

- ナット②をしっかりと締めます。
- チェーンアジャスター④が調節スクリュー③に接触している事を確認します。
- ナット①をしっかりと締めます。

**規定**

後輪アクスルシャフト用ナット	M20x1.5	80 Nm
----------------	---------	-------

**参考**

チェーンアジャスターの調整幅が大きく(32 mm)、同じチェーン長さで異なる二次減速比を実現する事が可能です。

チェーンアジャスター④は180度回転させる事ができます。

**その後の作業**

- 車両をリフトスタンドから降ろします。(☞ 頁 65)

### 12.37 チェーン、リアスプロケット、フロントスプロケット、チェーンガイドを点検する

**準備作業**

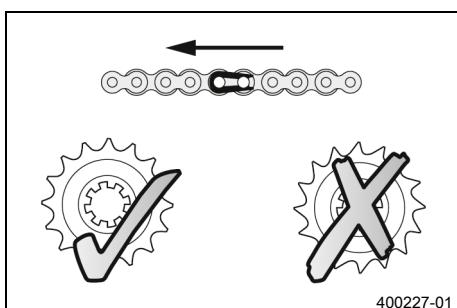
- 車両をリフトスタンドでジャッキアップします。(☞ 頁 65)

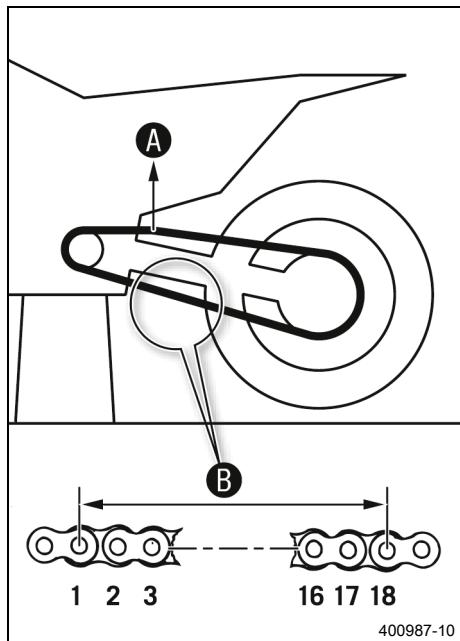
**主な作業**

- ギアをニュートラルに入れます。
- チェーン、リアスプロケット、フロントスプロケットの磨耗を点検します。
  - » スプロケットまたはチェーンピニオンがスムーズに動く場合 :
  - 駆動部品一式を交換します。 ↗

**参考**

フロントスプロケット、リアスプロケット、チェーンは必ず一緒に交換して下さい。





- チェーン上部を以下に記載した重量 **A** で引っ張ります。

#### 規定

チェーンの磨耗測定における重量	10 ... 15 kg
-----------------	--------------

- チェーン下部でローラー 18 個分の長さ **B** を測定します。



#### 参考

チェーンは均等に擦り切れるとは限らないので、上記確認を何箇所か別の場所で繰り返し行って下さい。

チェーンが最も長い部分でのローラー 18 個分の長さ <b>B</b> の最大値	272 mm
---	--------

» 長さ **B** が規定値より大きい:

- 駆動部品一式を交換します。 ↗



#### 参考

新しいチェーンを取り付ける際は、同時にリアスプロケットとフロントスプロケットも交換して下さい。

新しいチェーンを摩耗が進んだ古いリアスプロケットまたはフロントスプロケットと一緒に使用すると、早く摩耗してしまいます。

- チェーンスライダーガードの磨耗を点検します。

» チェーンのピンの下端が、チェーンスライダーガードの高さ、またはそれより下にある:

- チェーンスライダーガードを交換します。 ↗

- チェーンスライダーガードがきちんと固定されているか確認します。

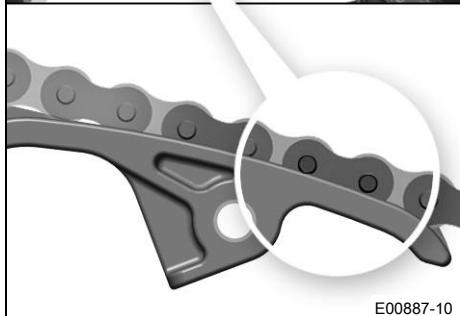
» チェーンスライダーガードがガタついている:

- チェーンスライダーガードのスクリューをしっかりと締めます。

#### 規定

チェーンスライダーガード用スクリュー	M6	10 Nm	Loctite®243™
--------------------	----	-------	--------------



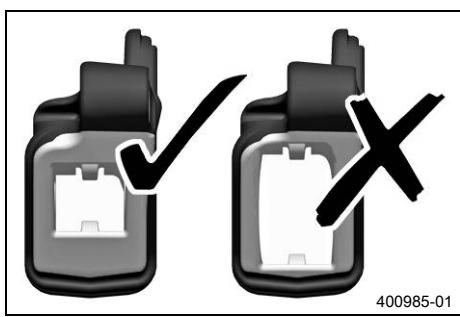


E00887-10

- チェーンスライダーの摩耗を点検します。
  - » チェーンのピンの下端が、チェーンスライダーの高さ、またはそれより下にある:
    - チェーンスライダーを交換します。 ↗
- チェーンスライダーがきちんと固定されているか確認します。
  - » チェーンスライダーがガタついている:
    - チェーンスライダーのスクリューをしっかりと締めます。

## 規定

チェーンスライ ダー用スクリュー	M8	15 Nm
---------------------	----	-------



400985-01

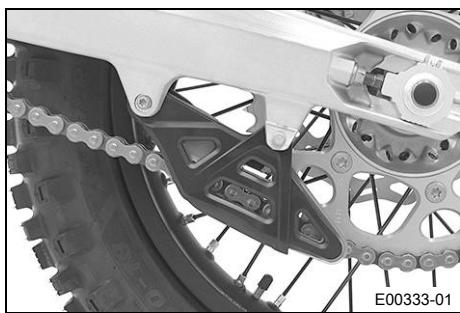
- チェーンガイドの磨耗を点検します。



## 参考

チェーンガイドの摩耗は前面の状態を見て判断します。

- » チェーンガイドの色の明るい部分が摩耗している:
  - チェーンガイドを交換します。 ↗



E00333-01

- チェーンガイドがきちんと固定されているか確認します。
  - » チェーンガイドがガタついている:
    - チェーンガイドのスクリューをしっかりと締めます。

## 規定

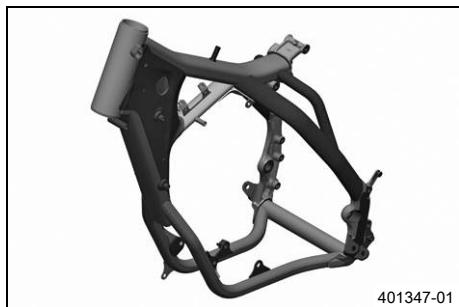
シャーシ用その他のスクリュー	M6	10 Nm
----------------	----	-------

## その後の作業

- 車両をリフトスタンドから降ろします。 (☞ 頁 65)



### 12.38 フレームを点検する



- フレームに損傷、ひび、変形がないか確認します。

» フレームにひび、損傷、変形が見られる:

- フレームを交換します。 ↗

規定

フレーム周辺の修理はしないで下さい。

### 12.39 スイングアームを点検する



- スイングアームに損傷、ひび、変形がないか確認します。

» スイングアームにひび、損傷、変形が見られる:

- スイングアームを交換します。 ↗

規定

スイングアーム周辺の修理はしないで下さい。

### 12.40 アクセルワイヤーの取り回しを点検する

#### 準備作業

- シートを取り外します。 (☞ 頁 79)
- フューエルタンクを取り外します。 ↗ (☞ 頁 85)

#### 主な作業

- アクセルワイヤーの取り回しを点検します。

2本のアクセルワイヤーが揃って、ハンドルバーの後ろからフレーム右のフューエルタンク取付け部の上を通り、スロットルバルブ本体に取り回されている事を確認して下さい。アクセルワイヤーは両方ともフューエルタンク取り付け部分のゴムバンドの後ろに取り回されている事を確認して下さい。

» アクセルワイヤーの取り回しが規定通りになっていない:

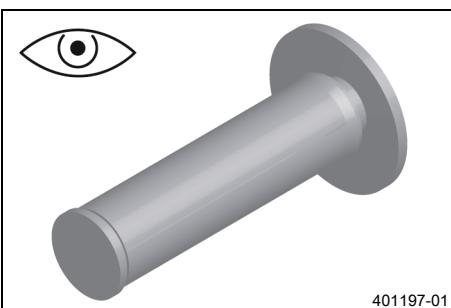
- アクセルワイヤーの取り回しを修正します。



#### その後の作業

- フューエルタンクを取り付けます。 ↗ (☞ 頁 87)
- シートを取り付けます。 (☞ 頁 80)

### 12.41 グリップゴムを点検する



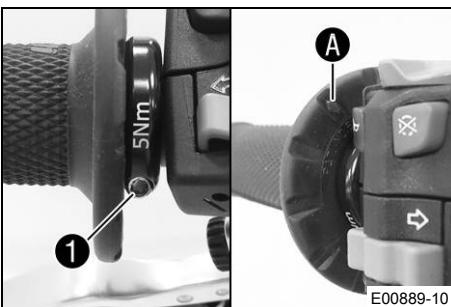
- ハンドルバーのグリップゴムに損傷や摩耗がないか、グリップゴムがきちんと固定されているかを確認します。

**i 参考**

グリップゴムは左ではスリーブ上、右ではスロットルグリップのグリップパイプで硬化されています。左スリーブはハンドルバーに固定されています。  
グリップゴムはスリーブもしくはスロットルパイプと一緒にのみ交換することができます。

» グリップゴムが破損または磨耗している:

- グリップゴムを交換します。



- スクリュー①がきちんと固定されているか確認します。

規定

固定グリップ用 スクリュー	M4	5 Nm	Loctite®243™
------------------	----	------	--------------

ひし形のマークAは図のようにはっきりと見える状態でなければなりません。

### 12.42 クラッチレバーの基本位置を調整する



- クラッチレバーの基本位置を調節スクリュー①で手の大きさに合わせて調整します。

**i 参考**

調節スクリューを時計と反対回りに回すと、クラッチレバーはハンドルバーに近づきます。  
調節スクリューを時計回りに回すと、クラッチレバーはハンドルバーから遠ざかります。  
設定範囲には限界があります。  
調節スクリューは必ず手で回し、無理な力をかけないで下さい。  
調節作業は運転中に行わないで下さい。

### 12.43 油圧式クラッチのフルードレベルを点検・調節する



#### 警告

**皮膚の炎症** ブレーキフルードに接触すると皮膚の炎症の原因となります。

- ブレーキフルードは子供の手の届かないところに保管してください。
- 適切な保護服、保護メガネを着用して下さい。
- ブレーキフルードが皮膚、目、衣服に接触しないよう注意してください。
- ブレーキフルードを飲み込んでしまった場合、即座に受診してください。
- 接触した部分の肌は多量の水で洗ってください。
- ブレーキフルードが目に入ってしまった場合、速やかに水で洗い落とし、受診してください。
- ブレーキフルードが衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。



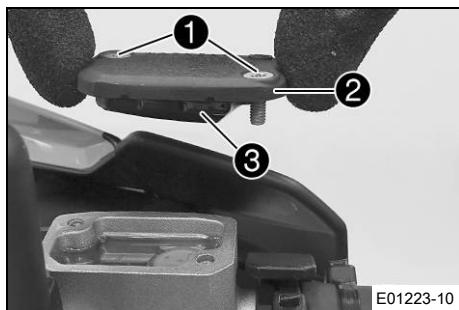
## 情報

**環境汚染** 問題物資が環境汚染の原因となります。

- オイル、グリース、フィルター、燃料、洗浄剤、ブレーキフルードなどは、定められた規則に従い正しく廃棄して下さい。

## i 参考

クラッチディスクの摩耗が進むにつれ、フルードレベルが高くなります。  
ブレーキフルード DOT 5 を絶対に使用しないで下さい！シリコンオイルをベースにしており、紫色に着色してあります。ガスケットとクラッチワイヤーはブレーキフルード DOT 5 での使用に適していません。  
塗装された部品にブレーキフルードがつかないよう注意して下さい。塗装がはげます！  
密閉された容器に保存された、きれいなブレーキフルードのみを使用して下さい！



E01223-10

- ハンドルバーに取り付けられている油圧式クラッチのリザーバータンクを水平な状態にします。
- スクリュー①を外します。
- カバー②をダイヤフラム③と一緒に外します。
- フルードのレベルを確認します。

タンクの上端からフルード レベルまで	4 mm
-----------------------	------

» フルードのレベルが規定通りになっていない:

- 油圧式クラッチのフルードレベルを調節します。

**ブレーキフルード DOT 4 / DOT 5.1 (☞ 頁 172)**

- カバーとダイヤフラムの位置を調整します。スクリューを取り付け、しっかりと締めます。

## i 参考

ブレーキフルードが溢れたりこぼれたりした場合は、すぐに水で洗い流して下さい。

## 12.44 油圧式クラッチのフルードを交換する ↗



## 警告

**皮膚の炎症** ブレーキフルードに接触すると皮膚の炎症の原因となります。

- ブレーキフルードは子供の手の届かないところに保管してください。
- 適切な保護服、保護メガネを着用して下さい。
- ブレーキフルードが皮膚、目、衣服に接触しないよう注意してください。
- ブレーキフルードを飲み込んでしまった場合、即座に受診してください。
- 接触した部分の肌は多量の水で洗ってください。
- ブレーキフルードが目に入ってしまった場合、速やかに水で洗い落とし、受診してください。
- ブレーキフルードが衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。



## 情報

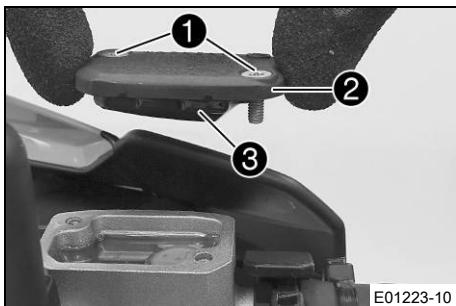
**環境汚染** 問題物資が環境汚染の原因となります。

- オイル、グリース、フィルター、燃料、洗浄剤、ブレーキフルードなどは、定められた規則に従い正しく廃棄して下さい。

**参考**

ブレーキフルード DOT 5 を絶対に使用しないで下さい！シリコンオイルをベースにしており、紫色に着色してあります。ガスケットとクラッチワイヤーはブレーキフルード DOT 5 での使用に適していません。

塗装された部品にブレーキフルードがつかないよう注意して下さい。塗装がはげます！  
密閉された容器に保存された、きれいなブレーキフルードのみを使用して下さい！



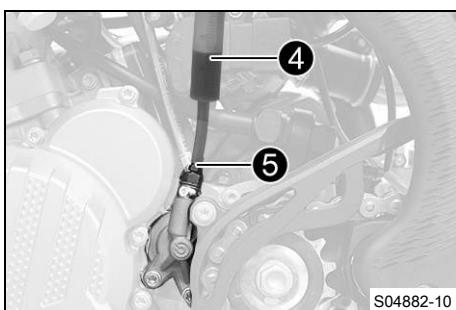
- ハンドルバーに取り付けられている油圧式クラッチのリザーバータンクを水平な状態にします。
- スクリュー①を外します。
- カバー②をダイヤフラム③と一緒に外します。

- エア抜き用注射器④を適切なフルードで満たします。

注射器 (50329050000)
-------------------

ブレーキフルード DOT 4 / DOT 5.1 (☞ 頁 172)
------------------------------------

- クラッチスレーブシリンダーのカバーキャップを外し、エアブリーダー⑤を緩め、エア抜き用注射器④を取り付けます。



- マスターシリンダーの穴⑥からフルードが気泡のない状態で出てくるまで、フルードを注入します。

- 時々マスターシリンダーのリザーバータンクからフルードを吸い取り、フルードが溢れ出るのを防ぎます。
- エア抜き用注射器を取り外します。エアブリーダーをしっかりと締めます。保護キャップを取り付けます。
- 油圧式クラッチのフルードレベルを調節します。

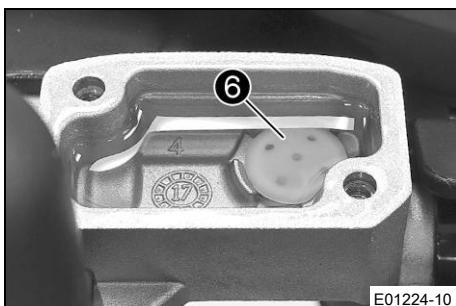
規定

タンクの上端からフルード レベルまで	4 mm
-----------------------	------

- カバーとダイヤフラムの位置を調整します。スクリューを取り付け、しっかりと締めます。

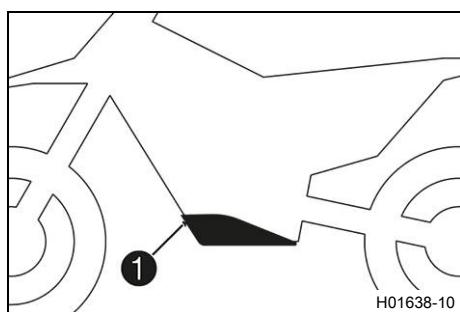
**参考**

ブレーキフルードが溢れたりこぼれたりした場合は、すぐに水で洗い流して下さい。



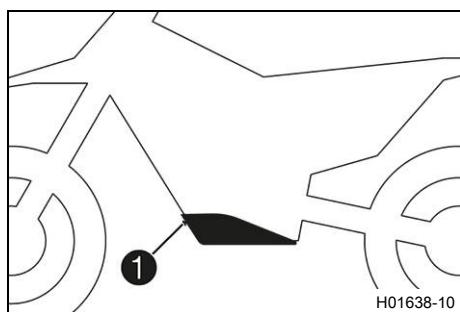
- カバーとダイヤフラムの位置を調整します。スクリューを取り付け、しっかりと締めます。

### 12.45 エンジンガードを取り外す (特別モデルシリーズ)



- スクリュー①を外し、エンジンガードを取り外します。

### 12.46 エンジンガードを取り付ける (特別モデルシリーズ)



- エンジンガードの後方をフレームにかけ、前方を上に上げます。
- スクリュー①を取り付け、しっかりと締めます。

規定

シャーシ用その他の スクリュー	M6	10 Nm
--------------------	----	-------

### 13.1 ブレーキレバーの遊びを点検する

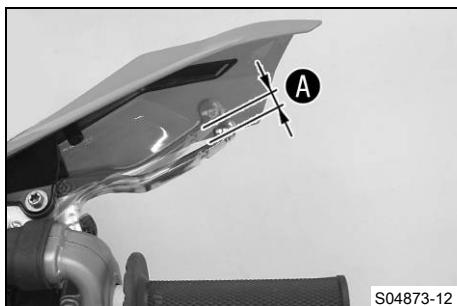


#### 警告

**事故の危険性** ブレーキシステムは過熱状態では稼動しません。

ブレーキレバーに遊びがないと、ブレーキシステム内で前輪ブレーキに圧力がかかります。

- ブレーキレバーの遊びを規定値に従って設定してください。



S04873-12

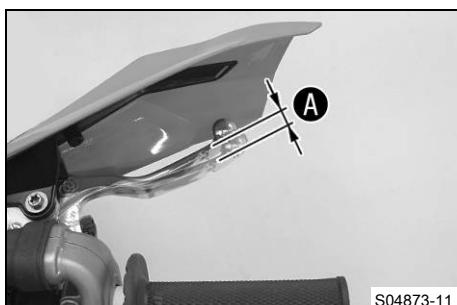
#### (EXC シリーズ)

- ブレーキレバーをハンドルバーに向かって押し、遊び **A** を確認します。

ブレーキレバーの遊び	$\geq 3 \text{ mm}$
------------	---------------------

» 遊びが規定通りになっていない:

- ブレーキレバーの遊びを調節します。 (☞ 頁 99)



S04873-11

#### (XC-W シリーズ)

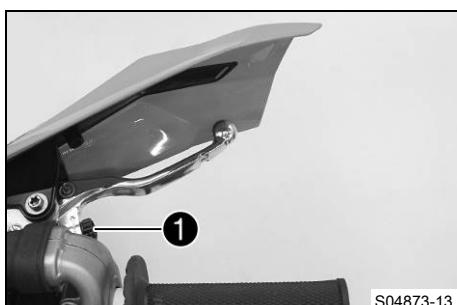
- ブレーキレバーを前に押し、遊び **A** を確認します。

ブレーキレバーの遊び	$\geq 3 \text{ mm}$
------------	---------------------

» 遊びが規定通りになっていない:

- ブレーキレバーの基本位置を調整します。  
(☞ 頁 100)

### 13.2 ブレーキレバーの遊びを調節する (EXC シリーズ)



S04873-13

- ブレーキレバーの遊びを点検します。 (☞ 頁 99)
- ブレーキレバーの遊びを調節スクリュー①で調節します。



#### 参考

調節スクリューを時計回りに回すと遊びが小さくなります。ブレーキ作動点がハンドルバーから遠ざかります。

調節スクリューを時計と反対回りに回すと遊びが大きくなります。ブレーキ作動点がハンドルバーに近づきます。

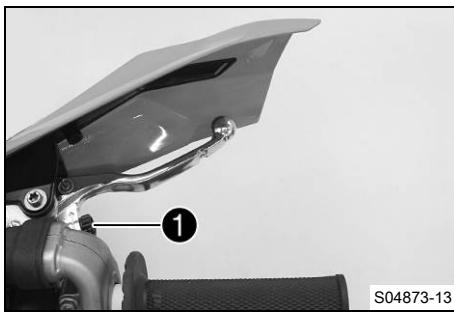
設定範囲には限界があります。

調節スクリューは必ず手で回し、無理な力をかけないで下さい。

調節作業は運転中に行わないで下さい。



## 13.3 ブレーキレバーの基本位置を調整する (XC-W シリーズ)



S04873-13

- ブレーキレバーの遊びを点検します。 (☞ 頁 99)
- ブレーキレバーの基本位置を調節スクリュー①で手の大きさに合わせて調整します。



### 参考

調節スクリューを時計回りに回すと、ブレーキレバーはハンドルバーから遠ざかります。  
調節スクリューを時計と反対回りに回すと、ブレーキレバーはハンドルバーに近づきます。  
設定範囲には限界があります。  
調節スクリューは必ず手で回し、無理な力をかけないで下さい。  
調節作業は運転中に行わないで下さい。

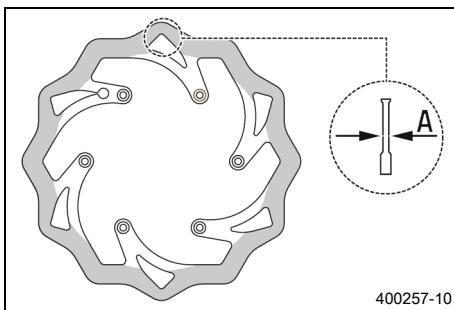
## 13.4 ブレーキディスクを点検する



### 警告

**事故の危険性** 磨耗したブレーキディスクはブレーキ性能を低下させます。

- 磨耗したブレーキディスクは速やかに交換しなければなりません。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



400257-10

- 前輪と後輪のブレーキディスクの何箇所かでディスクの厚み A を確認します。



### 参考

ブレーキディスクの厚みは、ブレーキパッドと接触する範囲が摩耗により減っていきます。

**ブレーキディスク磨耗限界 (XC-W 全標準モデル, EXC 全標準モデル)**

前方	2.5 mm
後輪	3.5 mm

**ブレーキディスク磨耗限界 (特別モデルシリーズ)**

前方	2.5 mm
後輪	3.7 mm

» ブレーキディスクの厚みが規定値を下回っている:

- 前輪ブレーキのブレーキディスクを交換します。
  - 後輪ブレーキのブレーキディスクを交換します。
- 前輪と後輪のブレーキディスクでひび、損傷、変形がないかを点検します。

» ブレーキディスクにひび、損傷、変形が見られる:

- 前輪ブレーキのブレーキディスクを交換します。
- 後輪ブレーキのブレーキディスクを交換します。

### 13.5 前輪ブレーキのブレーキフルードのレベルを点検する



#### 警告

**事故の危険性** ブレーキシステムはブレーキフルード・レベルが不十分であると稼動しません。

ブレーキフルードのレベルが規定のマーキングもしくは規定値を下回っていたら、ブレーキシステムに漏れがあるか、ブレーキパッドが摩耗しています。

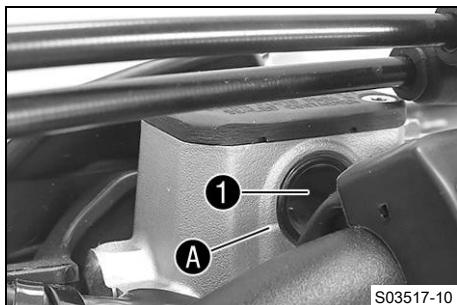
- ブレーキシステムを点検し、問題を解決するまでは車両を走行させないでください。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



#### 警告

**事故の危険性** 老化したブレーキフルードはブレーキ性能を低下させます。

- 前輪および後輪ブレーキのブレーキフルードがサービスプランに従って交換されていることを確認してください。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



- ハンドルバーに取り付けられているブレーキフルードリザーバーを水平な状態にします。
- ブレーキフルードのレベルを点検窓①で確認します。
  - » ブレーキフルードのレベルがⒶのマーキングを下回っている:
  - 前輪ブレーキのブレーキフルードを補給します。 ↗ (☞ 頁 101)

### 13.6 前輪ブレーキのブレーキフルードを補給する ↗



#### 警告

**事故の危険性** ブレーキシステムはブレーキフルード・レベルが不十分であると稼動しません。

ブレーキフルードのレベルが規定のマーキングもしくは規定値を下回っていたら、ブレーキシステムに漏れがあるか、ブレーキパッドが摩耗しています。

- ブレーキシステムを点検し、問題を解決するまでは車両を走行させないでください。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



#### 警告

**皮膚の炎症** ブレーキフルードに接触すると皮膚の炎症の原因となります。

- ブレーキフルードは子供の手の届かないところに保管してください。
- 適切な保護服、保護メガネを着用して下さい。
- ブレーキフルードが皮膚、目、衣服に接触しないよう注意してください。
- ブレーキフルードを飲み込んでしまった場合、即座に受診してください。
- 接触した部分の肌は多量の水で洗ってください。
- ブレーキフルードが目に入ってしまった場合、速やかに水で洗い落とし、受診してください。
- ブレーキフルードが衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。



#### 警告

**事故の危険性** 老化したブレーキフルードはブレーキ性能を低下させます。

- 前輪および後輪ブレーキのブレーキフルードがサービスプランに従って交換されていることを確認してください。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



## 情報

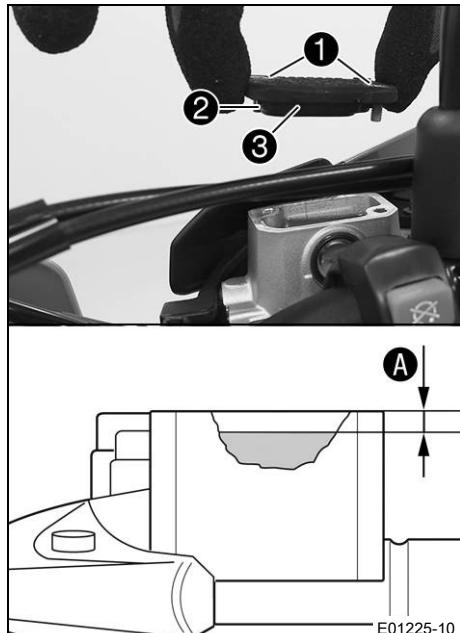
**環境汚染** 問題物資が環境汚染の原因となります。

- オイル、グリース、フィルター、燃料、洗浄剤、ブレーキフルードなどは、定められた規則に従い正しく廃棄して下さい。



## 参考

ブレーキフルード DOT 5 を絶対に使用しないで下さい！シリコンオイルをベースにしており、紫色に着色してあります。ガスケットとブレーキホースはブレーキフルード DOT 5 での使用に適していません。塗装された部品にブレーキフルードがつかないよう注意して下さい。塗装がはげます！密閉された容器に保存された、きれいなブレーキフルードのみを使用して下さい！



## 準備作業

- 前輪ブレーキのブレーキパッドを点検します。 (☞ 頁 102)

## 主な作業

- ハンドルバーに取り付けられているブレーキフルードリザーバーを水平な状態にします。
- スクリュー①を外します。
- カバー②をダイヤフラム③と一緒に外します。
- ブレーキフルードを A の位置まで注ぎます。

## 規定

寸法 A(タンクの上縁から ブレーキフルードのレベル まで)	5 mm
--------------------------------------	------

ブレーキフルード DOT 4 / DOT 5.1 (☞ 頁 172)

- カバーとダイヤフラムの位置を調整します。スクリューを取り付け、しっかりと締めます。



## 参考

ブレーキフルードが溢れたりこぼれたりした場合は、すぐに水で洗い流して下さい。

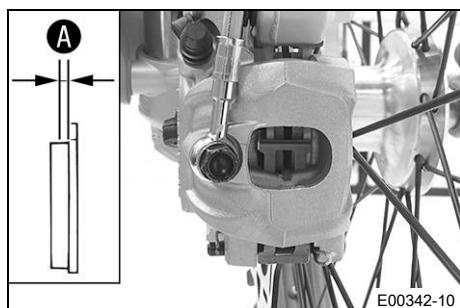
## 13.7 前輪ブレーキのブレーキパッドを点検する



## 警告

**事故の危険性** 磨耗したブレーキパッドはブレーキ性能を低下させます。

- 磨耗したブレーキパッドは速やかに交換しなければなりません。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



- ブレーキパッド厚み A の最小値を確認します。

厚み最小値 A	≥ 1 mm
---------	--------

» 厚みが最小値を下回っている:

- 前輪ブレーキのブレーキパッドを交換します。 (☞ 頁 103)

- ブレーキパッドにひびや損傷がないか点検します。  
» ひびや損傷が見られる:

- 前輪ブレーキのブレーキパッドを交換します。 
- ( 頁 103)

## 13.8 前輪ブレーキのブレーキパッドを交換する



### 警告

**事故の危険性** メンテナンスが不適切な場合、ブレーキシステムが稼動しなくなります。

- メンテナンス作業および修理が正しく行われていることを確認してください。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



### 警告

**皮膚の炎症** ブレーキフルードに接触すると皮膚の炎症の原因となります。

- ブレーキフルードは子供の手の届かないところに保管してください。
- 適切な保護服、保護メガネを着用して下さい。
- ブレーキフルードが皮膚、目、衣服に接触しないよう注意してください。
- ブレーキフルードを飲み込んでしまった場合、即座に受診してください。
- 接触した部分の肌は多量の水で洗ってください。
- ブレーキフルードが目に入ってしまった場合、速やかに水で洗い落とし、受診してください。
- ブレーキフルードが衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。



### 警告

**事故の危険性** 老化したブレーキフルードはブレーキ性能を低下させます。

- 前輪および後輪ブレーキのブレーキフルードがサービスプランに従って交換されていることを確認してください。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



### 警告

**事故の危険性** オイルやグリースがブレーキディスクに付着するとブレーキ性能が低下します。

- ブレーキディスクを常にオイルやグリースから保護してください。
- 必要な場合、ブレーキディスクをブレーキ洗浄剤を使って清掃してください。



### 警告

**事故の危険性** 認可されていないブレーキパッドではブレーキ性能が異なります。

ブレーキパッドの中には KTM 車両のためにテストおよび認可されていないものがあります。これらブレーキパッドの構造・摩擦係数は、純正部品のブレーキパッドと大きく異なる場合があり、これによりブレーキ性能も大きく異なることになります。

納車時のブレーキパッドと異なるものが使用される場合、これが認可された純正部品のブレーキパッドに相当するものであるという法定保証は無効になります。このような場合、この車両は納車時の状態ではないものと判断され、メーカー保証は無効となります。

- ブレーキパッドは KTM により認可され推奨されているものののみをご使用下さい。



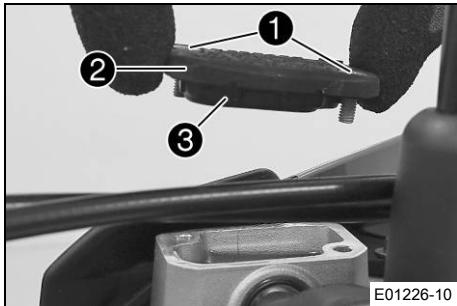
### 情報

**環境汚染** 問題物質が環境汚染の原因となります。

- オイル、グリース、フィルター、燃料、洗浄剤、ブレーキフルードなどは、定められた規則に従い正しく廃棄して下さい。

## i 参考

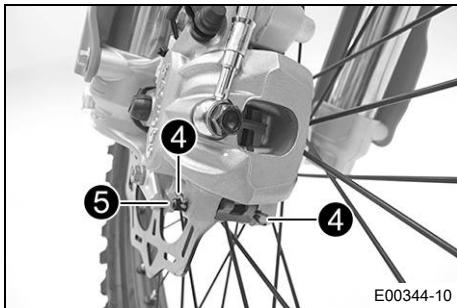
ブレーキフルード DOT 5 を絶対に使用しないで下さい！シリコンオイルをベースにしており、紫色に着色してあります。ガスケットとブレーキホースはブレーキフルード DOT 5 での使用に適していません。塗装された部品にブレーキフルードがつかないよう注意して下さい。塗装がはげます！密閉された容器に保存された、きれいなブレーキフルードのみを使用して下さい！



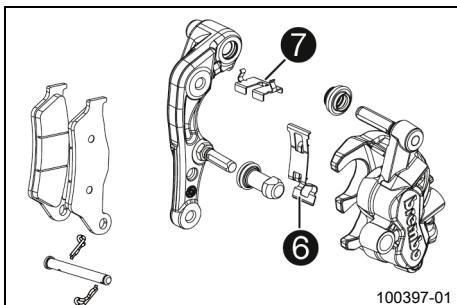
- ハンドルバーに取り付けられているブレーキフルードリザーバーを水平な状態にします。
- スクリュー①を外します。
- カバー②をダイヤフラム③と一緒に外します。
- 手でブレーキキャリパーをブレーキディスクに向かって押し、ブレーキピストンを押し戻します。ブレーキフルードがブレーキフルードリザーバーから溢れていないか確認し、必要な場合は吸い取ります。

## i 参考

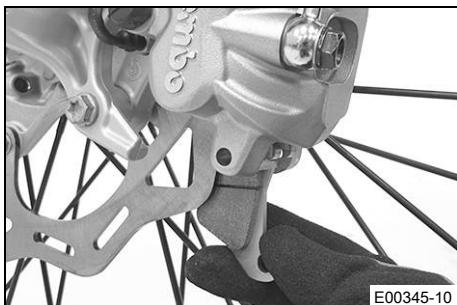
ブレーキピストンを押し戻す際、ブレーキキャリパーがスポークに当らないよう注意して下さい。



- スナップピン④を外し、ボルト⑤を抜き、ブレーキパッドを取り出します。
- ブレーキキャリパーとキャリパーサポートを清掃します。



- ブレーキキャリパーのリーフスプリング⑥とキャリパーサポートのブレーキパッドスライディングメタルスチール⑦が正しい位置にあるか確認します。

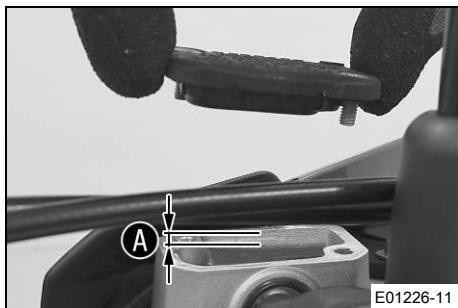


- 新しいブレーキパッドを入れ、ボルトを差し込み、スナップピンを取り付けます。

## i 参考

ブレーキパッドは必ずセットで交換して下さい。

- ブレーキパッドがブレーキディスクに接触して抵抗が感じられるまで、ブレーキレバーを何度も作動します。



- ブレーキフルードのレベルが**A**で示した位置にくるよう調節します。

規定

寸法 <b>A</b> (タンクの上縁から ブレーキフルードのレベル まで)	5 mm
--	------

ブレーキフルード DOT 4 / DOT 5.1 (☞ 頁 172)

- カバーとダイヤフラムの位置を調整します。スクリューを取り付け、しっかりと締めます。



### 参考

ブレーキフルードが溢れたりこぼれたりした場合は、すぐに水で洗い流して下さい。

## 13.9 ブレーキペダルの遊びを点検する

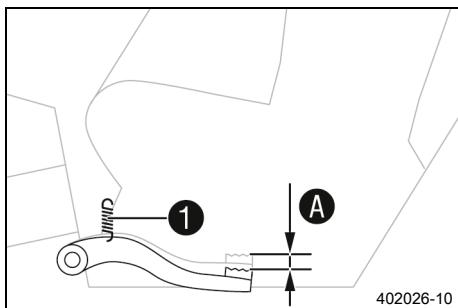


### 警告

事故の危険性 ブレーキシステムは過熱状態では稼動しません。

ブレーキペダルに遊びがないと、ブレーキシステム内で後輪ブレーキに圧力がかかります。

- ブレーキペダルの遊びを規定値に従って設定してください。



- スプリング①を外します。
- ブレーキペダルを、ペダルが上がり切った状態とフットブレーキシリンダーのピストンに触れる間で何度も動かし、遊び**A**を確認します。

規定

ブレーキペダルの遊び	3 ... 5 mm
------------	------------

» 遊びが規定通りになっていない:

- ブレーキペダルの基本位置を調整します。☞ (頁 105)
- スプリング①を取り付けます。

## 13.10 ブレーキペダルの基本位置を調整する ☞

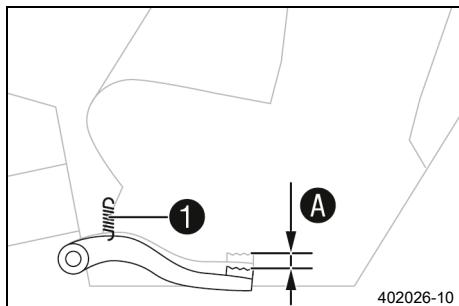


### 警告

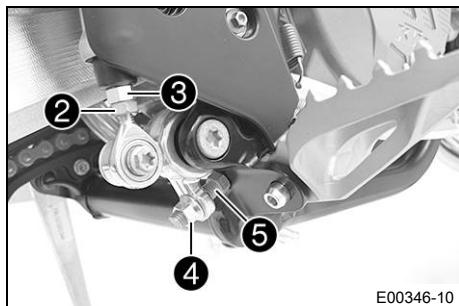
事故の危険性 ブレーキシステムは過熱状態では稼動しません。

ブレーキペダルに遊びがないと、ブレーキシステム内で後輪ブレーキに圧力がかかります。

- ブレーキペダルの遊びを規定値に従って設定してください。



- スプリング①を外します。



- ナット②を緩め、プッシュロッド③と回し戻して、遊びが最大になるように調整します。
- ナット④を緩め、スクリュー⑤を回し、ブレーキペダルの基本位置を好みに合わせて調節します。

### 参考

設定範囲には限界があります。

- プッシュロッド③を回し、遊びAが得られるように調節します。場合によっては、ブレーキペダルの基本位置を調整します。

規定

ブレーキペダルの遊び	3 ... 5 mm
------------	------------

- スクリュー⑤を動かないように押さえ、ナット④をしっかりと締めます。

規定

ブレーキペダルス トップ用ナット	M8	20 Nm
---------------------	----	-------

- プッシュロッド③を押さえ、ナット②をしっかりと締めます。

規定

シャーシ用その他の ナット	M6	10 Nm
------------------	----	-------

- スプリング①を取り付けます。

## 13.11 後輪ブレーキのブレーキフルードのレベルを点検する



### 警告

**事故の危険性** ブレーキシステムはブレーキフルード・レベルが不十分であると稼動しません。

ブレーキフルードのレベルが規定のマーキングもしくは規定値を下回っていたら、ブレーキシステムに漏れがあるか、ブレーキパッドが摩耗しています。

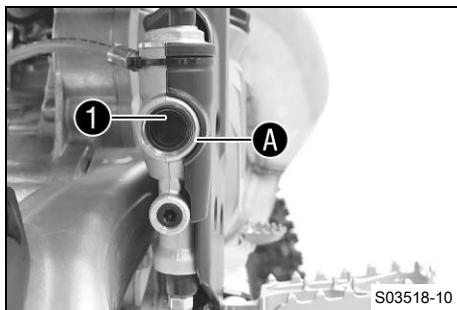
- ブレーキシステムを点検し、問題を解決するまでは車両を走行させないでください。(お近くのKTM正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



### 警告

**事故の危険性** 老化したブレーキフルードはブレーキ性能を低下させます。

- 前輪および後輪ブレーキのブレーキフルードがサービスプランに従って交換されていることを確認してください。(お近くのKTM正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



- 車両を垂直に立てます。
- ブレーキフルードのレベルを点検窓①で確認します。
  - » フルードのレベルがAのマーキングを下回っている:
    - 後輪ブレーキのブレーキフルードを補給します。 (☞ 頁 107)

### 13.12 後輪ブレーキのブレーキフルードを補給する ↗



#### 警告

**事故の危険性** ブレーキシステムはブレーキフルード・レベルが不十分であると稼動しません。

ブレーキフルードのレベルが規定のマーキングもしくは規定値を下回っていたら、ブレーキシステムに漏れがあるか、ブレーキパッドが摩耗しています。

- ブレーキシステムを点検し、問題を解決するまでは車両を走行させないでください。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



#### 警告

**皮膚の炎症** ブレーキフルードに接触すると皮膚の炎症の原因となります。

- ブレーキフルードは子供の手の届かないところに保管してください。
- 適切な保護服、保護メガネを着用して下さい。
- ブレーキフルードが皮膚、目、衣服に接触しないよう注意してください。
- ブレーキフルードを飲み込んでしまった場合、即座に受診してください。
- 接触した部分の肌は多量の水で洗ってください。
- ブレーキフルードが目に入ってしまった場合、速やかに水で洗い落とし、受診してください。
- ブレーキフルードが衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。



#### 警告

**事故の危険性** 老化したブレーキフルードはブレーキ性能を低下させます。

- 前輪および後輪ブレーキのブレーキフルードがサービスプランに従って交換されていることを確認してください。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



#### 情報

**環境汚染** 問題物質が環境汚染の原因となります。

- オイル、グリース、フィルター、燃料、洗浄剤、ブレーキフルードなどは、定められた規則に従い正しく廃棄して下さい。



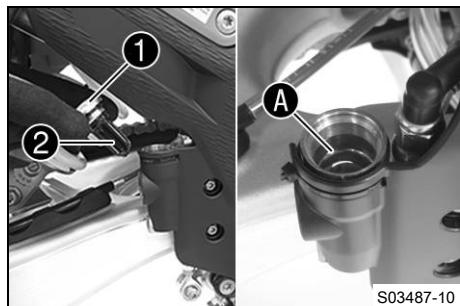
#### 参考

ブレーキフルード DOT 5 を絶対に使用しないで下さい！シリコンオイルをベースにしており、紫色に着色してあります。ガスケットとブレーキホースはブレーキフルード DOT 5 での使用に適していません。塗装された部品にブレーキフルードがつかないよう注意して下さい。塗装がはげます！密閉された容器に保存された、きれいなブレーキフルードのみを使用して下さい！

#### 準備作業

- 後輪ブレーキのブレーキパッドを点検します。 (☞ 頁 108)

# 13 ブレーキシステム



## 主な作業

- 車両を垂直に立てます。
- スクリューキャップ①をダイヤフラム②、Oリングと一緒に外します。
- ブレーキフルードをAのマーキングの位置まで注ぎます。  
ブレーキフルード DOT 4 / DOT 5.1 (☞ 頁 172)
- スクリューキャップをダイヤフラム、Oリングと一緒に取り付け、しっかりと締めます。

## 参考

ブレーキフルードが溢れたりこぼれたりした場合は、すぐに水で洗い流して下さい。

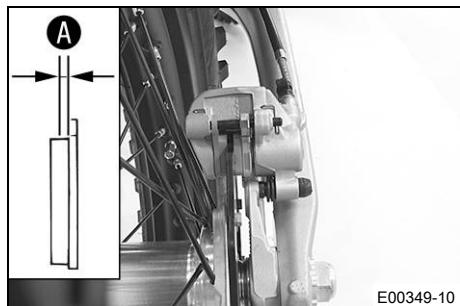
## 13.13 後輪ブレーキのブレーキパッドを点検する



### 警告

**事故の危険性** 磨耗したブレーキパッドはブレーキ性能を低下させます。

- 磨耗したブレーキパッドは速やかに交換しなければなりません。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



- ブレーキパッド厚みAの最小値を確認します。

厚み最小値A	≥ 1 mm
--------	--------

» 厚みが最小値を下回っている:

- 後輪ブレーキのブレーキパッドを交換します。☞ 頁 108)

- ブレーキパッドにひびや損傷がないか点検します。

» ひびや損傷が見られる:

- 後輪ブレーキのブレーキパッドを交換します。☞ 頁 108)

## 13.14 後輪ブレーキのブレーキパッドを交換する



### 警告

**事故の危険性** メンテナンスが不適切な場合、ブレーキシステムが稼動しなくなります。

- メンテナンス作業および修理が正しく行われていることを確認してください。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



### 警告

**皮膚の炎症** ブレーキフルードに接触すると皮膚の炎症の原因となります。

- ブレーキフルードは子供の手の届かないところに保管してください。
- 適切な保護服、保護メガネを着用してください。
- ブレーキフルードが皮膚、目、衣服に接触しないよう注意してください。
- ブレーキフルードを飲み込んでしまった場合、即座に受診してください。
- 接触した部分の肌は多量の水で洗ってください。
- ブレーキフルードが目に入ってしまった場合、速やかに水で洗い落とし、受診してください。
- ブレーキフルードが衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。

**警告**

**事故の危険性** 老化したブレーキフルードはブレーキ性能を低下させます。

- 前輪および後輪ブレーキのブレーキフルードがサービスプランに従って交換されていることを確認してください。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)

**警告**

**事故の危険性** 認可されていないブレーキパッドではブレーキ性能が異なります。

ブレーキパッドのなかには KTM 車両のためにテストおよび認可されていないものがあります。これらブレーキパッドの構造・摩擦係数は、純正部品のブレーキパッドと大きく異なる場合があり、これによりブレーキ性能も大きく異なることになります。

納車時のブレーキパッドと異なるものが使用される場合、これが認可された純正部品のブレーキパッドに相当するものであるという法定保証は無効になります。このような場合、この車両は納車時の状態ではないものと判断され、メーカー保証は無効となります。

- ブレーキパッドは KTM により認可され推奨されているものののみをご使用下さい。

**情報**

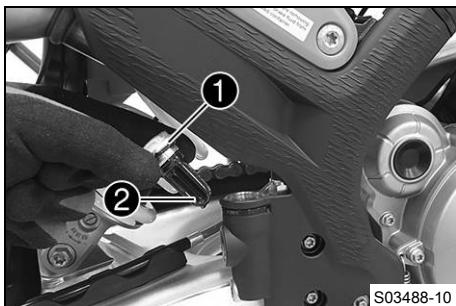
**環境汚染** 問題物資が環境汚染の原因となります。

- オイル、グリース、フィルター、燃料、洗浄剤、ブレーキフルードなどは、定められた規則に従い正しく廃棄して下さい。

**参考**

ブレーキフルード DOT 5 を絶対に使用しないで下さい！シリコンオイルをベースにしており、紫色に着色してあります。ガスケットとブレーキホースはブレーキフルード DOT 5 での使用に適していません。塗装された部品にブレーキフルードがつかないよう注意して下さい。塗装がはげます！

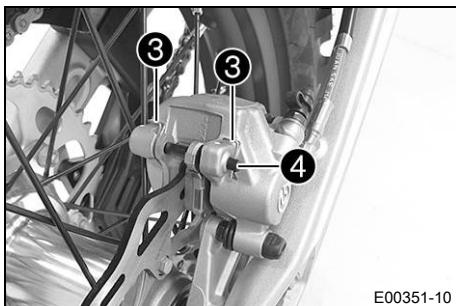
密閉された容器に保存された、きれいなブレーキフルードのみを使用して下さい！



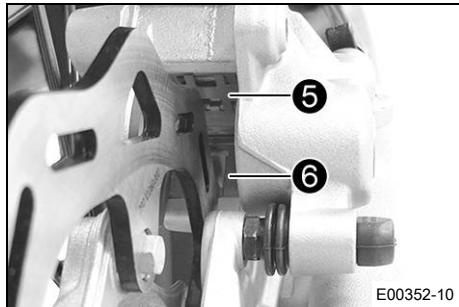
- 車両を垂直に立てます。
- スクリューキャップ①をダイヤフラム②、Oリングと一緒に外します。
- ブレーキピストンを基本位置に押し戻し、ブレーキフルードリザーバーからブレーキフルードが溢れていないか確認し、必要な場合は吸い取ります。

**参考**

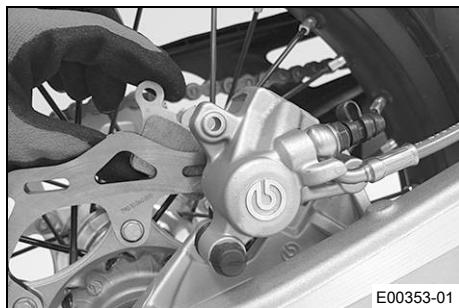
ブレーキピストンを押し戻す際、ブレーキキャリパーがスポークに当らないよう注意して下さい。



- スナップピン③を外し、ボルト④を抜き、ブレーキパッドを取り出します。
- ブレーキキャリパーとキャリパーサポートを清掃します。



- ブレーキキャリパーのリーフスプリング⑤とキャリパーサポートのブレーキパッドスライディングメタルスチール⑥が正しい位置にあるか確認します。

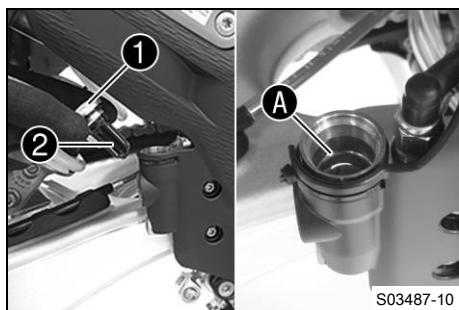


- 新しいブレーキパッドを入れ、ボルトを差し込み、スナップピンを取り付けます。



**参考**  
ブレーキパッドは必ずセットで交換して下さい。

- ブレーキパッドがブレーキディスクに接触して抵抗が感じられるまで、ブレーキペダルを何度も作動します。



- ブレーキフルードのレベルがマーキングAで示した位置に来るよう調節します。

ブレーキフルード DOT 4 / DOT 5.1 (☞ 頁 172)

- スクリューキャップ①をダイヤフラム②、Oリングと一緒に取り付けます。



**参考**  
ブレーキフルードが溢れたりこぼれたりした場合は、すぐに水で洗い流して下さい。

## 14.1 前輪を取り外す

### 準備作業

- 車両をリフトスタンドでジャッキアップします。(図頁 65)

### 主な作業

- 手でブレーキキャリパーをブレーキディスクに向かって押し、ブレーキピストンを押し戻します。

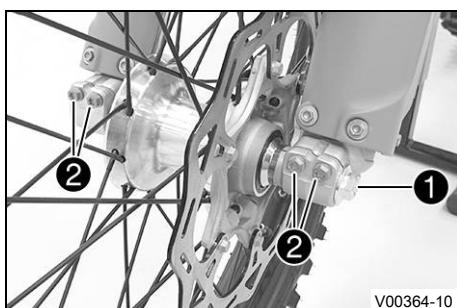


#### 参考

ブレーキピストンを押し戻す際、ブレーキキャリパーがスポークに当らないよう注意して下さい。

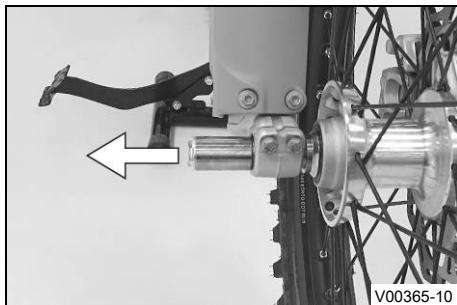


V00363-10



V00364-10

- スクリュー①を数回転分緩めます。
- スクリュー②を緩めます。
- スクリュー①を押し、アクスルシャフトをフォークレッグの穴から押し出します。
- スクリュー①を外します。



V00365-10



### 警告

**事故の危険性** 破損したブレーキディスクはブレーキ性能を低下させます。

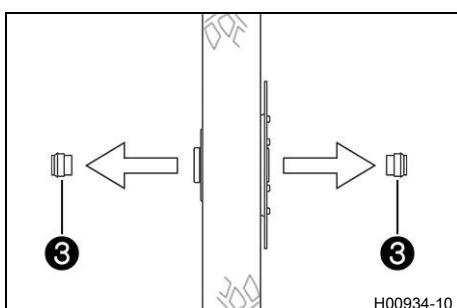
- ブレーキディスクが損傷する事のないよう、ホイールの取り外しには注意して下さい。

- 前輪を支え、アクスルシャフトを取り外します。前輪をフロントフォークから取り外します。



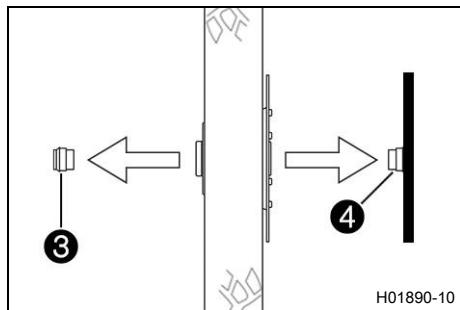
#### 参考

前輪を取り外した状態でブレーキレバーを作動しないで下さい。



(すべてのスタンダードモデルおよび SIX DAYS シリーズ)

- スペーサー③を取り外します。



## (すべての ERZBERGRODEO シリーズ)

- スペーサー③とブレーキディスクガード④を取り外します。

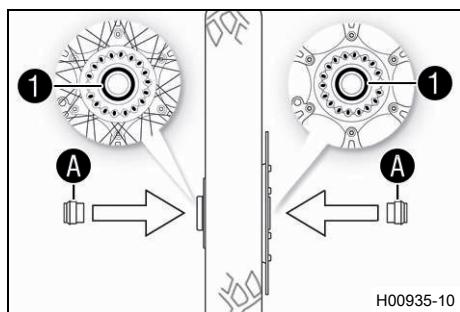
### 14.2 前輪を取り付ける ↗



#### 警告

**事故の危険性** オイルやグリースがブレーキディスクに付着するとブレーキ性能が低下します。

- ブレーキディスクを常にオイルやグリースから保護してください。
- 必要な場合、ブレーキディスクをブレーキ洗浄剤を使って清掃してください。

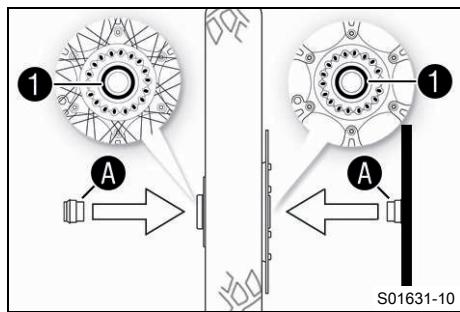


## (すべてのスタンダードモデルおよび SIX DAYS シリーズ)

- ホイールベアリングに磨耗や損傷がないかを点検します。
  - » ホイールベアリングが磨耗または損傷している:
    - 前方ホイールベアリングを交換します。 ↘
- シャフトのラジアルシールリング①とスペーサーの接触面(A)を清掃し、グリースアップします。
 

耐久性グリース (☞ 頁 173)
- スペーサーを取り付けます。
- アクスルシャフトを清掃し、軽くグリースアップします。
 

耐久性グリース (☞ 頁 173)
- 前輪をフロントフォークの高さまで持ち上げ、位置を調整してアクスルシャフトを差し込みます。
  - ✓ ブレーキパッドの位置が正しく調整されています。

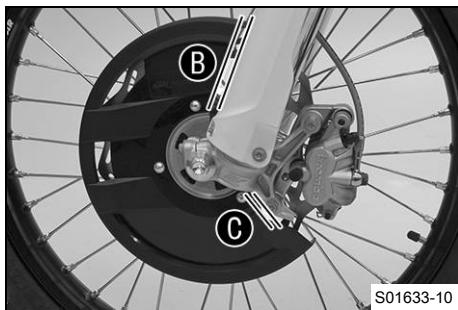


## (すべての ERZBERGRODEO シリーズ)

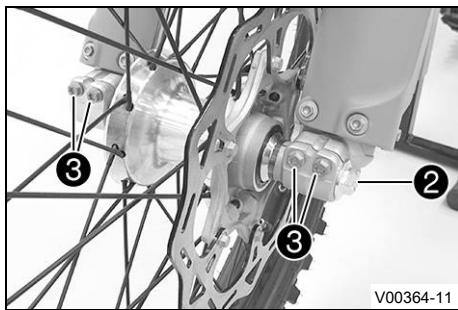
- ホイールベアリングに磨耗や損傷がないかを点検します。
  - » ホイールベアリングが破損または磨耗している:
    - 前方ホイールベアリングを交換します。 ↘
- シャフトのラジアルシールリング①とスペーサーの接触面(A)を清掃し、グリースアップします。
 

耐久性グリース (☞ 頁 173)
- スペーサーとブレーキディスクガードを取り付けます。
- アクスルシャフトを清掃し、軽くグリースアップします。
 

耐久性グリース (☞ 頁 173)
- 前輪の位置を調整し、アクスルシャフトを取り付けます。
  - ✓ ブレーキパッドの位置が正しく調整されています。



- ブレーキディスクガードの距離を調整し、**B**と**C**のすき間の大きさが同じになるようにします。



- スクリュー②を取り付け、しっかりと締めます。

規定

前方アクスルシャフト用スクリュー	M20x1.5	35 Nm
------------------	---------	-------

- ブレーキパッドがブレーキディスクに接触するまで、ブレーキレバーを何度も作動します。
- 車両をリフトスタンドから降ろします。(☞ 頁 65)
- 前輪のブレーキを作動し、フロントフォークのスプリングを何度も強く圧縮します。

✓ フォークレッグの位置が調整されます。

- スクリュー③をしっかりと締めます。

規定

フォークレッグのアクスル通し穴用スクリュー	M8	15 Nm
-----------------------	----	-------

### 14.3 後輪を取り外す

**準備作業**

- 車両をリフトスタンドでジャッキアップします。(☞ 頁 65)

**主な作業**

- 手でブレーキキャリパーをブレーキディスクに向かって押し、ブレーキピストンを押し戻します。



**参考**

ブレーキピストンを押し戻す際、ブレーキキャリパーがスポークに当らないよう注意して下さい。

- ナット①を外します。

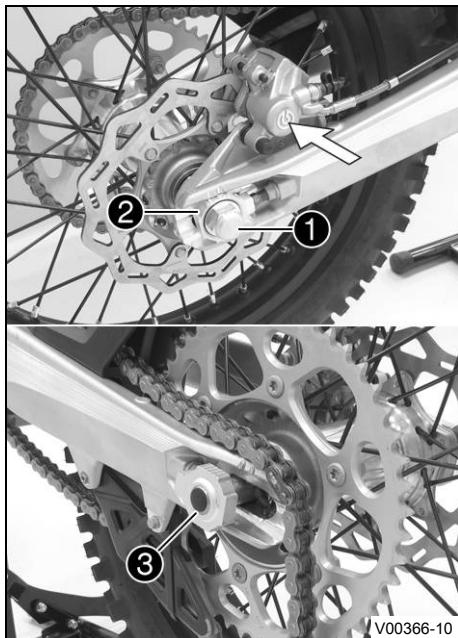
- チェーンアジャスター②を取り外します。後輪が前に動かせるところまで、アクスルシャフト③を引き出します。

- 後輪をできるだけ前に押します。チェーンをリアスプロケットから外します。



**参考**

部品を損傷させないよう、カバーをかけて保護します。





## 警告

**事故の危険性** 破損したブレーキディスクはブレーキ性能を低下させます。

- ブレーキディスクが損傷する事のないよう、ホイールの取り外しには注意して下さい。

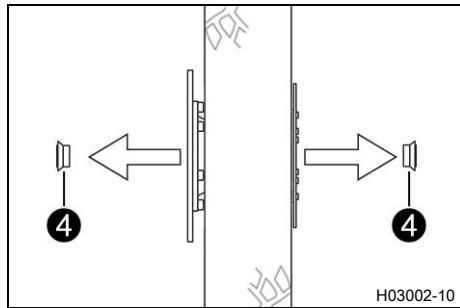
- 後輪を支え、アクスルシャフトを取り外します。スイングアームから後輪を外します。



## 参考

後輪を取り外した状態でブレーキペダルを作動しないで下さい。

- スペーサー④を取り外します。



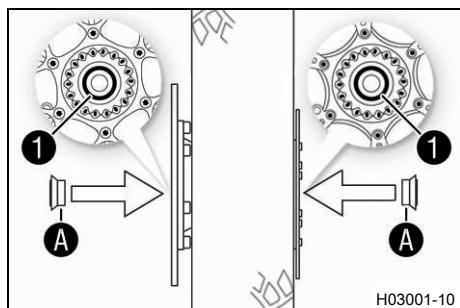
## 14.4 後輪を取り付ける



## 警告

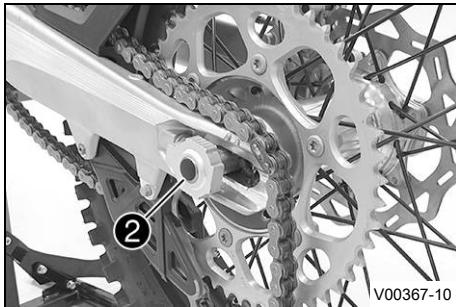
**事故の危険性** オイルやグリースがブレーキディスクに付着するとブレーキ性能が低下します。

- ブレーキディスクを常にオイルやグリースから保護してください。
- 必要な場合、ブレーキディスクをブレーキ洗浄剤を使って清掃してください。



## 主な作業

- ホイールベアリングに磨耗や損傷がないかを点検します。  
» ホイールベアリングが破損または磨耗している:  
- 後輪のホイールベアリングを交換します。
- シャフトのラジアルシールリング①とスペーサーの接触面Aを清掃し、グリースアップします。  
**耐久性グリース (☞ 頁 173)**
- スペーサーを取り付けます。
- アクスルシャフトを清掃し、軽くグリースアップします。  
**耐久性グリース (☞ 頁 173)**



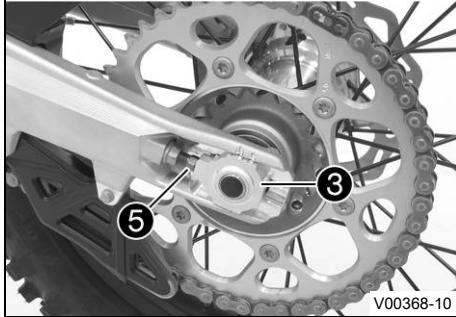
- 後輪の位置を調整し、アクスルシャフト②を差し込みます。
- チェーンを取り付けます。
- ✓ ブレーキパッドの位置が正しく調整されています。



- チェーンアジャスター③の位置を調整します。ナット④を取り付け、締めないままにしておきます。
- チェーンアジャスター③が調節スクリュー⑤に接触している事を確認します。
- チェーンの遊びを点検します。(☞ 頁 89)
- ナット④をしっかりと締めます。

規定

後輪アクスルシャフト用ナット	M20x1.5	80 Nm
----------------	---------	-------



#### i 参考

チェーンアジャスターの調整幅が大きく(32 mm)、同じチェーン長さで異なる二次減速比を実現する事が可能です。  
チェーンアジャスター③は180度回転させる事ができます。

- ブレーキパッドがブレーキディスクに接触して抵抗を感じられるまで、ブレーキペダルを何度も作動します。

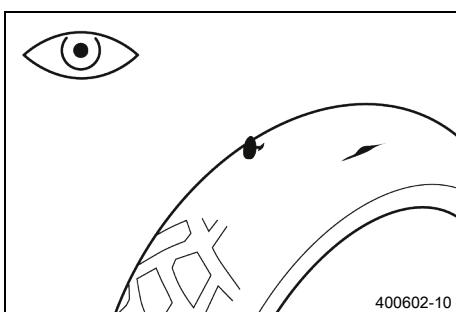
#### その後の作業

- 車両をリフトスタンドから降ろします。(☞ 頁 65)

## 14.5 タイヤの状態を点検する

#### i 参考

KTMにより承認または推奨されたタイヤのみを使用して下さい。  
それ以外のタイヤは走行性能に悪影響を与える恐れがあります。  
タイヤの種類、状態、空気圧は車両の走行性能に影響を与えます。  
タイヤがすり減っていると、路面が濡れている場合などは特に走行性能に悪影響を与えます。



- 前輪・後輪のタイヤに亀裂がないか、異物が刺さっていないか、その他損傷がないかを点検します。
  - » タイヤに亀裂や損傷がある、または異物が刺さっている:
    - タイヤを交換します。☞
- 溝の深さを点検します。

#### i 参考

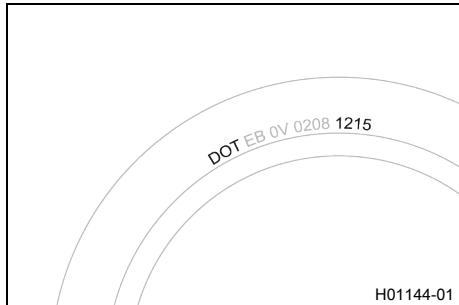
各国法律により定められている溝の深さの最小値を守ってください。

溝の深さ最小値	≥ 2 mm
---------	--------

» 溝の深さが最小値を下回っている:

- タイヤを交換します。 ↗

- タイヤの製造日を確認します。



## 参考

通常、タイヤの製造日はタイヤに記載されており、DOTコードの下4桁の数字で表されています。最初の2桁が製造週を、残りの2桁が製造年を示しています。KTMでは、実際の磨耗状態にかかわらず、遅くとも製造日から5年を経過したらタイヤ交換する事をお勧めしています。

» タイヤの製造日が5年以上前である:

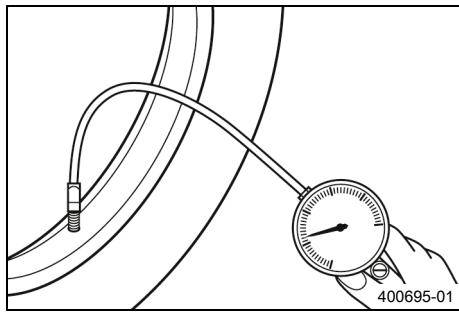
- タイヤを交換します。 ↗

## 14.6 タイヤ空気圧を点検する



### 参考

タイヤの空気圧が低過ぎると異常な磨耗が発生し、タイヤが過熱します。適正な空気圧により快適な走行が可能となり、タイヤの寿命も伸びます。



- カバークリップを外します。

- タイヤが冷えた状態で空気圧を点検します。

### タイヤの空気圧道路走行時 (EXC シリーズ)

前輪	2.0 bar
後輪	2.0 bar

### タイヤの空気圧オフロード

前方	1.0 bar
後輪	1.0 bar

» タイヤの空気圧が規定通りになっていない:

- タイヤの空気圧を調節します。

- カバークリップを取り付けます。

## 14.7 スポークの張りを点検する

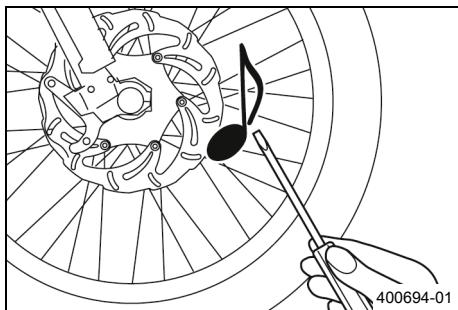


### 警告

**事故の危険性** スポークの張りが不適切な場合、走行性能に影響を及ぼし、その結果として損害を招くことがあります。

スポークを張り過ぎた場合、過負荷によりスポークが折れます。スポークが緩すぎる場合、ホイールが横または縦方向に歪みやすくなります。その結果他のスポークが緩んでしまいます。

- 特に新しい車両など、スポークの張りを定期的に点検してください。(お近くのKTM正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



- ドライバーの刃先で各スポークを軽くたたきます。



### 参考

スポークの長さと太さによって音の響きが違います。  
長さと太さが同じスポークで響きが異なる場合は、  
張りにばらつきがある事を示します。

明るい響きがすれば良い状態です。

- » スポークの張りが均等でない:
  - スポークの張りを調節します。 ↗

- スポークのトルクを点検します。

#### 規定

前輪スポークニップル	M4.5	6 Nm
後輪スポークニップル	M4.5	6 Nm

トルクレンチキット (58429094000)



## 15.1 12V バッテリーを取り外す



## 情報

**環境汚染** 12V バッテリーには環境に悪影響を与える物質が含まれています。

- 12V バッテリーは家庭用ゴミとして廃棄しないで下さい。
- 12V バッテリーを廃棄する場合、使用済みバッテリーの回収場所に持ち込んで下さい。



## 情報

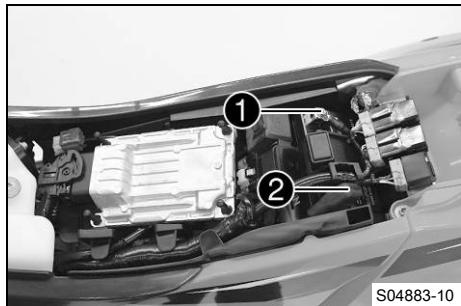
**環境汚染** 問題物資が環境汚染の原因となります。

- オイル、グリース、フィルター、燃料、洗浄剤、ブレーキフルードなどは、定められた規則に従い正しく廃棄して下さい。

## 準備作業

- シートを取り外します。 (☞ 頁 79)

## 主な作業



## 警告

**人体への危険** 12V バッテリーには有害物質が含まれています。

- 12V バッテリーは子供の手の届かないところに保管して下さい。
- 12V バッテリーを火花や炎に近づけないで下さい。
- 12V バッテリー充電は必ず換気の良い場所で行って下さい。
- 12V バッテリーを充電する際は可燃性のあるものとの最低間隔を守って行って下さい。

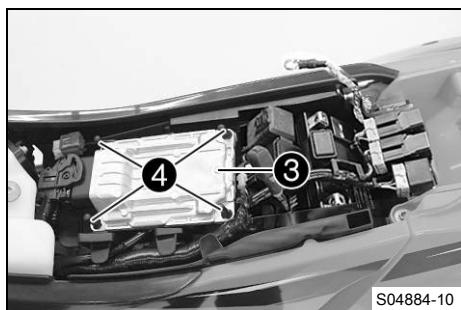
最低間隔 1 m

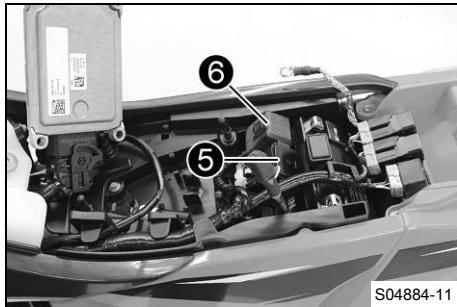
- 最小電圧が既に下回っている場合、過放電した12V バッテリーは充電しないで下さい。

充電開始前の最小電圧 9 V

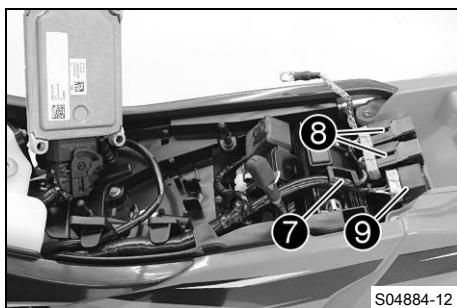
- 最小電圧を下回った12V バッテリーは適切な方法で廃棄して下さい。

- 12V バッテリーからマイナスケーブル①を外します。
- プラス極のカバー②を後ろへずらし、12V バッテリーからプラスケーブルを外します。
- EFI コントロールユニット③をゴムの突起部④から上に抜き取り脇にかけておきます。

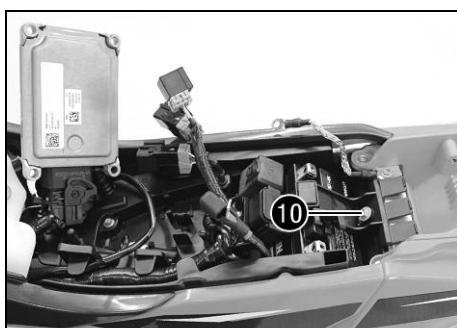




- セルフスターターリレー⑤とヒューズボックス⑥をバッテリーコンパートメントから抜き取り、脇にかけておきます。



- ワイヤーハーネス⑦を外し、リレー⑧とプラグ⑨を抜き、脇にかけておきます。



- スクリュー⑩を外し、バッテリーコンパートメントを外します。

- 12V バッテリーを上から取り外します。



## 15.2 12V バッテリーを取り付ける



## 主な作業

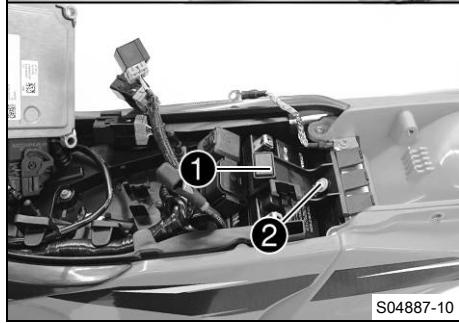
- 電極が前にくるようにして、12V バッテリーをバッテリーコンパートメントに入れ、固定プラケット①で固定します。

12V バッテリー (HJTZ5S-FP-C) (☞ 頁 166)

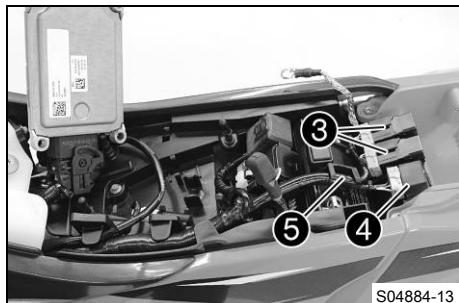
- スクリュー②を取り付け、しっかりと締めます。

## 規定

シャーシ用その他の スクリュー	M6	10 Nm
--------------------	----	-------

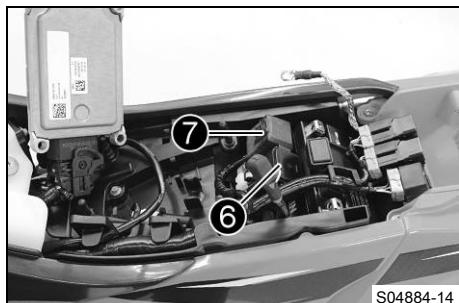


S04887-10



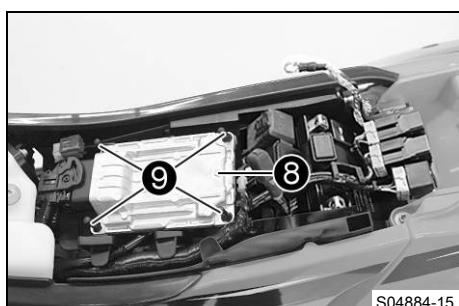
S04884-13

- リレー③とプラグ④をバッテリーコンパートメントに配置し、ワイヤーハーネス⑤を接続します。



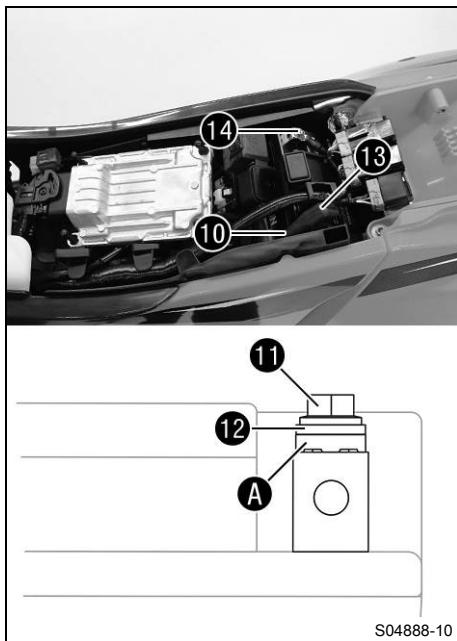
S04884-14

- セルフスターターリレー⑥とヒューズボックス⑦をバッテリーコンパートメントに入れます。



S04884-15

- EFI コントロールユニット⑧をゴムの突起部⑨に固定します。



- プラスケーブル⑩と12Vバッテリーを接続します。

規定

バッテリー電極用スクリュー	M5	2.5 Nm
---------------	----	--------

### i 参考

導電性ワッシャーAは爪のある方をバッテリーの電極に向けて、スクリュー⑪と圧着端子⑫の下に取り付けて下さい。

- マイナスケーブル⑭と12Vバッテリーを接続します。

規定

バッテリー電極用スクリュー	M5	2.5 Nm
---------------	----	--------

### その後の作業

- シートを取り付けます。(図頁80)

## 15.3 12Vバッテリーを充電する



### 警告

人体への危険 12Vバッテリーには有害物質が含まれています。

- 12Vバッテリーは子供の手の届かないところに保管して下さい。
- 12Vバッテリーを火花や炎に近づけないで下さい。
- 12Vバッテリー充電は必ず換気の良い場所で行って下さい。
- 12Vバッテリーを充電する際は可燃性のあるものとの最低間隔を守って行って下さい。  
最低間隔 1 m
- 最小電圧が既に下回っている場合、過放電した12Vバッテリーは充電しないで下さい。
- 充電開始前の最小電圧 9 V
- 最小電圧を下回った12Vバッテリーは適切な方法で廃棄して下さい。



### 情報

環境汚染 12Vバッテリーには環境に悪影響を与える物質が含まれています。

- 12Vバッテリーは家庭用ゴミとして廃棄しないで下さい。
- 12Vバッテリーを廃棄する場合、使用済みバッテリーの回収場所に持ち込んで下さい。



### 情報

環境汚染 問題物質が環境汚染の原因となります。

- オイル、グリース、フィルター、燃料、洗浄剤、ブレーキフルードなどは、定められた規則に従い正しく廃棄して下さい。

**i 参考**

- 12V バッテリーは使用しなくても毎日放電しています。
- 12V バッテリーの寿命は充電量と充電方法に大きく左右されます。
- 大きな電流により短時間で充電すると寿命に悪影響を与えます。
- 充電電流、充電電圧が規定値を超えると 12V バッテリーが破損します。
- 12V バッテリーが空になったら、直ちに充電して下さい。
- 放電し切った状態で長く放置すると過放電が起り、12V バッテリー容量が失われ、バッテリーが破損します。
- この 12V バッテリーはメンテナンスフリーです。

**準備作業**

- シートを取り外します。 (☞ 頁 79)
- 12V バッテリーを取り外します。 (☞ 頁 118)

**主な作業**

- バッテリーの電圧を点検します。
  - » バッテリー電圧: < 9 V
    - 12V バッテリーを充電しないで下さい。
    - 12V バッテリーを交換し、古いバッテリーは規定に従って廃棄します。
  - » 規定に達している:
    - バッテリー電圧:  $\geq 9 \text{ V}$
    - 12V バッテリーを充電します。

**規定**

充電電流、充電電圧、充電時間が規定値を超えないよう注意して下さい。

最大充電電圧	14.4 V
最大電流	3.0 A
最長充電時間	24 時間
車両を使用しないときは、12V バッテリーを定期的に充電して下さい	6 ヶ月

## 15.4 メインヒューズを交換する



### 警告

**火災の危険性** 不適切なヒューズは電気装置に過負荷をかけます。

- 指定されたアンペア値のヒューズのみを使用してください。
- 切れたヒューズをつないだり修理しないで下さい。



### 参考

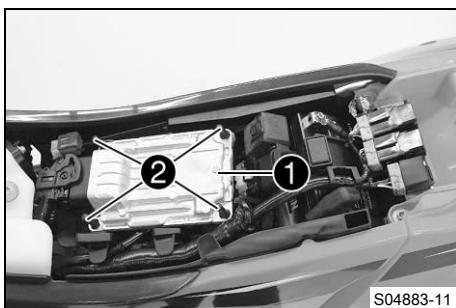
メインヒューズが車両上の全ての電装系部品を保護しています。

#### 準備作業

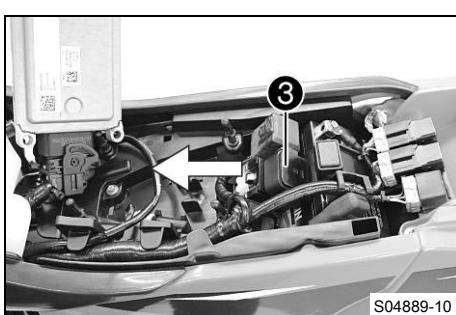
- シートを取り外します。 (図頁 79)

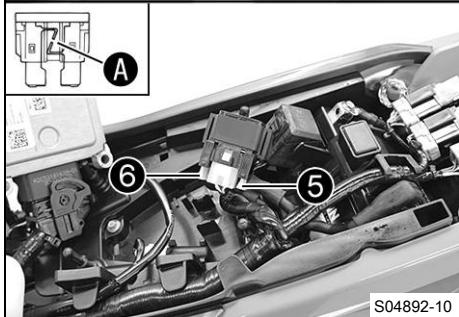
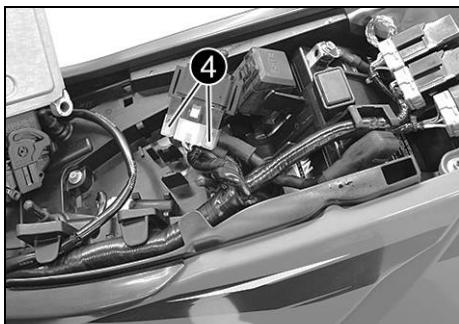
#### 主な作業

- EFI コントロールユニット①をゴムの突起部②から上に抜き取り脇にかけておきます。



- セルフスターターリレー③をホルダーから取り外します。





- 保護キャップ④を外します。
- 損傷したメインヒューズ⑤を取り外します。

**i 参考**

ヒューズワイヤが壊れている場合⑥はヒューズに欠陥があります。

セルフスターターリレーにスペアヒューズ⑥が差し込んであります。

- 新しいメインヒューズを取り付けます。

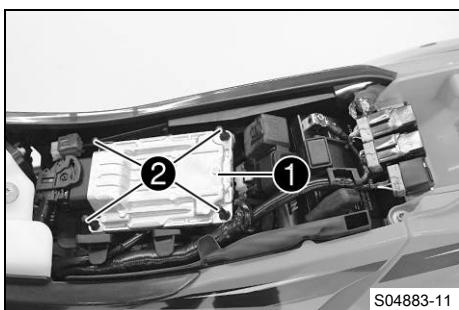
ヒューズ (58011109120) (☞ 頁 166)

- 電装系部品の機能を点検します。

**i ヒント**

新しいスペアヒューズを取り付け、必要な場合に使用できるようにしておきます。

- カバーキャップ④をかぶせます。
- セルフスターターリレー③をホルダーに差し込み、ケーブルを整えます。
- EFIコントロールユニット①をゴムの突起部②に取り付けます。



**その後の作業**

- シートを取り付けます。 (☞ 頁 80)

## 15.5 各電装系部品のヒューズを交換する

**i 参考**

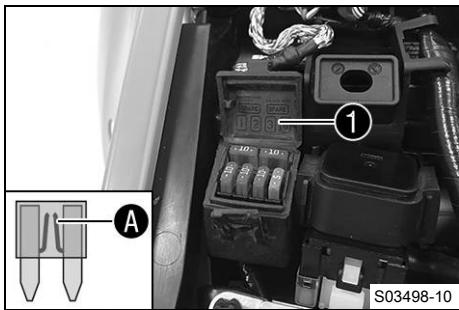
各電装系部品のヒューズが設置されたヒューズボックスはシートの下に設置されています。

**準備作業**

- シートを取り外します。 (☞ 頁 79)

**主な作業**

- ヒューズボックスのカバー①を開きます。
- 損傷したヒューズを取り外します。



規定  
(EXC シリーズ)

ヒューズ1-10 A-EFI コントロールユニット、ラムダセンサー、オイルポンプ、コンビネーションインスツルメント、フューエルインジェクション、診断プラグ
ヒューズ2 - 10 A - ホーン、ブレーキライト、冷却ファン(オプション)、ターンシグナル(オプション)
ヒューズ3 - 10 A - ヘッドライトのハイビームとロー ビーム、ポジションライト、テールライト、ナンバープレートライト
ヒューズ4 - 5 A - 燃料ポンプ

## (XC-W シリーズ)

ヒューズ1-10 A-EFI コントロールユニット、オイルポンプ、コンビネーションインスツルメント、フューエルインジェクション、診断プラグ
ヒューズ2 - 10 A - 冷却ファン(オプション)
ヒューズ3 - 10 A - ヘッドライトのロー ビーム、ポジションライト、テールライト
ヒューズ4 - 5 A - 燃料ポンプ

ヒューズres - 10 A - スペアヒューズ



## 参考

ヒューズワイヤが壊れている場合 A はヒューズに欠陥があります。



## 警告

火災の危険性 不適切なヒューズは電気装置に過負荷をかけます。

- 指定されたアンペア値のヒューズのみを使用してください。
- 切れたヒューズをつないだり修理しないで下さい。

- 対応する容量のスペアヒューズを取り付けます。

ヒューズ (75011088010) (書 頁 166)

ヒューズ (75011088005) (書 頁 166)



## ヒント

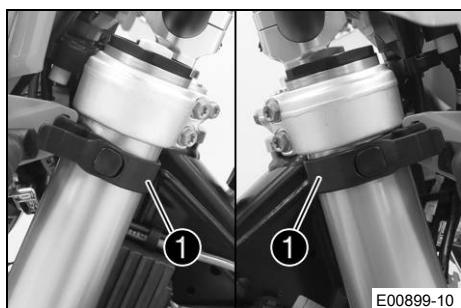
新しいスペアヒューズをヒューズボックスに取り付け、必要な場合に使用できるようにしておきます。

- 電装系部品の機能を点検します。
- ヒューズボックスのカバー①を閉じます。

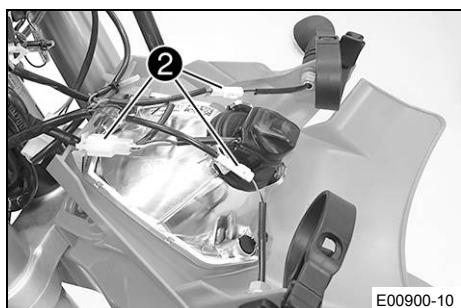
## その後の作業

- シートを取り付けます。 (書 頁 80)

## 15.6 ヘッドライトマスクとヘッドライトを取り外す

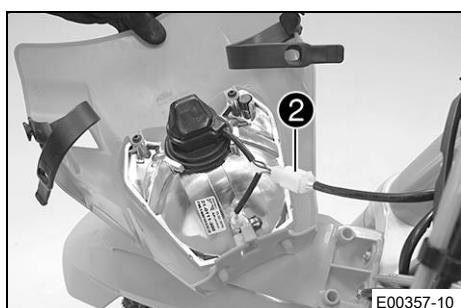


- ヘッドライトマスクにあるブレーキワイヤーとワイヤーハーネスを外します。
- 固定ゴムバンド①を緩めます。ヘッドライトマスクを上にずらし、前に倒します。



## (EXC シリーズ)

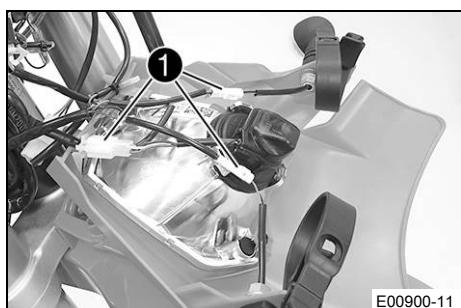
- コネクター②を外し、ヘッドライトマスクをヘッドライトと一緒に取り外します。



## (XC-W シリーズ)

- コネクター②を外し、ヘッドライトマスクをヘッドライトと一緒に取り外します。

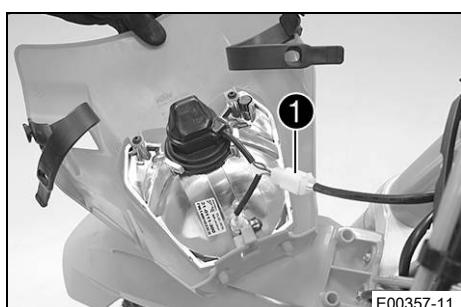
## 15.7 ヘッドライトマスクとヘッドライトを取り付ける



## 主な作業

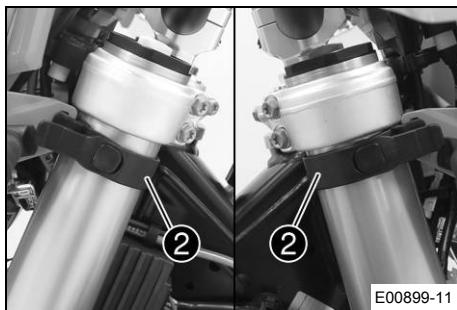
## (EXC シリーズ)

- コネクター①を接続します。



## (XC-W シリーズ)

- コネクター①を接続します。



- ヘッドライトマスクの位置を調整し、ゴムバンド②で固定します。
- ✓ 突起部をフェンダーにはめます。
- ブレーキホースとワイヤーハーネスをブレーキホースガイドの中に収納します。

#### その後の作業

- ヘッドライトの設定を点検します。 (回 見 128)

## 15.8 ヘッドライトバルブを交換する

### 情報

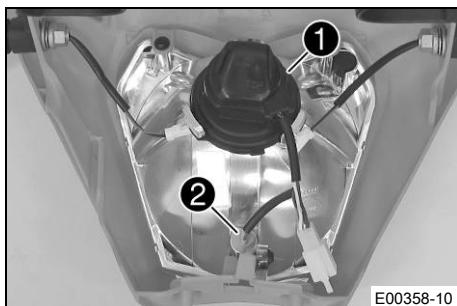
**反射板の損傷** 反射板に油脂類が付着すると光度が低下します。

ランプのバルブに油脂類が付着していると熱により気化し、反射板に付着します。

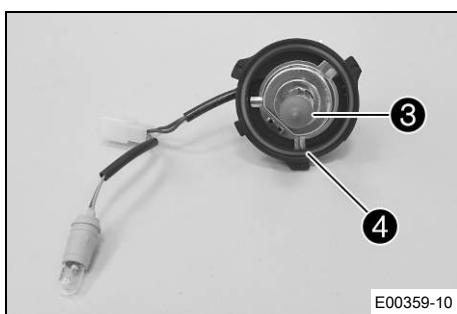
- 取り付け前にバルブを清掃し、油脂類を取り除きます。
- 素手でバルブに触れないで下さい。

### 準備作業

- ヘッドライトマスクとヘッドライトを取り外します。  
(回 見 126)



- 保護キャップ①を、その下にあるバルブソケットと一緒に時計と反対回りに最後まで回し切り、取り外します。
- ポジションライトのバルブソケット②を反射板から抜いて外します。



- ヘッドライトバルブ③を抜き取ります。
- 新しいヘッドライトバルブを取り付けます。

**ヘッドライト (HS1 / ソケット BX43t) (回 見 166)**

- 保護キャップをバルブソケットと一緒に反射板に取り付け、時計回りに最後まで回しります。



○リング④がきちんとまっているか確認して下さい。

- ポジションライトのバルブソケットを反射板に差し込みます。

### その後の作業

- ヘッドライトマスクとヘッドライトを取り付けます。  
(回 見 126)
- ヘッドライトの設定を点検します。 (回 見 128)

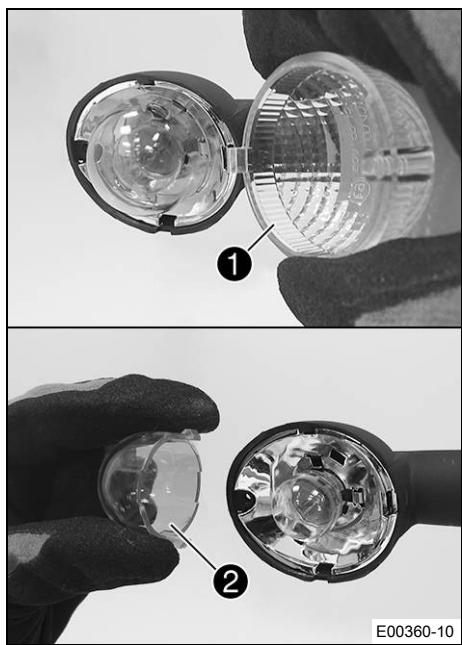
## 15.9 ターンシグナルのバルブを交換する (EXC シリーズ)

## 情報

**反射板の損傷** 反射板に油脂類が付着すると光度が低下します。

ランプのバルブに油脂類が付着していると熱により気化し、反射板に付着します。

- 取り付け前にバルブを清掃し、油脂類を取り除きます。
- 素手でバルブに触れないで下さい。



## 主な作業

- ターンシグナルケースの後ろにあるスクリューを外します。
- ターンシグナルレンズ①を慎重に取り外します。
- オレンジ色のキャップ②を固定用の突起部の辺りで両側から軽くはさみ、キャップを取り外します。
- ターンシグナルのバルブを軽くソケットに向かって押し、時計と反対回りに約 30 度ほど回してソケットから抜きます。



## 参考

反射板には指で触れず、油脂類が付着しないように注意して下さい。

- ターンシグナル用の新しいバルブをソケットに差し込んで軽く押し、時計回りに最後まで回します。

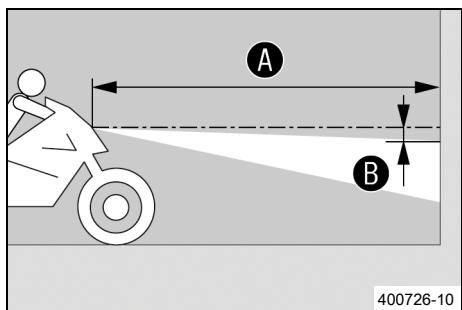
ターンシグナル (R10W / ソケット BA15s) (☞ 頁 166)

- オレンジ色のキャップを取り付けます。
- ターンシグナルレンズの位置を調整します。
- スクリューを差し込み、ねじ山に力ちつとはまるまで、まず時計と反対回りに回します。スクリューを軽く締めます。

## その後の作業

- ターンシグナルが正しく機能するか点検します。

## 15.10 ヘッドライトの設定を点検する



- 明るい壁が前にある水平な地面の上に車両を立て、ヘッドライトの中心の高さで壁に印を付けます。

- その印の下、B の距離にもう 1 つ印を付けます。

規定

距離 B	5 cm
------	------

- 壁から A の距離に車両を垂直に立てます。

規定

距離 A	5 m
------	-----

- ここで運転者が車両に乘ります。

- ロービームを点灯します。

- ヘッドライトの設定を点検します。

走行準備の整った車両に運転者が乗った状態で、明暗の境界が下側の印と一致する事を確認して下さい。

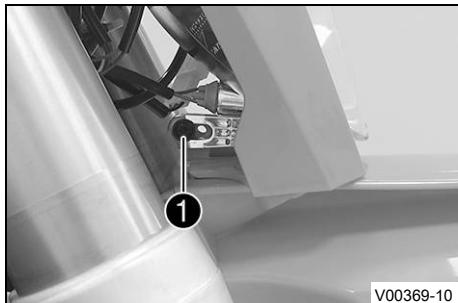
» 明暗の境界が規定通りになっていない:

- ヘッドライトの照明距離を調節します。 (☞ 頁 129)

## 15.11 ヘッドライトの照明距離を調節する

### 準備作業

- ヘッドライトの設定を点検します。 (☞ 頁 128)



### 主な作業

- スクリュー①を緩めます。
- ヘッドライトを上下に動かして照明距離を調節します。

### 規定

走行準備の整った車両に運転者が乗った状態で、明暗の境界が下側のマーキング（「ヘッドライトの設定を点検する」で付けたマーキング）と一致する事を確認して下さい。

### i 参考

積載量が変わると、ヘッドライト照明距離の再調節が必要となる事があります。

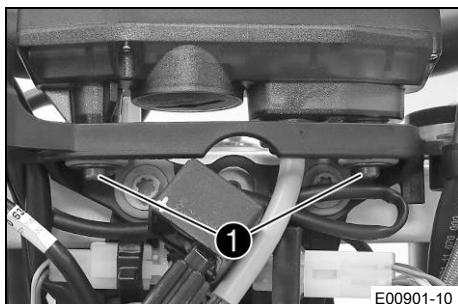
- スクリュー①をしっかりと締めます。



## 15.12 コンビネーションインストルメントの電池を交換する

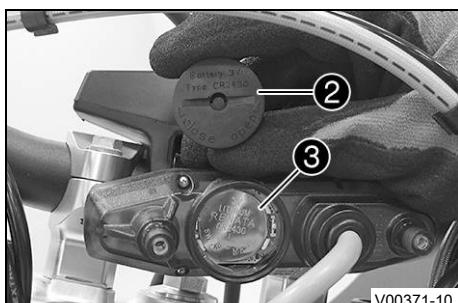
### 準備作業

- ヘッドライトマスクとヘッドライトを取り外します。  
(☞ 頁 126)

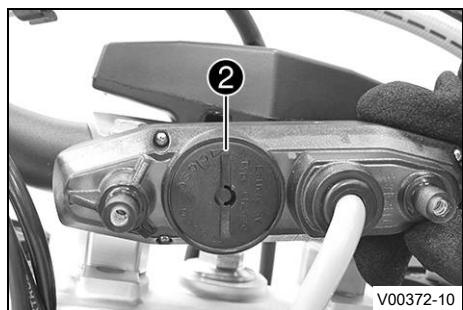


### 主な作業

- スクリュー①を外します。
- コンビネーションインストルメントを上に引いて、ホルダーから取り外します。



- コインを使って保護キャップ②を時計と反対回りに最後まで回し切り、外します。
  - コンビネーションインストルメントの電池③を取り外します。
  - 記載のある面を外側にして、新しいコンビネーションインストルメントの電池をはめます。
- コンビネーションインストルメントの電池 (CR 2430)  
(☞ 頁 166)
- カバーキャップのOリングが正しく装着されているか点検します。

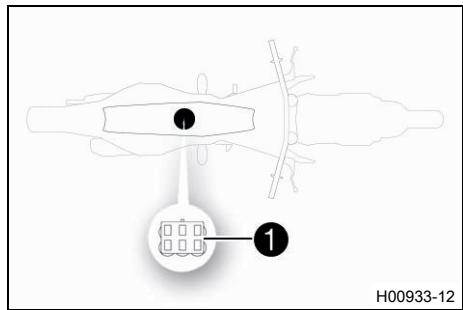


- 保護キャップ②をかぶせ、コインで時計回りに最後まで回し切ります。
- コンビネーションインストルメントのボタンをどれか押します。
  - ✓ コンビネーションインストルメントが起動します。
- ホルダー内でコンビネーションインストルメントの位置を調整します。
- スクリューをワッシャーと一緒に取り付け、しっかりと締めます。

#### その後の作業

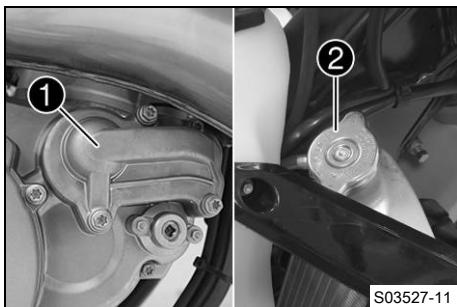
- ヘッドライトマスクとヘッドライトを取り付けます。  
( 頁 126)
- ヘッドライトの設定を点検します。  
( 頁 128)
- キロメートルかマイルを選択します。  
( 頁 25)
- コンビネーションインストルメントを設定します。  
( 頁 26)
- 時刻を設定します。  
( 頁 26)

### 15.13 診断プラグ



診断プラグ①はシート下、EFIコントロールユニット下にあります。

## 16.1 冷却システム



エンジン内のウォーターポンプ①により、クーラントが強制循環します。

熱により発生した冷却システム内の圧力は、ラジエーターキャップ②にあるバルブにより調整されます。これにより、クーラントが記載された温度まで上昇しても不具合を起こす事ありません。

120 °C

冷却は走行風によって行われます。  
速度が遅いほど冷却効果は低くなります。同様に、ラジエータのフィンが汚れていると冷却効果が低くなります。

## 16.2 不凍液とクーラントのレベルを点検する



### 警告

**火傷の危険性** クーラントは運転中、非常に熱く、圧力がかかっています。

- エンジンまたは冷却システムが作動温度状態にある場合、ラジエーター、冷却管その他冷却システムの構成部品を開けないでください。
- 冷却システムとエンジンを冷ましてから、ラジエーター、冷却管その他冷却システムの構成部品を開けてください。
- 火傷した場合、速やかにその部位をぬるま湯に浸して下さい。



### 警告

**中毒の危険性** クーラントは毒性で、健康に害を及ぼします。

- クーラントは子供の手の届かないところに保管してください。
- クーラントが皮膚、目、衣服に接触しないよう注意してください。
- クーラントを飲み込んでしまった場合、即座に受診してください。
- 接触した部分の肌は即座に多量の水で洗ってください。
- クーラントが目にはいったてしまった場合、速やかに水で洗い落とし、受診してください。
- クーラントが衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。

### 条件

エンジンが冷えている。

- 車両を水平な地面の上で垂直に立てます。
- ラジエーターキャップを外します。
- クーラントの不凍効果を点検します。

-25 ... -45 °C

» クーラントの不凍効果が規定通りになっていない:

- クーラントの不凍効果を調節します。

- ラジエーターのクーラントのレベルを点検します。

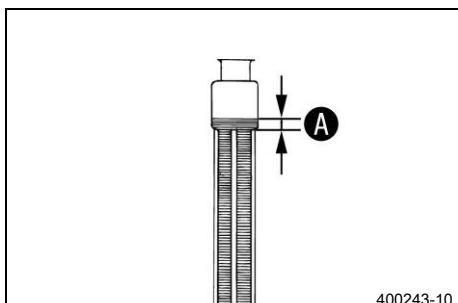
ラジエーターのフィンから クーラントのレベルAまで	10 mm
------------------------------	-------

» クーラントのレベルが規定通りになっていない:

- クーラントのレベルを調節します。

クーラント (☞ 頁 171)

- ラジエーターキャップを取り付けます。



## 16.3 クーラントのレベルを点検する



### 警告

**火傷の危険性** クーラントは運転中、非常に熱く、圧力がかかっています。

- エンジンまたは冷却システムが作動温度状態にある場合、ラジエーター、冷却管その他冷却システムの構成部品を開けないでください。
- 冷却システムとエンジンを冷ましてから、ラジエーター、冷却管その他冷却システムの構成部品を開けてください。
- 火傷した場合、速やかにその部位をぬるま湯に浸して下さい。



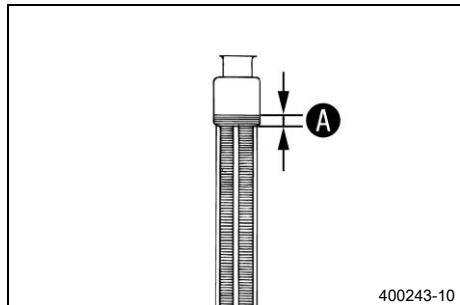
### 警告

**中毒の危険性** クーラントは毒性で、健康に害を及ぼします。

- クーラントは子供の手の届かないところに保管してください。
- クーラントが皮膚、目、衣服に接触しないよう注意してください。
- クーラントを飲み込んでしまった場合、即座に受診してください。
- 接触した部分の肌は即座に多量の水で洗ってください。
- クーラントが目にはいった場合、速やかに水で洗い落とし、受診してください。
- クーラントが衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。

### 条件

エンジンが冷えている。



- 車両を水平な地面の上で垂直に立てます。
- ラジエーター・キャップを外します。
- ラジエーターのクーラントのレベルを点検します。

ラジエーターのフィンから クーラントのレベル	Aまで	10 mm
---------------------------	-----	-------

» クーラントのレベルが規定通りになっていない:  
- クーラントのレベルを調節します。

クーラント (図解 頁 171)

- ラジエーター・キャップを取り付けます。

## 16.4 クーラントを排出する



### 警告

**火傷の危険性** クーラントは運転中、非常に熱く、圧力がかかっています。

- エンジンまたは冷却システムが作動温度状態にある場合、ラジエーター、冷却管その他冷却システムの構成部品を開けないでください。
- 冷却システムとエンジンを冷ましてから、ラジエーター、冷却管その他冷却システムの構成部品を開けてください。
- 火傷した場合、速やかにその部位をぬるま湯に浸して下さい。

**警告**

**中毒の危険性** クーラントは毒性で、健康に害を及ぼします。

- クーラントは子供の手の届かないところに保管してください。
- クーラントが皮膚、目、衣服に接触しないよう注意してください。
- クーラントを飲み込んでしまった場合、即座に受診してください。
- 接触した部分の肌は即座に多量の水で洗ってください。
- クーラントが目にはいってしまった場合、速やかに水で洗い落とし、受診してください。
- クーラントが衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。

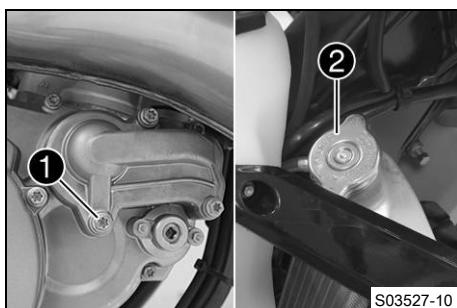
**条件**

エンジンが冷えている。

- 車両を垂直に立てます。
- 適切な容器をウォーターポンプカバーの下に置きます。
- スクリュー①を外します。ラジエーターキャップ②を外します。
- クーラントが完全に流れ出るまで待ちます。
- スクリュー①を新しいシールリングと一緒に取り付け、しっかりと締めます。

**規定**

ウォーターポンプカバー用スクリュー	M6	10 Nm
-------------------	----	-------



S03527-10

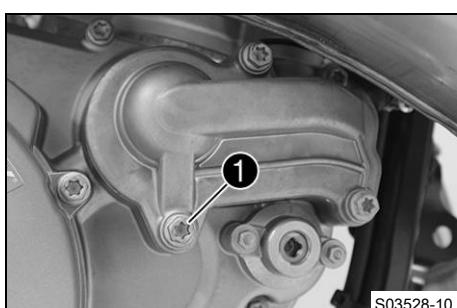
**16.5 クーラントを注入する****警告**

**中毒の危険性** クーラントは毒性で、健康に害を及ぼします。

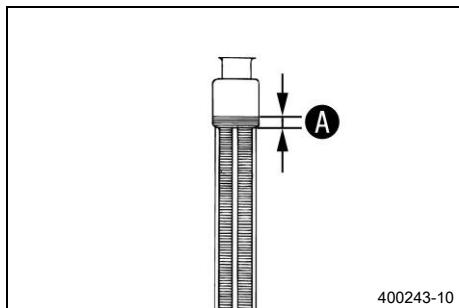
- クーラントは子供の手の届かないところに保管してください。
- クーラントが皮膚、目、衣服に接触しないよう注意してください。
- クーラントを飲み込んでしまった場合、即座に受診してください。
- 接触した部分の肌は即座に多量の水で洗ってください。
- クーラントが目にはいってしまった場合、速やかに水で洗い落とし、受診してください。
- クーラントが衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。

**主な作業**

- スクリュー①がしっかりと締まっている事を確認します。
- 車両を垂直に立てます。



S03528-10

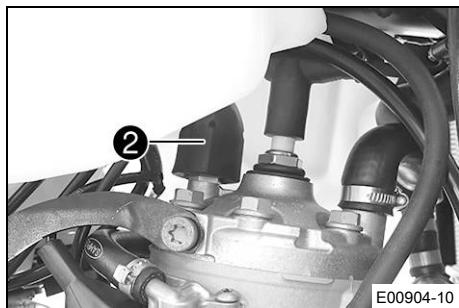


- ラジエーターのフィンの上から**A**の寸法の位置までクーラントを注ぎ入れます。

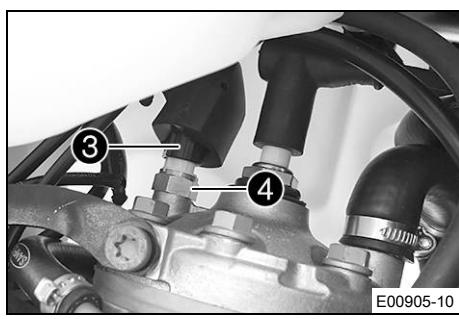
規定

10 mm

クーラント	1.2 L	クーラント ( 頁 171)
-------	-------	-------------------



- クーラント温度センサーの上のカバーキャップ**②**を上に押します。



- プラグ**③**を抜きます。
- クーラント温度センサー**④**をOリングと一緒に外し、クーラントが気泡のない状態で出てくるまで待ちます。
- クーラント温度センサー**④**をOリングと一緒に取り付け、しっかりと締めます。

規定

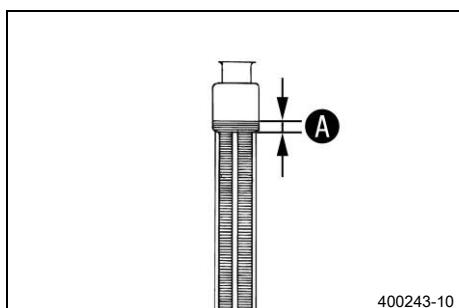
シリンダーヘッド 温度センサー用スク リュー	M10x1.25	12 Nm
------------------------------	----------	-------

- プラグ**③**を差し込みます。
- カバーキャップ**②**の位置を調整します。
- ラジエーターのフィンの上から**A**の寸法の位置までクーラントを注ぎ入れます。

規定

10 mm

クーラント ( 頁 171)



- ラジエーターキャップ**⑤**を取り付けます。



## 危険

**中毒の危険性** 排気ガスは毒性があり、意識不明や死の原因となる恐れがあります。

- エンジンを稼動する際は十分に換気が行えるよう常に確認してください。
- 閉め切った室内でエンジンを始動したり、稼動状態にする場合は、適切な排気ガス抽出装置を使用してください。

- エンジンを暖氣し、再び冷めるのを待ちます。

## その後の作業

- クーラントのレベルを点検します。( 頁 132)

## 16.6 クーラントを交換する



## 警告

**火傷の危険性** クーラントは運転中、非常に熱く、圧力がかかっています。

- エンジンまたは冷却システムが作動温度状態にある場合、ラジエーター、冷却管その他冷却システムの構成部品を開けないでください。
- 冷却システムとエンジンを冷ましてから、ラジエーター、冷却管その他冷却システムの構成部品を開けてください。
- 火傷した場合、速やかにその部位をぬるま湯に浸して下さい。



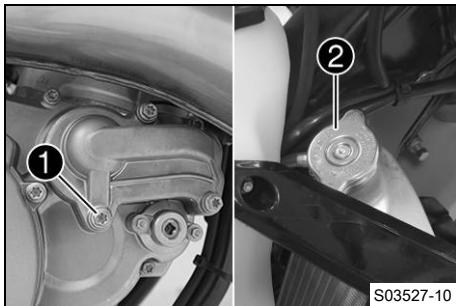
## 警告

**中毒の危険性** クーラントは毒性で、健康に害を及ぼします。

- クーラントは子供の手の届かないところに保管してください。
- クーラントが皮膚、目、衣服に接触しないよう注意してください。
- クーラントを飲み込んでしまった場合、即座に受診してください。
- 接触した部分の肌は即座に多量の水で洗ってください。
- クーラントが目にはいった場合、速やかに水で洗い落とし、受診してください。
- クーラントが衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。

## 条件

エンジンが冷えている。



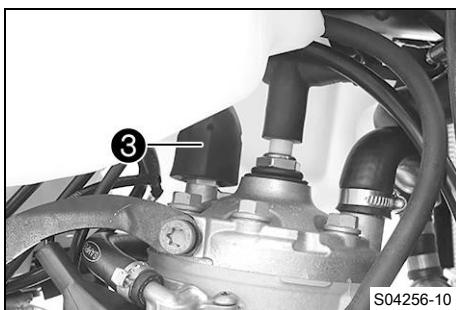
- スクリュー①を外します。ラジエーターキャップ②を外します。
- 適切な容器をウォーターポンプカバーの下に置きます。
- クーラントが完全に流れ出るまで待ちます。
- スクリュー①を新しいシールリングと一緒に取り付け、しっかりと締めます。

## 規定

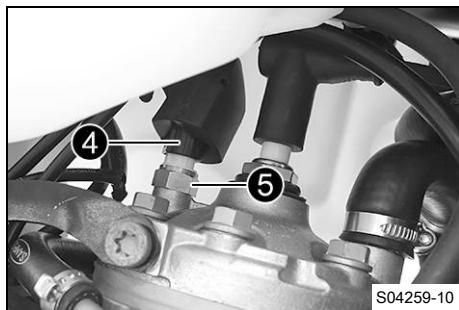
ウォーターポンプカバー用スクリュー	M6	10 Nm
-------------------	----	-------

- 車両を垂直に立てます。
- ラジエーターをクーラントで満たします。

**クーラント** ( 頁 171)



- クーラント温度センサーの上のカバーキャップ③を上に押します。

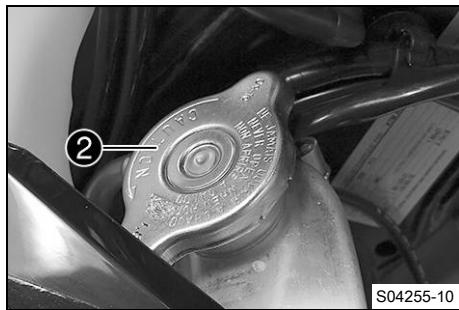


- プラグ④を抜きます。
- クーラント温度センサー⑤をOリングと一緒に外し、クーラントが気泡のない状態で出てくるまで待ちます。
- クーラント温度センサー⑤をOリングと一緒に取り付け、しっかりと締めます。

規定

シリンドーヘッド 温度センサー用スク リュー	M10x1.25	12 Nm
------------------------------	----------	-------

- プラグ④を差し込みます。
- 保護キャップ③を取り付けます。
- ラジエーターキャップ②を取り付けます。



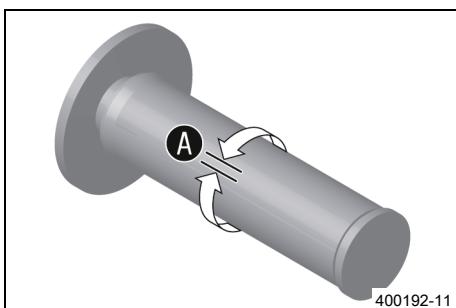
## 危険

**中毒の危険性** 排気ガスは毒性があり、意識不明や死亡の原因となる恐れがあります。

- エンジンを稼動する際は十分に換気が行えるよう常に確認してください。
- 閉め切った室内でエンジンを始動したり、稼動状態にする場合は、適切な排気ガス抽出装置を使用してください。

- エンジンを暖気し、再び冷めるのを待ちます。
- 冷却システムに漏れがないか点検します。
- クーラントのレベルを点検します。 (☞ 頁 132)

## 17.1 アクセルワイヤーの遊びを点検する



- スロットルグリップがスムーズに動くか確認します。
- ハンドルバーを右に回し切れます。スロットルグリップを軽く両方向に回し、アクセルワイヤーの遊び **A** を確認します。

アクセルワイヤーの遊び	3 ... 5 mm
-------------	------------

» アクセルワイヤーの遊びが規定通りになつてない:

- アクセルワイヤーの遊びを調節します。 ( 頁 137)



### 危険

**中毒の危険性** 排気ガスは毒性があり、意識不明や死亡の原因となる恐れがあります。

- エンジンを稼動する際は十分に換気が行えるよう常に確認してください。
- 閉め切った室内でエンジンを始動したり、稼動状態にする場合は、適切な排気ガス抽出装置を使用してください。

- エンジンをかけ、アイドリングさせます。ハンドルバーをハンドル限界全体にわたり左右に動かします。

アイドリング回転数は一定でなければなりません。
-------------------------

» アイドリング回転数が一定でない:

- アクセルワイヤーの遊びを調節します。 ( 頁 137)

## 17.2 アクセルワイヤーの遊びを調節する



### 参考

アクセルワイヤーが正しく取り回されている場合、フューエルタンクを取り外す必要はありません。

#### 準備作業

- シートを取り外します。 ( 頁 79)
- フューエルタンクを取り外します。 ( 頁 85)
- アクセルワイヤーの取り回しを点検します。 ( 頁 94)

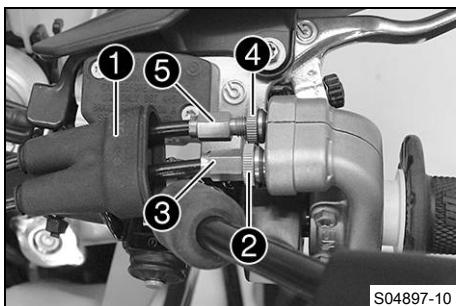
#### 主な作業

- ハンドルバーを直進の状態にします。
- ワイヤーブーツ①を後ろへずらします。
- ナット②を緩めます。
- 調節スクリュー③を最後までねじ込みます。
- ナット④を緩めます。
- 調節スクリュー⑤を最後までねじ込みます。
- 調節スクリュー③を回し、スロットルグリップでアクセルワイヤーの遊びが感じられるように調節します。

#### 規定

アクセルワイヤーの遊び	3 ... 5 mm
-------------	------------

- スムーズな動きやアクセルワイヤーの遊びが許容する範囲内で調節スクリュー⑤を緩めます。
- 調節スクリュー⑤を再び2回転してねじ込みます。



- ナット④をしっかりと締めます。
- ナット②をしっかりと締めます。
- ワイヤーブーツ①をかぶせます。
- スロットルグリップがスムーズに動くか確認します。

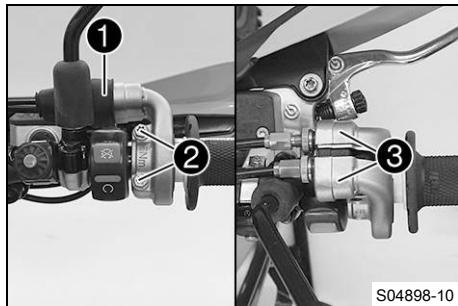
## その後の作業

- アクセルワイヤーの遊びを点検します。 (☞ 頁 137)

## 17.3 スロットルからの吸気特性を調節する

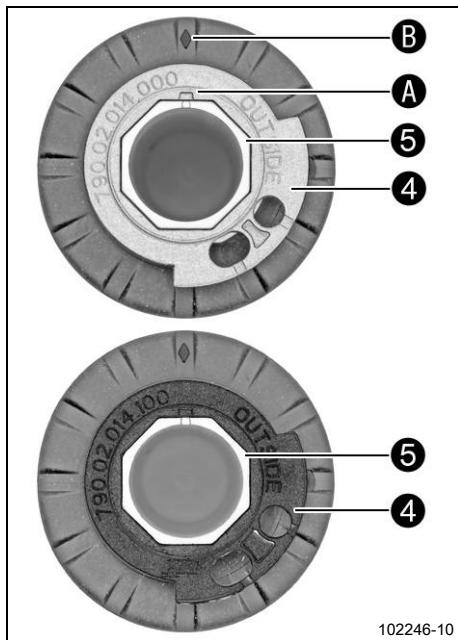
### i 参考

スロットルグリップの連結リンクを交換することでスロットルからの吸気特性を変えることができます。他の特性を調節する連結リンクが一つ同梱されています。



### 主な作業

- ワイヤーブーツ①を後ろへずらします。
- スクリュー②と半割りリング③を取り外します。
- アクセルワイヤーを外し、グリップパイプを取り外します。



- 連結リンク④をグリップパイプ⑤から取り外します。
- 適切な連結リンクをグリップパイプで位置を調整します。

#### 規定

OUTSIDEが見えるようにします。マーキングAはマーキングBの位置に合わせます。

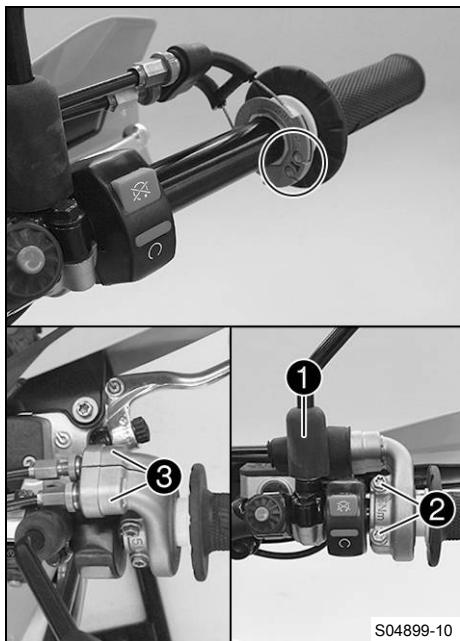
連結リンク グレー (79002014000)

#### ケース 1

連結リンク 黒 (79002014100)

### i 参考

グレーの連結リンクでスロットルバルブをゆっくりと開きます。  
黒い連結リンクではスロットルバルブを素早く開けます。  
納品時にはグレーの連結リンクが取り付けられています。



- ハンドルバーの外側とグリップパイプの内側を清掃します。  
グリップパイプをハンドルバーに差し込みます。
- アクセルワイヤーを連結リンクにかけ、正しく取り回します。
- 半割りリング③の位置を調整し、スクリュー②を取り付け、しっかりと締めます。

規定

スロットルグリップ 用スクリュー	M6	5 Nm
---------------------	----	------

- ワイヤーブーツ①をはめ、スロットルグリップのスムーズな動きを確認します。

その後の作業

- アクセルワイヤーの遊びを点検します。(☞ 頁 137)

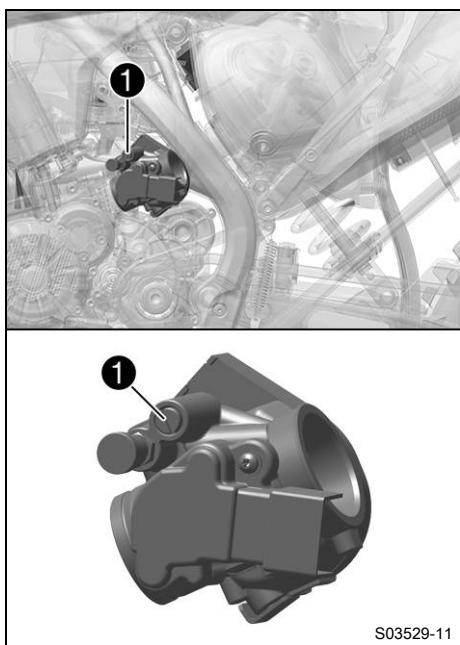
## 17.4 アイドリング回転数を調節する ↗



**警告**

**事故の危険性** アイドリング回転数が低過ぎる場合、エンジンが突然停止することがあります。

- アイドリング回転数を規定値になるように設定します。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



- エンジンの暖機運転を行います。

- ✓ チョークノブがオフ→チョークノブはさらに  $\frac{1}{4}$  回転回すと基本位置に戻ります。(☞ 頁 21)



**危険**

**中毒の危険性** 排気ガスは毒性があり、意識不明や死亡の原因となる恐れがあります。

- エンジンを稼動する際は十分に換気が行えるよう常に確認してください。
- 閉め切った室内でエンジンを始動したり、稼動状態にする場合は、適切な排気ガス抽出装置を使用してください。

- アイドリング調整スクリュー①を回し、アイドリング回転数を調節します。

規定

アイドリング回転数	1,400 ... 1,500 rpm
タコメーター (45129075000)	



## 参考

時計回りに回すとアイドリング回転数が下がります。  
時計と反対回りに回すとアイドリング回転数が上がります。

設定は慎重に細かく行って下さい。

アイドリング回転数が適切に設定されていないと、  
エンジン全体の作動に悪影響をもたらします。

## 17.5 外気圧をプログラミングする



### 危険

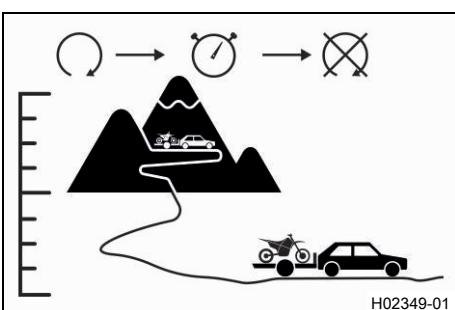
**中毒の危険性** 排気ガスは毒性があり、意識不明や死亡の原因となる恐れがあります。

- エンジンを稼動する際は十分に換気が行えるように常に確認してください。
- 閉め切った室内でエンジンを始動したり、稼動状態にする場合は、適切な排気ガス抽出装置を使用してください。



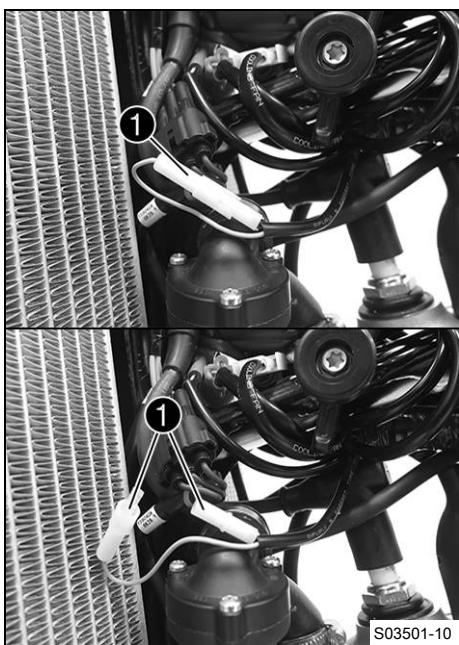
### 参考

車両はエンジンがかかった状態で高度が異なるの道を走行すると、常に外気圧に状態を合わせています。  
車両のエンジンがオフの状態で高度差の激しい場所に輸送される場合、改めて外気圧をプログラミングしなければなりません。



- 新しい高度で車両のエンジンを始動し、停止します。
- 少なくとも 5 秒間待ちます。
- 車両を再び始動し、反応を点検します。
  - » 反応が改善されない場合：
    - この手順を再び行います。

## 17.6 点火特性コネクター



点火特性コネクター①は、フューエルタンク下のフレームに取り付けられています。



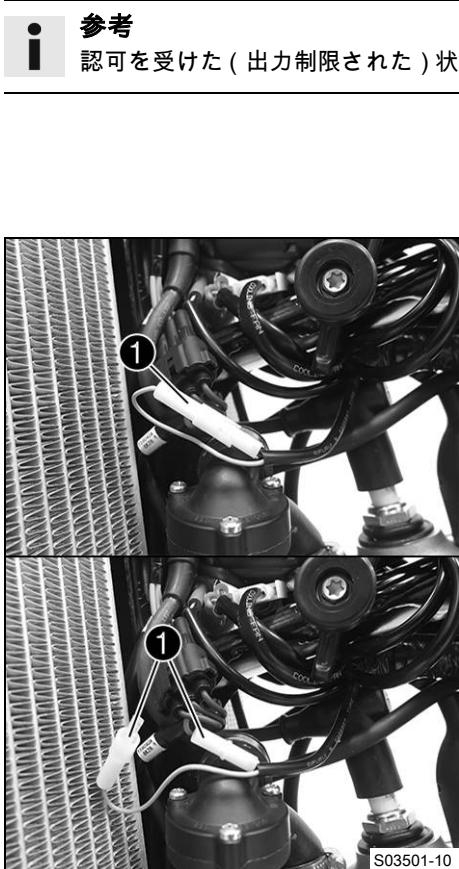
### 参考

認可を受けた（出力制限された）状態ではスパークプラグのコネクターを使用することはできません。

### 確認すべき状態

- ・ ソフトモード – 点火特性コネクターを外すと、より安定したドライバビリティが得られます。
- ・ パワーモード – 点火特性コネクターを接続すると、より高い出力が得られます。

## 17.7 点火特性を変更する (XC-W 全標準モデル, EXC 全標準モデル)



### 参考

認可を受けた（出力制限された）状態ではスパークプラグのコネクターを使用することはできません。

### 準備作業

- シートを取り外します。（☞ 頁 79）
- フューエルタンクを取り外します。☞（☞ 頁 85）

### 点火特性をパワーモードからソフトモードに切り替えます

- 点火特性コネクター①を外します。

✓ ソフトモード – より安定した操縦性

### 点火特性をソフトモードからパワーモードに切り替えます

- 点火特性コネクター①を外します。

✓ パワーモード – より高い出力

### その後の作業

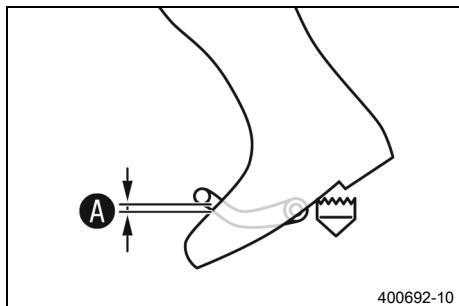
- フューエルタンクを取り付けます。☞（☞ 頁 87）

- シートを取り付けます。 (☞ 頁 80)

## 17.8 シフトレバーの基本位置を点検する

### 参考

走行中、シフトレバーが基本位置にある状態でブーツに触れることがないよう調節して下さい。  
シフトレバーが常時ブーツに接触していると、トランスマッisionに過剰な負荷がかかります。



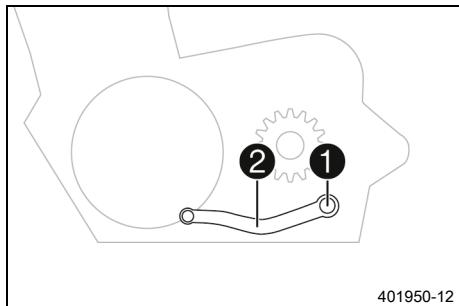
- ライディングポジションで車両に乗り、ブーツの上端とシフトレバーの距離**A**を確認します。

シフトレバーからブーツ上端までの距離	10 ... 20 mm
--------------------	--------------

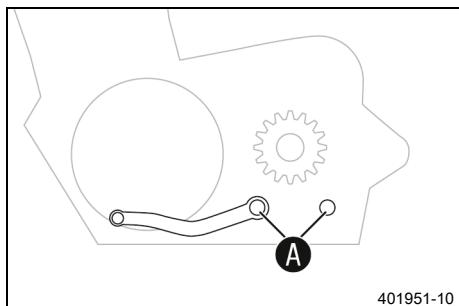
» 距離が規定通りになっていない:

- シフトレバーの基本位置を調整します。 (☞ 頁 142)

## 17.9 シフトレバーの基本位置を調整する



- スクリュー①をワッシャーと一緒に取り外し、シフトレバー②を取り外します。



- シフトレバーとシフトシャフトの歯**A**を清掃します。
- シフトレバーを好みの位置でシフトシャフトに差し込み、歯をかみ合わせます。

### 参考

設定範囲には限界があります。  
シフト操作の際にシフトレバーが車両の他の部品に触れないように調節して下さい。

- スクリュー①をワッシャーと一緒に取り付け、しっかりと締めます。

規定

シフトレバー用 スクリュー	M6	14 Nm	Loctite®243™
------------------	----	-------	--------------

## 18.1 燃料スクリーンを交換する



### 危険

**火事の危険** 燃料は可燃性です。

フューエルタンク内の燃料は熱により膨張し、溢れ出てしまうことがあります。

- 炎や火のついたタバコの近くで車両に給油しないでください。
- 給油の際にはエンジンを停止してください。
- 特に車両部品に燃料がこぼれるないように注意してください。
- こぼれた燃料はすぐに拭き取ってください。
- 給油の際には燃料給油に関する注意事項を参照してください。



### 警告

**中毒の危険性** 燃料は毒性で、健康に害を及ぼします。

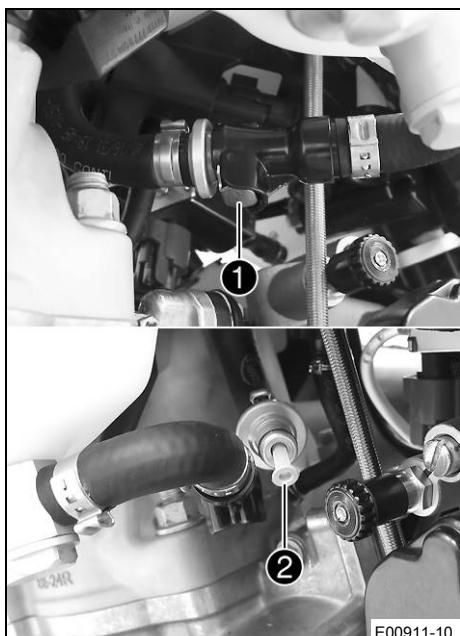
- 燃料が皮膚、目、衣服に接触しないよう注意してください。
- 燃料を飲み込んでしまった場合、即座に受診してください。
- 気化した燃料を吸い込まないでください。
- 接触した部分の肌は即座に多量の水で洗ってください。
- 燃料が目にはいった場合、速やかに水で洗い落とし、受診してください。
- 燃料が衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。



### 情報

**環境汚染** 燃料の不適切な取り扱いは、環境汚染の原因となります。

- 燃料を地下水、土壤、下水道に流してはいけません。



- クイックカップリング①を圧縮空気で念入りに清掃します。



### 参考

燃料ホースに汚れが絶対に入らないよう注意して下さい。汚れが入り込むとインジェクションバルブが詰まる原因となります。

- クイックカップリングを外します。



### 参考

燃料ホースから残りの燃料が流れ出る事があります。

- 接続部から燃料スクリーン②を取り出します。
- 新しい燃料スクリーンを接続部に差し込み、最後まで押し込みます。
- 糸くずの出ない布にシリコンスプレーを吹きかけ、クイックカップリングのOリングを軽くグリースアップします。

**シリコンスプレー** (■ 頁 173)

- クイックカップリングを差し込みます。



## 危険

**中毒の危険性** 排気ガスは毒性があり、意識不明や死亡の原因となる恐れがあります。

- エンジンを稼動する際は十分に換気が行えるよう常に確認してください。
- 閉め切った室内でエンジンを始動したり、稼動状態にする場合は、適切な排気ガス抽出装置を使用してください。

- エンジンをかけ、きちんと作動するか点検します。

## 18.2 2ストロークオイルのレベルを点検する



### 警告

**エンジン損傷** オイルタンクが2ストロークオイルで充填されていない場合、エンジンは潤滑されません。

2ストロークオイルのオイルレベル警告ランプが点灯しても燃料タンク残量分を走行することができます。

- オイルレベル警告ランプが点灯したら、その時点からの最高走行距離は燃料タンク残量分で走れる距離です。
- 燃料を給油する前に2ストロークオイルを充填してください。
- 2ストロークオイルのホースが抜かれた場合、または2ストロークオイルタンクが空になってしまった場合、オイルポンプを誘発してください。

### 準備作業

- 車両を水平な地面の上で垂直に立てます。

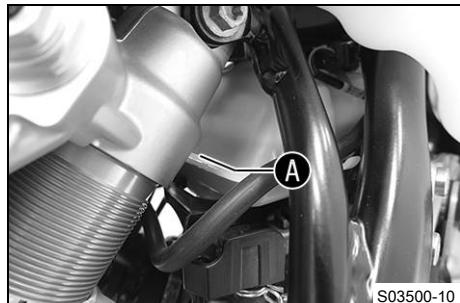
### 主な作業

- オイルタンクの2ストロークオイルのレベルを点検します。



### 参考

満タンのフューエルタンクに対し、2ストロークオイルのタンクは接合部上端Aまで満たされていなければなりません。



2ストロークオイルのタンクをできるだけ満タンの状態に充填します。

» 2ストロークオイルのレベルが低過ぎる場合 :

- 2ストロークオイルを給油します。(☞ 頁 50)

### 18.3 オイルポンプを誘発する



#### 警告

**エンジン損傷** オイルタンクが 2ストロークオイルで充填されていない場合、エンジンは潤滑されません。

2ストロークオイルのオイルレベル警告ランプが点灯しても燃料タンク残量分を走行することができます。

- オイルレベル警告ランプが点灯したら、その時点からの最高走行距離は燃料タンク残量分で走れる距離です。
- 燃料を給油する前に 2ストロークオイルを充填してください。
- 2ストロークオイルのホースが抜かれた場合、または 2ストロークオイルタンクが空になってしまった場合、オイルポンプを誘発してください。

#### 条件

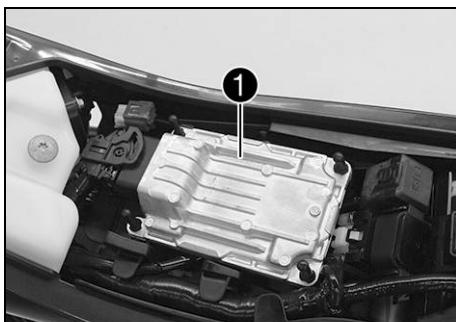
エンジンが停止している。

#### 準備作業

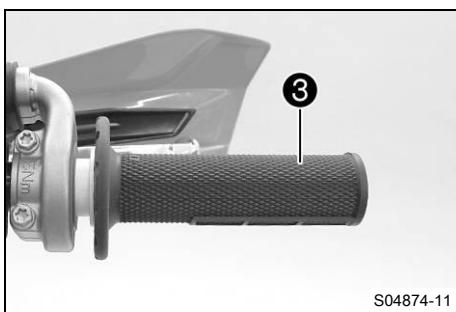
- シートを取り外します。 (☞ 頁 79)
- 車両を水平な地面の上で垂直に立てます。
- 2ストロークオイルのレベルを点検します。 (☞ 頁 144)

#### 主な作業

- EFI コントロールユニット ① をゴムの突起部から上に抜き取り脇にかけておきます。
- 診断プラグ ② をホールダーから抜き取ります。

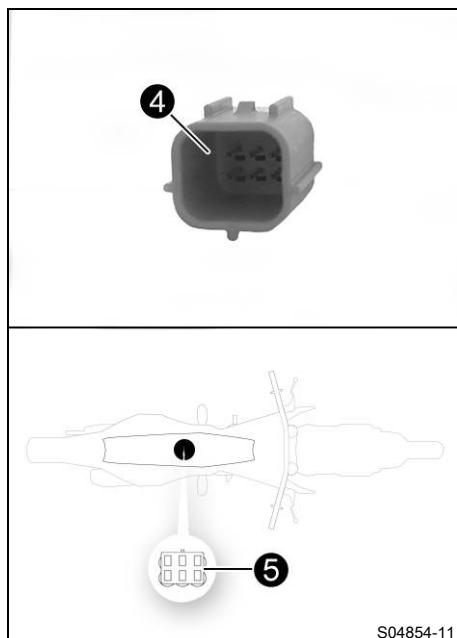


S04900-10



S04874-11

- スロットルグリップ ③ をスロットル全開位置にし、そこで固定します。



- ウエイクアッププラグ④を診断プラグ⑤に差し込み、オイルポンプを誘発します。

- ✓ コンビネーションインストルメントがライトアップされます。

**i 参考**

プラグは車両の付属品パックに含まれています。

- 少なくとも 5 秒間待ちます。
- スロットルグリップの固定を緩めます。

- ✓ オイルポンプが誘発されます。

**i 参考**

オイルポンプは異なる速度で制御されます。  
そのプロセスがはっきりと聞こえます。

- オイルポンプから作動音が聞こえなくなるまで待ちます。
- 診断プラグからウェイクアッププラグ抜き取ります。



- ホース⑥に気泡が見えるかを点検します。  
» 気泡が見える場合：
  - 気泡が見えなくなるまで手順を繰り返します。
- 診断プラグをホルダーに取り付けます。
- EFI コントロールユニットをゴムの突起部に取り付けます。

**その後の作業**

- シートを取り付けます。 (☞ 頁 80)

## 18.4 オイルタンクのオイルスクリーンを清掃する



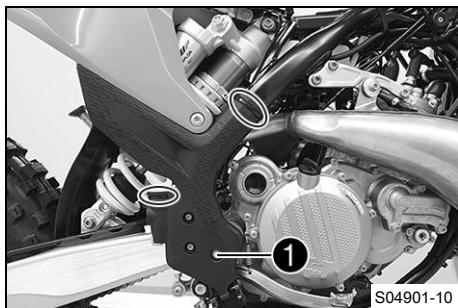
### 情報

**環境汚染** 問題物質が環境汚染の原因となります。

- オイル、グリース、フィルター、燃料、洗浄剤、ブレーキフルードなどは、定められた規則に従い正しく廃棄して下さい。

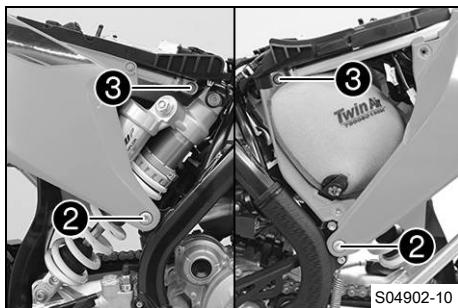
### 準備作業

- 車両をリフトスタンドでジャッキアップします。 (☞ 頁 65)
- メインサイレンサーを取り外します。 (☞ 頁 83)
- シートを取り外します。 (☞ 頁 79)
- フューエルタンクを取り外します。 (☞ 頁 85)
- エアフィルターボックスカバーを取り外します。 (☞ 頁 80)

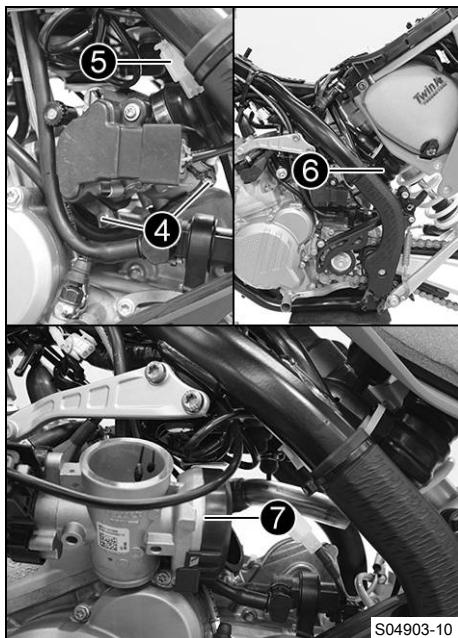


## 主な作業

- スクリュー①をワッシャーと一緒に外します。
- ケーブル留めを外し、フレームガードを取り外します。



- スクリュー②を外します。
- スクリュー③を緩めます。



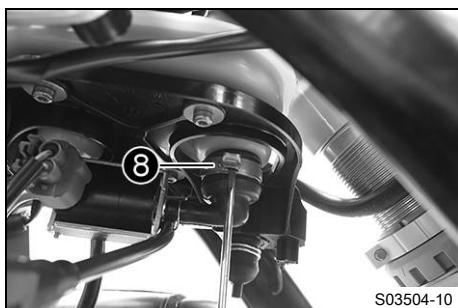
- スロットルバルブ本体のクランプ④を外します。
- 裏にあるブレーキライツイッチのコネクター⑤を外します。
- サブフレームを軽く持ち上げ固定します。



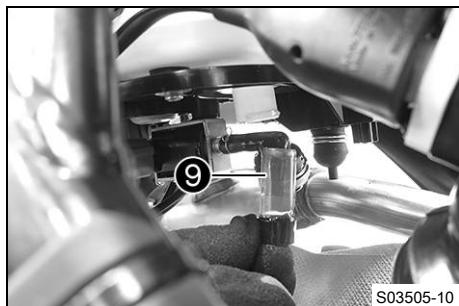
## 参考

インテークマニホールド⑥に注意して下さい。

- スロットルバルブ本体⑦を後ろへ引いてインテークフランジから抜き、脇にかけておきます。



- ホースクランプ⑧をドライバーを使って開きます。
- アングルピースを抜き取り、2ストロークオイルを適切な容器に流出させます。



- オイルスクリーン⑨を外し、清掃します。
- オイルスクリーンに損傷がないかを点検します。
  - » オイルスクリーンに損傷が見られる場合 :
    - オイルスクリーンを交換します。



- オイルスクリーンを取り付け、アングルピースに新しいホースクランプを取り付けます。

ホースクランプ用ベンチ (60029057000)



- スロットルバルブ本体⑦を取り付けます。
- クリップを外し、サブフレームの位置を調整します。



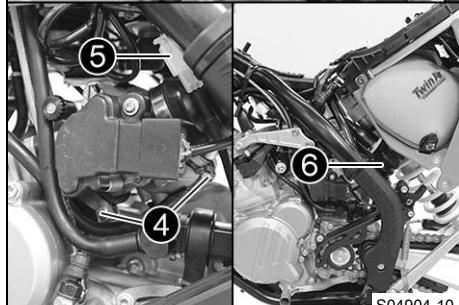
### 参考

インテークマニホールド⑥に注意して下さい。

- 裏にあるブレーキライトスイッチのコネクター⑤を繋ぎます。
- スロットルバルブ本体のクランプ④の位置を調整し、しっかりと締めます。

規定

インテークフランジ /ダイヤフラムケー ス用スクリュー	M6	6 Nm
-----------------------------------	----	------



- スクリュー②を取り付け、しっかりと締めます。

規定

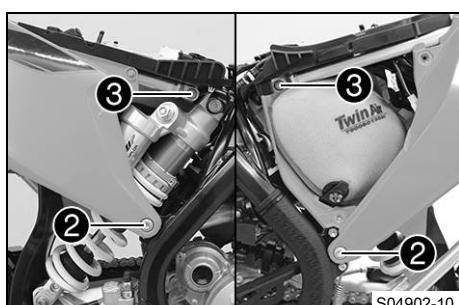
下サブフレーム 用スクリュー	M8	30 Nm	Loctite®2701™
-------------------	----	-------	---------------

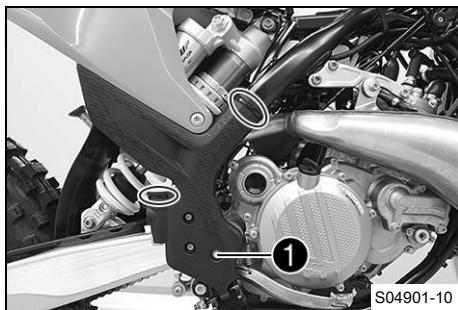
- スクリュー③を外します。

- スクリュー③を取り付け、しっかりと締めます。

規定

上サブフレーム 用スクリュー	M8	35 Nm	Loctite®2701™
-------------------	----	-------	---------------





- フレームガードの位置を調整します。
- スクリュー①をワッシャーと一緒に取り付け、しっかりと締めます。

規定

シャーシ用その他の スクリュー	M5	5 Nm
--------------------	----	------

- ケーブル留めを取り付けます。

#### その後の作業

- エアフィルター・ボックスカバーを取り付けます。 (図 要 81)
- フューエルタンクを取り付けます。 (図 要 87)
- 2ストロークオイルを給油します。 (図 要 50)
- オイルポンプを誘発します。 (図 要 145)
- シートを取り付けます。 (図 要 80)
- メインサイレンサーを取り付けます。 (図 要 84)
- 車両をリフトスタンドから降ろします。 (図 要 65)

### 18.5 ミッションオイルのレベルを点検する

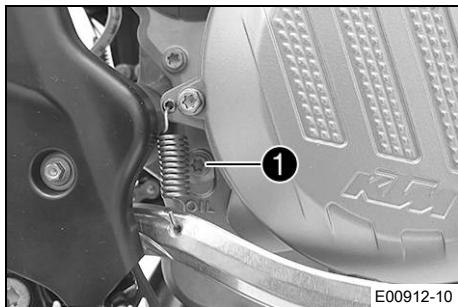


#### 参考

ミッションオイルのレベルはエンジンが冷えた状態で点検して下さい。

#### 準備作業

- 車両を水平な地面の上で垂直に立てます。



#### 主な作業

- ブレーキペダルのスプリングを外します。
- ミッションオイルレベル点検用スクリュー①を外します。
- ミッションオイルのレベルを点検します。
  - 穴からミッションオイルが少量流れ出したら正常です。
  - » ミッションオイルが流れ出ない:
    - ミッションオイルを補給します。 (図 要 151)
- ミッションオイル点検用スクリューを取り付け、しっかりと締めます。

規定

ミッションオイル のレベル点検用スクリュー	M6	8 Nm
--------------------------	----	------

- ブレーキペダルのスプリングを掛けます。

## 18.6 ミッションオイルを交換する



### 警告

**火傷の危険性** エンジンオイル並びにミッションオイルは運転中非常に熱くなっています。

- 適切な保護服、保護手袋を着用して下さい。
- 火傷した場合、速やかにその部位をぬるま湯に浸して下さい。



### 情報

**環境汚染** 問題物質が環境汚染の原因となります。

- オイル、グリース、フィルター、燃料、洗浄剤、ブレーキフルードなどは、定められた規則に従い正しく廃棄して下さい。



### 参考

ミッションオイルをエンジン作動温度で排出します。

#### 準備作業

(特別モデルシリーズ)

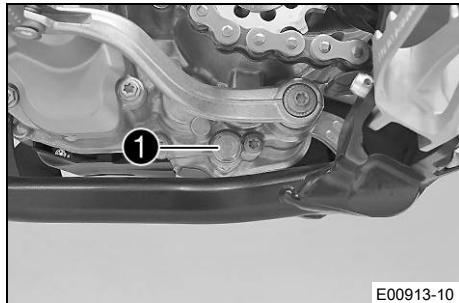
- エンジンガードを取り外します。( 頁 98)
- 車両を水平な地面の上に立てます。
- 適切な容器をエンジンの下に置きます。

#### 主な作業

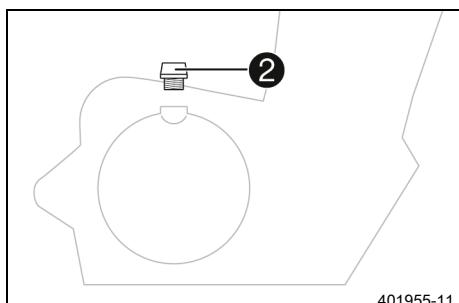
- マグネットミッションオイルドレインbolt ①を外します。
- ミッションオイルが完全に流れ出るまで待ちます。
- マグネットミッションオイルドレインboltを念入りに清掃します。
- エンジン側のシール面を清掃します。
- マグネットドレインbolt ①を新しいシールリングと一緒に取り付け、しっかりと締めます。

#### 規定

マグネットミッションオイルドレインbolt	M12x1.5	20 Nm
-----------------------	---------	-------



E00913-10



401955-11

- オイルフィラーボルト ②をOリングと一緒に取り外し、ミッションオイルを注入します。

ミッションオイル	0.80 L	エンジンオイル (15W/50) ( 頁 171)
----------	--------	---------------------------

- オイルフィラースクリューをOリングと一緒に取り付け、しっかりと締めます。



### 危険

**中毒の危険性** 排気ガスは毒性があり、意識不明や死亡の原因となる恐れがあります。

- エンジンを稼動する際は十分に換気が行えるよう常に確認してください。
- 閉め切った室内でエンジンを始動したり、稼動状態にする場合は、適切な排気ガス抽出装置を使用してください。

- エンジンをかけ、漏れがないか確認します。

**その後の作業**

- ミッションオイルのレベルを点検します。 (☞ 頁 149)
- (特別モデルシリーズ)
  - エンジンガードを取り付けます。 (☞ 頁 98)

**18.7 ミッションオイルを補給する****参考**

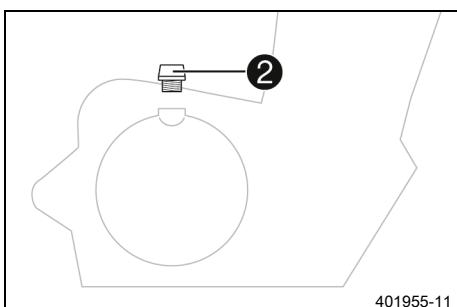
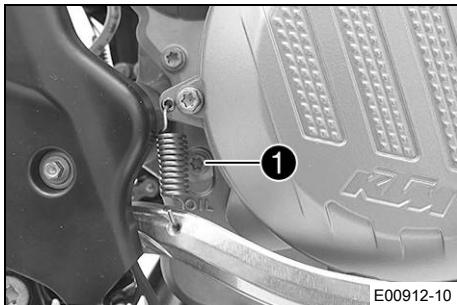
**i** ミッションオイルが少な過ぎたり質が悪いと、ギアの摩耗を早める事になります。  
ミッションオイルはエンジンが冷めている状態で補充して下さい。

**準備作業**

- 車両を水平な地面の上に立てます。

**主な作業**

- ブレーキペダルのスプリングを外します。
- ミッションオイルレベル点検用スクリュー①を外します。



- オイルフィラーボルト②をOリングと一緒に外します。
- ミッションオイル点検用スクリューの穴からオイルが出てくるまで、ミッションオイルを注入します。

**[エンジンオイル (15W/50) (☞ 頁 171)]**

- ミッションオイル点検用スクリューを取り付け、しっかりと締めます。

**規定**

ミッションオイル のレベル点検用スク リュー	M6	8 Nm
------------------------------	----	------

- オイルフィラーボルト②をOリングと一緒に取り付け、しっかりと締めます。
- ブレーキペダルのスプリングを掛けます。

**危険**

**中毒の危険性** 排気ガスは毒性があり、意識不明や死亡の原因となる恐れがあります。

- エンジンを稼動する際は十分に換気が行えるよう常に確認してください。
- 閉め切った室内でエンジンを始動したり、稼動状態にする場合は、適切な排気ガス抽出装置を使用してください。

- エンジンをかけ、漏れがないか確認します。

**その後の作業**

- ミッションオイルのレベルを点検します。 (☞ 頁 149)

## 19.1 洗車をする

### 情報

**部品の損傷** 高圧洗浄機の誤った使用により部品が破損することがあります。

高圧により水分が電気部品、プラグ、ケーブル、ペアリングに侵入します。

圧力が高すぎるとエラーや部品破損の原因となります。

- 水流が直接電気部品、プラグ、ケーブル、ペアリングにあたらないように注意してください。
- 高圧洗浄機のジェットと部品間の最低間隔を維持してください。

最低間隔

60 cm



### 情報

**環境汚染** 問題物質が環境汚染の原因となります。

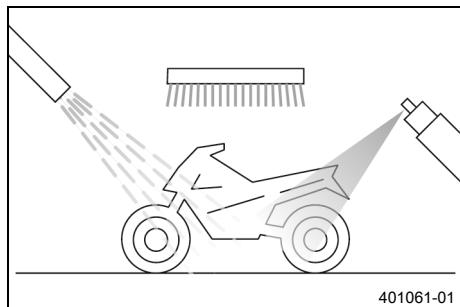
- オイル、グリース、フィルター、燃料、洗浄剤、ブレーキフルードなどは、定められた規則に従い正しく廃棄して下さい。



### 参考

品質や外観を長く保持するため、洗車は定期的に行って下さい。

洗車中は車両に直射日光が当たらないよう注意して下さい。



- 水が入らないように排気装置をふさぎます。
- 弱い水流で大きな汚れを落とします。
- 汚れがひどい箇所には市販のモーターサイクル洗浄剤を吹きつけ、ブラシで汚れを落とします。

モーターサイクル用洗浄剤 (☞ 頁 173)



### 参考

洗車には市販のモーターサイクル洗浄剤を入れた温水と柔らかいスポンジを使用して下さい。

乾燥した車両に直接モーターサイクル洗浄剤を付けることは絶対にせず、必ず事前に車両を水ですすいで下さい。

- 弱い水流で念入りにすすいだ後、車両をよく乾燥させます。
- 排気装置をふさいでいる栓を外します。



### 警告

**事故の危険性** 水分や汚れはブレーキシステムに影響を及ぼします。

- ブレーキパッドとブレーキディスクを乾燥させ汚れを落とすために何度も慎重にブレーキをかけて下さい。

- 洗車後、エンジンが作動温度に達するまで短い距離を走行します。



### 参考

熱によりエンジンやブレーキシステムの手の届かない場所にある水分も蒸発します。

- 車両の温度が下がったら全てのスライド部とペアリング部をグリースアップします。
- チェーンを清掃します。 (☞ 頁 89)

- 塗装されていない金属製部品(ブレーキディスクと排気装置を除く)には、腐食防止剤を塗布します。

ラッカー塗装、金属、ゴム用手入れ剤 (書籍 173)

- プラスチック部品およびパウダーコーティングされている部品は全て刺激の少ない洗浄・手入れ剤で手入れをします。

ラッカ一塗装(光沢、非光沢)、金属、プラスチック専用洗浄剤(書籍頁173)

(EXC シリーズ)

- ハンドルロックにオイルを差します。

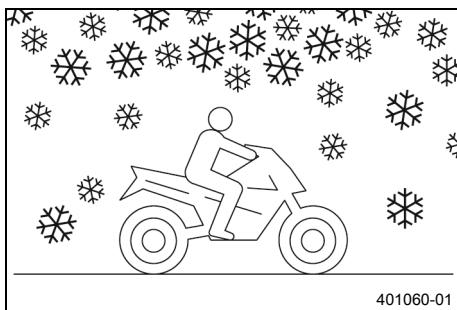
## 汎用オイルスプレー (図 頁 174)

## 19.2 冬季運転における点検・メンテナンス作業

i 参考  
冬季

冬季にも車両を使用する場合は、凍結防止のために路上に散布された塩の存在を考慮しなければなりません。刺激が強い塩に対する予防対策を講じておく必要があります。

車両が撒き塩のされた路上で使用された場合、走行後の清掃には冷水を使用します。温水の使用は塩の作用を促進します。



- 洗車をします。( 頁 152)
  - ブレーキを清掃します。

i 参考  
撒き

撒き塩された道路を走行する毎に、ブレーキキャリパーとブレーキパッド（冷えており、取り付けられたままの状態）を冷たい水で入念に洗浄し、よく乾かしてください。

塩が撒かれた道路を走行した後は、必ず冷たい水で洗浄し、良く乾かしてください。

- エンジンやスイングアームをはじめ、塗装されていない部品や亜鉛メッキ加工された部品(ブレーキディスクを除く)には全てワックス系腐食防止剤を塗布します。

i 参考  
ブレ

ブレーキノイズには腐食防止剤が付かないよう注意して下さい。ブレーキ性能が大幅に低下します。

- チェーンを清掃します。(図 貞 89)

## 20.1 保管



## 警告

**中毒の危険性** 燃料は毒性で、健康に害を及ぼします。

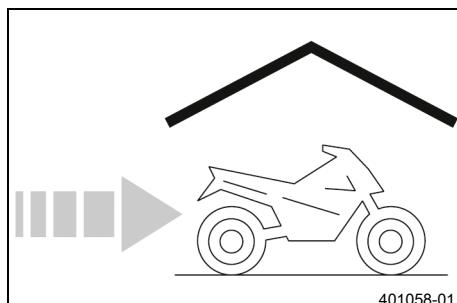
- 燃料が皮膚、目、衣服に接触しないよう注意してください。
- 燃料を飲み込んでしまった場合、即座に受診してください。
- 気化した燃料を吸い込まないでください。
- 接触した部分の肌は即座に多量の水で洗ってください。
- 燃料が目にはいった場合、速やかに水で洗い落とし、受診してください。
- 燃料が衣服に付着した場合、衣服を取り替えてください。
- 燃料は適切なキャニスターに入れ、子供の手の届かない場所に保管して下さい。



## 参考

車両を長期にわたって使用しない場合は、以下に挙げた処置をご自身または正規ディーラーで行って下さい。

車両の保管前に全ての部品が機能するか、摩耗していないかを点検します。サービス作業、修理、改造が必要な場合は、ディーラーのサービスセンターが空いている保管時期に行う事をお勧めします。シーズン開始の混雑時を避ける事ができます。



- 洗車をします。(☞ 頁 152)
- ミッションオイルを交換します。 ↘ (☞ 頁 150)
- 不凍液とクーラントのレベルを点検します。(☞ 頁 131)
- シーズンオフで使用を停止する前の最後の給油時に、燃料添加剤を加えます。

## 燃料添加剤 (☞ 頁 174)

- 燃料を給油します。(☞ 頁 49)
- 2ストロークオイルを給油します。(☞ 頁 50)
- タイヤ空気圧を点検します。(☞ 頁 116)
- 12V バッテリーを取り外します。 ↘ (☞ 頁 118)
- 12V バッテリーを充電します。 ↘ (☞ 頁 121)

## 規定

リチウムイオンバッテリー に最適な充電および保管温 度	10 ... 20 °C
-----------------------------------	--------------

- 乾燥し、急激な温度変化のない場所に車両を立てます。



## 参考

KTMでは車両をジャッキアップして保管する事をお勧めしています。

- 車両をリフトスタンドでジャッキアップします。(☞ 頁 65)
- 通気性の良い防水シートかカバーで車両を覆います。

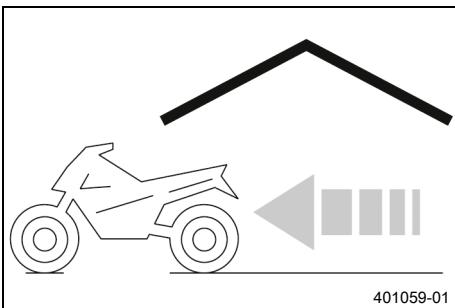


## 参考

空気を通さないカバーは湿気が逃げず、腐食の原因となりますので絶対に使用しないで下さい。

保管中にエンジンを短時間のみ作動すると、車両に非常に悪い影響を与えます。エンジンが十分に暖まらないため、燃焼の際に生じた水蒸気が結露し、バルブや排気装置のさびの原因となります。

## 20.2 保管後、運転操作の前に



- 車両をリフトスタンドから降ろします。 (☞ 頁 65)
- 12V バッテリーを取り付けます。 (☞ 頁 120)
- 運転操作の前に必ず行う点検・メンテナンス作業を実施します。 (☞ 頁 45)
- 試験走行を行います。

不具合	考えられる原因	対応
エンジンが回転しない（セルフスターター/モーター）	操作ミス	- エンジン始動の作業ステップに従って下さい。（  頁 45）
	12V バッテリーが放電される	- 12V バッテリーを充電します。  (  頁 121) - 充電電圧を点検します。  - スタンバイ電流を点検します。  - ジエネレーターの固定子コイルを点検します。 
	メインヒューズが切れている	- メインヒューズを交換します。 (  頁 123)
	セルフスターターリレーが故障している	- セルフスターターリレーを点検します。 
	セルフスターター/モーターが故障している	- セルフスターター/モーターを点検します。 
エンジンが回転しているのにかかるない	操作ミス	- エンジン始動の作業ステップに従って下さい。（  頁 45）
	クイックカップリングが差し込まれていない	- クイックカップリングを差し込みます。
	アイドリング回転数の設定が適切でない	- アイドリング回転数を調節します。  (  頁 139)
	燃料供給が停止した	- フューエルタンクの工ア抜きを点検します。
	スパークプラグにすすが溜まっている、スパークプラグが濡れている	- スパークプラグとスパークプラグのコネクターを清掃・乾燥し、必要に応じて交換します。
	スパークプラグの電極間のクリアランスが大き過ぎる	- 電極間のクリアランスを調節します。 規定 スパークプラグ電極間のクリアランス 0.6 mm
	イグニッションが故障している	- イグニッションコイルの一次コイルを点検します。  - スパークプラグのコネクターを点検します。  - ジエネレーターの固定子コイルを点検します。 
	ワイヤーハーネスのエンジンストップスイッチ用ケーブルが擦り切れている、オフスイッチまたはエマージェンシーオFFスイッチが故障している	- ワイヤーハーネスを点検します（目視確認）。 - 電装系部品を点検します。
	プラグまたはイグニッションコイルが酸化している	- プラグを清掃し、コンタクトスプレーを塗布します。
	電子フューエルインジェクションの不具合	- 配線に破損がないか、コネクターに腐食や破損がないか点検します。 - KTM 診断ツールでエラーメモリーを解読します。 
エンジンがアイドリング回転数にならない	スパークプラグが故障している	- スパークプラグを交換します。

不具合	考えられる原因	対応
エンジンがアイドリング回転数にならない	イグニッションが故障している	<ul style="list-style-type: none"> <li>- イグニッションコイルの一次コイルを点検します。 ↗</li> <li>- スパークプラグのコネクターを点検します。 ↗</li> <li>- ジェネレーターの固定子コイルを点検します。 ↗</li> </ul>
	アイドリング回転数の設定が適切でない	<ul style="list-style-type: none"> <li>- アイドリング回転数を調節します。 ↗ ( 頁 139)</li> </ul>
エンジンの回転数が上がらない	電子フューエルインジェクションの不具合	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 配線に破損がないか、コネクターに腐食や破損がないか点検します。</li> <li>- KTM 診断ツールでエラーメモリーを解読します。 ↗</li> </ul>
	イグニッションが故障している	<ul style="list-style-type: none"> <li>- イグニッションコイルの一次コイルを点検します。 ↗</li> <li>- スパークプラグのコネクターを点検します。 ↗</li> <li>- ジェネレーターの固定子コイルを点検します。 ↗</li> </ul>
	誤った外気圧が保存されている	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 外気圧をプログラミングします。 ( 頁 140)</li> </ul>
エンジンの出力が低過ぎる	エアフィルターがひどく汚れている	<ul style="list-style-type: none"> <li>- エアフィルターとエアフィルターケースを清掃します。 ↗ ( 頁 82)</li> </ul>
	燃料フィルターがひどく汚れている	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 燃料フィルターを交換します。 ↗</li> </ul>
	燃料スクリーンがひどく汚れている	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 燃料スクリーンを交換します。 ↗ ( 頁 143)</li> </ul>
	電子フューエルインジェクションの不具合	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 配線に破損がないか、コネクターに腐食や破損がないか点検します。</li> <li>- KTM 診断ツールでエラーメモリーを解読します。 ↗</li> </ul>
	燃料供給が停止した	<ul style="list-style-type: none"> <li>- フューエルタンクの工ア抜きを点検します。</li> </ul>
	排気装置に漏れがある・変形している、メインサイレンサーのグラスファイバーが少な過ぎる	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 排気装置に損傷がないか点検します。</li> <li>- メインサイレンサーのグラスファイバーを交換します。 ↗ ( 頁 84)</li> </ul>
	イグニッションが故障している	<ul style="list-style-type: none"> <li>- イグニッションコイルの一次コイルを点検します。 ↗</li> <li>- スパークプラグのコネクターを点検します。 ↗</li> <li>- ジェネレーターの固定子コイルを点検します。 ↗</li> </ul>
	ダイヤフラムまたはダイヤフラムケースが破損している	<ul style="list-style-type: none"> <li>- ダイヤフラムとダイヤフラムケースを点検します。</li> </ul>
	誤った外気圧が保存されている	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 外気圧をプログラミングします。 ( 頁 140)</li> </ul>
走行中にエンジンが停止する	燃料不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 燃料を給油します。 ( 頁 49)</li> </ul>
	エンジンに不適切な空気が送られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>- インテークフランジがきちんと固定されているか確認します。</li> </ul>

## 21 トラブルシューティング

不具合	考えられる原因	対応
走行中にエンジンが停止する	プラグまたはイグニッションコイルが酸化している	- プラグを清掃し、コンタクトスプレーを塗布します。
	誤った外気圧が保存されている	- 外気圧をプログラミングします。 ( 頁 140)
エンジンが異常に熱くなる	冷却システムのクーラントが少な過ぎる	- 冷却システムに漏れがないか確認します。 - クーラントのレベルを点検します。( 頁 132)
	走行風が少な過ぎる	- 車両を止め、エンジンを停止します。
	ラジエーターのフィンがひどく汚れている	- ラジエーターのフィンを清掃します。
	冷却システム内に気泡が発生している	- クーラントを排出します。( 頁 132) - クーラントを注入します。( 頁 133)
	シリンダーへッドまたはシリンダーへッドのガスケットが破損している	- シリンダーへッドとシリンダーへッドのガスケットを点検します。
	ラジエーターホースが折れ曲がっている	- ラジエーターホースを交換します。(
	サーモスタットが故障している	- サーモスタットを点検します。( 規定 作動温度: 70 °C)
白煙が出る(排気ガスに蒸気)	シリンダーへッドまたはシリンダーへッドのガスケットが破損している	- シリンダーへッドとシリンダーへッドのガスケットを点検します。
工ア抜きホースからミッショソイルが漏れる	ミッショソイルの入れ過ぎ	- ミッショソイルのレベルを点検します。( 頁 149)
ミッショソイルに水が混じっている	ラジアルシャフトシールリングまたはウォーターポンプが損傷している	- ラジアルシャフトシールリングとウォーターポンプを点検します。
不具合インジケーターランプが点灯または点滅	電子フューエルインジェクションの不具合	- 配線に破損がないか、コネクターに腐食や破損がないか点検します。 - KTM診断ツールでエラーメモリーを解読します。(
12Vバッテリーが放電される	12Vバッテリーがジェネレーターで充電されない	- 充電電圧を点検します。 - ジェネレーターの固定子コイルを点検します。(
	不要な電装系部品	- スタンバイ電流を点検します。(
コンピネーションインスツルメントの数値(時計、ストップウォッチ、ラップタイム)が削除されました	コンピネーションインスツルメントの電池が消耗している	- コンピネーションインスツルメントの電池を交換します。( 頁 129)

**参考**

点滅コードは出力制限が解除された車両でのみ表示されます。

<b>不具合インジケーターランプの点滅コード</b>		14 不具合インジケーターランプが長く 1 回、短く 4 回点滅
<b>エラー発生条件</b>		クランクケース圧力センサー - センサーとエンジン制御ユニットの差が大きすぎる
<b>不具合インジケーターランプの点滅コード</b>		09 不具合インジケーターランプが短く 9 回点滅
<b>エラー発生条件</b>		クランクケース圧力センサー - アースに短絡 クランクケース圧力センサー - 遮断された / プラス極に短絡した 外気圧力センサー - アースに短絡 外気圧力センサー - 遮断された / プラス極に短絡した
<b>不具合インジケーターランプの点滅コード</b>		13 不具合インジケーターランプが長く 1 回、短く 3 回点滅
<b>エラー発生条件</b>		インテークエア温度センサー - 入力信号が低過ぎる インテークエア温度センサー - 入力信号が高過ぎる
<b>不具合インジケーターランプの点滅コード</b>		12 不具合インジケーターランプが長く 1 回、短く 2 回点滅
<b>エラー発生条件</b>		クーラント温度センサー - 入力信号が低過ぎる クーラント温度センサー - 入力信号が高過ぎる
<b>不具合インジケーターランプの点滅コード</b>		06 不具合インジケーターランプが短く 6 回点滅
<b>エラー発生条件</b>		スロットルポジションセンサー (回路 A) - 適応に失敗しました スロットルポジションセンサー (回路 A) - 入力信号が低過ぎる スロットルポジションセンサー (回路 A) - 入力信号が高過ぎる
<b>不具合インジケーターランプの点滅コード</b>		41 不具合インジケーターランプが長く 4 回、短く 1 回点滅
<b>エラー発生条件</b>		燃料ポンプ - 遮断された / アースに短絡した 燃料ポンプ - 遮断された / プラス極に短絡した
<b>不具合インジケーターランプの点滅コード</b>		33 不具合インジケーターランプが長く 3 回、短く 3 回点滅
<b>エラー発生条件</b>		インジェクションバルブ 0、シリンドー 1 - 入力信号が低過ぎます インジェクションバルブ 0、シリンドー 1 - 入力信号が高過ぎます

不具合インジケーター ランプの点滅コード		34 不具合インジケーターランプが長く 3 回、短く 4 回点滅
エラー発生条件		インジェクションバルブ 1、シリンダー 1 - 入力信号が低過ぎます
		インジェクションバルブ 1、シリンダー 1 - 入力信号が高過ぎます
不具合インジケーター ランプの点滅コード		37 不具合インジケーターランプが長く 3 回、短く 7 回点滅
エラー発生条件		イグニッションコイル - 回路の不具合
不具合インジケーター ランプの点滅コード		02 不具合インジケーターランプが短く 2 回点滅
エラー発生条件		クランクシャフト回転センサー - 同期不良
		クランクシャフト回転センサー - 信号に信頼性がありません
		クランクシャフト回転センサー - 信号が不規則です
		クランクシャフト回転数センサー - 信号なし
不具合インジケーター ランプの点滅コード		42 不具合インジケーターランプが長く 4 回、短く 2 回点滅
エラー発生条件		オイルポンプ - 入力信号が低過ぎる
		オイルポンプ - 入力信号が高過ぎる
不具合インジケーター ランプの点滅コード		21 不具合インジケーターランプが長く 2 回、短く 1 回点滅
エラー発生条件		バッテリー電圧 - 入力電圧が低く過ぎる
		バッテリー電圧 - 入力電圧が高過ぎる
不具合インジケーター ランプの点滅コード		不具合インジケーターランプが点灯
エラー発生条件		傾斜センサー - 入力信号が低過ぎる
		傾斜センサー - 入力信号が高過ぎる

## 23.1 エンジン

## 23.1.1 250 全モデル

構造	単気筒 2 ストローク水冷エンジン、ダイヤフラム吸気、排気デバイス、トランスマチックポートインジェクション
排気量	249 cm <sup>3</sup>
ストローク	72 mm
ボア	66.4 mm
アイドリング回転数	1,400 ... 1,500 rpm
排気デバイス - 設定値	2.7 <sup>+0.2</sup> mm
クランクシャフトベアリング	深溝ボールベアリング 1 個 / 円筒ローラーベアリング 1 個
コンロッドベアリング	ニードルベアリング
ピストンピンベアリング	ニードルベアリング
ピストン	鋳造アルミニウム
ピストンリング	キーストンリング 2 個
エンジン潤滑方式	分離潤滑方式
寸法 X ( ピストン上端からシリンダー上端まで )	0 ... 0.10 mm
寸法 Z ( 制御バルブの高さ )	49.0 mm
一次減速比	26:73
クラッチ	湿式多板クラッチ、油圧作動
ギア	6 速ギア常時啮合式
変速比	
1 速	14:32
2 速	16:26
3 速	20:25
4 速	22:23
5 速	25:22
6 速	26:20
ジェネレーター	12 V, 196 W
イグニッション	非接触制御電子イグニッション、デジタルイグニッションコントローラー
スパークプラグ	NGK BR 7 ES
スパークプラグ電極間のクリアランス	0.6 mm
冷却システム	水冷式、ウォーターポンプによるクーラントの常時循環
エンジンスタート装置	エレクトロスターターシステム

## 23.1.2 300 シリーズ

構造	単気筒 2 ストローク水冷エンジン、ダイヤフラム吸気、排気デバイス、トランスマチックポートインジェクション
排気量	293.15 cm <sup>3</sup>
ストローク	72 mm
ボア	72 mm

アイドリング回転数	1,400 … 1,500 rpm
排気デバイス - 設定値	2.3 $\pm 0.2$ mm
クランクシャフトベアリング	深溝ボールベアリング 1 個 / 円筒ローラーベアリング 1 個
コンロッドベアリング	ニードルベアリング
ピストンピンベアリング	ニードルベアリング
ピストン	鋳造アルミニウム
ピストンリング	角リング 2 個
エンジン潤滑方式	分離潤滑方式
寸法 X ( ピストン上端からシリンダー上端まで )	0 … 0.10 mm
寸法 Z ( 制御バルブの高さ )	49.5 mm
一次減速比	26:73
クラッチ	湿式多板クラッチ、油圧作動
ギア	6 速ギア常時噛合式
変速比	
1 速	14:32
2 速	16:26
3 速	20:25
4 速	22:23
5 速	25:22
6 速	26:20
ジェネレーター	12 V, 196 W
イグニッション	非接触制御電子イグニッション、デジタルイグニッションコントローラー
スパークプラグ	NGK BR 7 ES
スパークプラグ電極間のクリアランス	0.6 mm
冷却システム	水冷式、ウォーターポンプによるクーラントの常時循環
エンジンスタート装置	エレクトロスターターシステム

### 23.2 締付けトルク、エンジン

ダイヤフラムシート ( 外側 ) 用スクリュー	EJOTDELTA PT® 30x6	1 Nm
ダイヤフラムシート ( 内側 ) 用スクリュー	EJOTDELTA PT® 35x25	1 Nm
ダイヤフラムホルダー用スクリュー	EJOTDELTA PT® 30x12	1 Nm
インジェクションバルブホルダー用スクリュー	M5	5 Nm Loctite®243™
クランクシャフト回転数センサー用スクリュー	M5	6 Nm Loctite®243™
スプリングリテーナークラッチ用スクリュー	M5	6 Nm
ベアリングロック用スクリュー	M5	6 Nm Loctite®243™

ロックレバー用スクリュー	M5	6 Nm Loctite®243™
固定子用スクリュー	M5	6 Nm Loctite®2701™
排気デバイスカバー用スクリュー	M5	4 Nm
排気デバイスベアリングブラケット用スクリュー	M5	6 Nm Loctite®243™
排気デバイスリアキャップ用スクリュー	M5	5 Nm
排気デバイス角度付きレバー用スクリュー	M5	6 Nm Loctite®243™
排気デバイス固定ブラケット用スクリュー	M5	6 Nm Loctite®2701™
インタークフランジ / ダイヤフラムケース用スクリュー	M6	6 Nm
ウォーターポンプカバーのドレンボルト	M6	10 Nm
ウォーターポンプカバー用スクリュー	M6	10 Nm
ウォーターポンプホイール用キャップナット	M6	5 Nm Loctite®243™
エンジンケース用スクリュー	M6	10 Nm
キックスターターのアイドラー用棒先スクリュー	M6	10 Nm Loctite®243™
クラッチアウターカバー用スクリュー	M6	8 Nm
クラッチスレーブシリンダー用スクリュー	M6	10 Nm
クラッチの内部カバー用スクリュー	M6	10 Nm
ジェネレーターカバー用スクリュー	M6	8 Nm
シフトレバー用スクリュー	M6	14 Nm Loctite®243™
シフトロック用スクリュー	M6	10 Nm Loctite®243™
シリンダー用陰圧接続部	M6	4 Nm Loctite®2701™
セルフスターターベアリングブッシュинг用スクリュー	M6	10 Nm Loctite®243™
セルフスターターモーターカバーキャップ用スクリュー	M6	8 Nm
セルフスターターモーター用スクリュー	M6	10 Nm
ミッションオイルのレベル点検用スクリュー	M6	8 Nm
排気デバイスかみ合わせ用スクリュー	M6	8 Nm Loctite®243™

排気デバイス制御バルブ用スクリュー	M6	10 Nm Loctite®243™
排気管フランジ用スクリュー	M6	8 Nm
シリンダーヘッド用スクリュー	M8	27 Nm
バランサーシャフト用スクリュー	M8	30 Nm Loctite®243™
シリンダーバレル用スタッドボルト	M10	12 Nm
シリンダーバレル用ナット	M10	35 Nm
フロントスプロケット駆動チェーン用スクリュー	M10	60 Nm Loctite®2701™
シリンダーヘッド温度センサー用スクリュー	M10x1.25	12 Nm
ローター用ナット	M12x1	60 Nm
マグネットミッションオイルドレンボルト	M12x1.5	20 Nm
スパークプラグ	M14x1.25	25 Nm
クラッチハブ用ナット	M18x1.5	100 Nm Loctite®243™
第1ギア用ナット	M18LHx1.5	150 Nm Loctite®243™

### 23.3 容量

#### 23.3.1 ミッションオイル

ミッションオイル	0.80 L	エンジンオイル (15W/50) ( 頁 171)
----------	--------	------------------------------

#### 23.3.2 クーラント

クーラント	1.2 L	クーラント ( 頁 171)
-------	-------	----------------

#### 23.3.3 燃料

フューエルタンク総容量(約)	9 L	無鉛ハイオクガソリン (ROZ 95) ( 頁 172)
予備燃料(約)	1.5 L	
2ストロークオイルタンク容量(約)	0.6 L	2ストロークエンジンオイル ( 頁 171)

## 23.4 シャーシ

フレーム	クロームモリブデン鋼メインパイプフレーム
フロントフォーク	WPXPLOR OC
ショックアブソーバー	WP XPLOR PDS
サスペンションストローク	
前	300 mm
サスペンションストローク	
後	310 mm
フォークオフセット	22 mm
ブレーキシステム	ディスクブレーキ、フローティングマウントブレーキキャリパー
ブレーキディスク直径	
前方	260 mm
後輪	220 mm
ブレーキディスク磨耗限界 (XC-W 全標準モデル, EXC 全標準モデル)	
前方	2.5 mm
後輪	3.5 mm
ブレーキディスク磨耗限界 (特別モデルシリーズ)	
前方	2.5 mm
後輪	3.7 mm
タイヤの空気圧道路走行時 (EXC シリーズ)	
前輪	2.0 bar
後輪	2.0 bar
タイヤの空気圧オフロード	
前方	1.0 bar
後輪	1.0 bar
二次減速比 (250 全モデル)	14:52 (13:52)
二次減速比 (300 シリーズ)	14:50 (13:50)
チェーン	5/8 x 1/4 インチ
納品可能なリアスプロケット	45, 48, 49, 50, 51, 52
ステアリングヘッドアングル	63.5°
ホイールベース	1,482 ± 10 mm
負荷がない状態でのシート高	960 mm
負荷がない状態での最低地上高	370 mm
燃料を除いた重量 (約)	104 kg
前方許容最大軸重	145 kg
最大許容軸重 後輪	190 kg
最大許容重量	335 kg

## 23.5 電装系

12V バッテリー	HJTZ5S-FP-C	リチウムイオンバッテリー バッテリー電圧: 12 V 定格容量: 2.0 Ah メンテナンスフリー
コンビネーションインスツルメントの電池	CR 2430	バッテリー電圧: 3 V
ヒューズ	75011088005	5 A
ヒューズ	75011088010	10 A
ヒューズ	58011109120	20 A
ヘッドライト	HS1 / ソケット BX43t	12 V 35/35 W
ポジションライト	W5W / Sockel W2.1x9.5d	12 V 5 W
インジケーターランプ	W2.3W / ソケット W2x4.6d	12 V 2.3 W
ターンシグナル (EXC シリーズ)	R10W / ソケット BA15s	12 V 10 W
ブレーキライト / テールライト	LED	
ナンバープレートライト (EXC シリーズ)	LED	

## 23.6 タイヤ

対象モデル	フロントタイヤ	リアタイヤ
(EXC 全標準モデル)	90/90 - 21 M/C 54R M+S TT MAXXIS Maxx Enduro	140/80 - 18 M/C 70R M+S TT MAXXIS Maxx Enduro
(特別モデルシリーズ)	90/90 - 21 M/C 54M M+S TT Metzeler MCE 6 DAYS EXTREME	140/80 - 18 M/C 70M M+S TT Metzeler MCE 6 DAYS EXTREME
(XC-W シリーズ)	80/100 - 21 51M TT Dunlop GEOMAX AT 81 F	110/100 - 18 64M TT Dunlop GEOMAX AT 81
ここに示されるタイヤは標準装備が予定されているタイヤの一例です。下記アドレスのサービスで詳細をご確認下さい: KTM.COM		

## 23.7 フロントフォーク

フロントフォークタイプナンバー	0797C162V401000
フロントフォーク	WPXPLOR OC
コンプレッションダンパー	
コンフォート	18 クリック
標準	15 クリック
スポーツ	12 クリック
リバウンドダンパー	
コンフォート	18 クリック
標準	15 クリック
スポーツ	12 クリック
スプリングプリロード - プリロードアジャスター	

コンフォート	+0
標準	+0
スポーツ	+3
スプリング長(プリロードスペーサーを含む)	474 mm
スプリング係数	
運転者の体重: 65 ... 75 kg	4.2 N/mm
運転者の体重: 75 ... 85 kg	4.4 N/mm
運転者の体重: 85 ... 95 kg	4.6 N/mm
フロントフォーク長	928 mm
フロントフォークオイル(各 フォークレッグ)	636 ± 10 ml
フロントフォークオイル(SAE 4) (48601166S1)( 頁 172)	

### 23.8 ショックアブソーバー

ショックアブソーバータイプナンバー	0797C461V305000
ショックアブソーバー	WP XPLOR PDS
コンプレッションダンパー低速	
コンフォート	18 クリック
標準	15 クリック
スポーツ	12 クリック
コンプレッションダンパー高速	
コンフォート	2.5 回転
標準	2 回転
スポーツ	1 回転
リバウンドダンパー	
コンフォート	18 クリック
標準	15 クリック
スポーツ	12 クリック
スプリングプリロード	9 mm
スプリング係数	
運転者の体重: 65 ... 75 kg	57 ... 63 N/mm
運転者の体重: 75 ... 85 kg	60 ... 66 N/mm
運転者の体重: 85 ... 95 kg	63 ... 69 N/mm
スプリング長	225 mm
スロットル圧	10 bar
空車サグ	37 mm
ライディングサグ	110 mm
全長	415 mm
ダンパーオイル( 頁 171)	SAE 2.5

## 23.9 締付けトルク、シャーシ

インテーカー温度センサー用スクリュー	EJOTDELTA PT® 45x12-Z	0.7 Nm
オイルタンクのオイルポンプホールダー用スクリュー	EJOTDELTA PT 45x12-Z	0.7 Nm
オイルレベルセンサー用スクリュー	G 3/4 "	7 Nm
シャーシ用その他のスクリュー	EJOT PT® K60x25-Z	2 Nm
プレッシャーコントローラー用スクリュー	EJOT PT® K60x25-Z	2.3 Nm
エマージェンシーオフスイッチ用スクリュー(EXCシリーズ)	M4	0.4 Nm
固定グリップ用スクリュー	M4	5 Nm Loctite®243™
後輪スポークニップル	M4.5	6 Nm
前輪スポークニップル	M4.5	6 Nm
シャーシ用その他のスクリュー	M5	5 Nm
シャーシ用その他のナット	M5	5 Nm
ショックアブソーバー調節リング用スクリュー	M5	5 Nm
スイングアームのブレーキワイヤーリード用スクリュー	M5	5 Nm
ターンシグナルスイッチ用スクリュー(EXCシリーズ)	M5	1 Nm
バッテリー電極用スクリュー	M5	2.5 Nm
ライトスイッチ用スクリュー(EXCシリーズ)	M5	1 Nm
リアにあるアースケーブル取付け用スクリュー	M5	5 Nm
クラッチレバー用スクリュー	M6	5 Nm
サイレントブロックのマニホールド用スクリュー	M6	6 Nm
シート取り付け用スクリュー	M6	10 Nm
シャーシ用その他のスクリュー	M6	10 Nm
シャーシ用その他のナット	M6	10 Nm
スロットルグリップ用スクリュー	M6	5 Nm
セルフスターターモーターケーブル用ナット	M6	4 Nm
セルフスターターリレーのケーブル用スクリュー	M6	6 Nm
チェーンガイド用スクリュー	M6	10 Nm
チェーンスライダーガード用スクリュー	M6	10 Nm Loctite®243™
バッテリーサポートブラケット用スクリュー	M6	6 Nm

フットブレーキシリンダーのプッシュロッドボールジョイント用スクリュー	M6	10 Nm Loctite®243™
ブレーキレバー用スクリュー	M6	5 Nm
フレームへのサイレントブロック用スクリュー	M6	6 Nm
後輪ブレーキディスク用スクリュー	M6	14 Nm Loctite®243™
前方ブレーキディスク用スクリュー	M6	14 Nm Loctite®243™
アッパートリップルクランプ用スクリュー (XC-W 全標準モデル, EXC 全標準モデル)	M8	20 Nm
アッパートリップルクランプ用スクリュー (特別モデルシリーズ)	M8	17 Nm
エンジンブレースバー用スクリュー	M8x15	25 Nm Loctite®2701™
エンジンブレースバー用スクリュー	M8x20	25 Nm Loctite®243™
サイドスタンド取付け用スクリュー (EXC シリーズ)	M8x20	33 Nm Loctite®2701™
サイドスタンド取付け用スクリュー (XC-W シリーズ)	M8x26	33 Nm Loctite®2701™
シャーシ用その他のスクリュー	M8	25 Nm
シャーシ用その他のナット	M8	25 Nm
ステアリングシステム用上部スクリュー (XC-W 全標準モデル, EXC 全標準モデル)	M8	20 Nm
ステアリングシステム用上部スクリュー (特別モデルシリーズ)	M8	17 Nm Loctite®243™
チェーンスライダー用スクリュー	M8	15 Nm
ハンドルバークランプ用スクリュー	M8	20 Nm
フォークレッグのアクスル通し穴用スクリュー	M8	15 Nm
プルスイッチ用ナット (XC-W シリーズ)	M8	0.8 Nm
ブレーキペダルストッパー用ナット	M8	20 Nm
ブレーキペダル用ナット	M8	20 Nm
フロントスプロケットカバー用スクリュー	M8	15 Nm
マニホールド用スクリュー	M8	15 Nm
リアスプロケットスクリュー用ナット	M8	35 Nm Loctite®2701™
リムロック用ナット	M8	12 Nm
ロアートリップルクランプ用スクリュー (XC-W 全標準モデル, EXC 全標準モデル)	M8	15 Nm

ロアートリップルクランプ用スクリュー(特別モデルシリーズ)	M8	15 Nm	
下サブフレーム用スクリュー	M8	30 Nm	Loctite®2701™
上サブフレーム用スクリュー	M8	35 Nm	Loctite®2701™
前方ブレーキキャリパー用スクリュー	M8	25 Nm	Loctite®243™
燃料ポンプの燃料コネクター	M8	15 Nm	
エンジン取付けスクリュー	M10	60 Nm	
シャーシ用その他のスクリュー	M10	45 Nm	
シャーシ用その他のナット	M10	45 Nm	
ハンドルアダプター用スクリュー	M10	40 Nm	Loctite®243™
ショックアブソーバー用下部スクリュー	M12	80 Nm	Loctite®2701™
ショックアブソーバー用上部スクリュー	M12	80 Nm	Loctite®2701™
燃料ポンプ用ナット	M12	15 Nm	
スイングアームピボット用ナット	M16x1.5	100 Nm	
ステアリングヘッド用上部スクリュー	M20x1.5	12 Nm	
後輪アクスルシャフト用ナット	M20x1.5	80 Nm	
前方アクスルシャフト用スクリュー	M20x1.5	35 Nm	
冷却システム用スクリューインアダプター	M24x1.5	18 Nm	Loctite®243™

## 2ストロークエンジンオイル

### 規格 / 分類

- JASO FD (  頁 175)

### 規定

- 有名メーカーの高品質 2ストロークエンジンオイルのみをご使用下さい。

100%化学合成

### 推奨製品

MOTOREX®

- Cross Power 2T

## エンジンオイル (15W/50)

### 規格 / 分類

- JASO T903 MA2 (  頁 175)
- SAE (  頁 175) (15W/50)

### 規定

- 指定された規格 ( タンク記載を参照 ) に適合し、これに応じた特性を有するエンジンオイルのみを使用して下さい。

### 推奨製品

MOTOREX®

- Top Speed 4T

## クーラント

### 規定

- アルミニウム製エンジン用腐食防止剤が混合され珪酸を含有しない高品質のクーラントのみを使用して下さい。低品質で不適切な不凍液は腐食、沈着、発泡の原因となります。
- 腐食防止や潤滑特性などはクーラントによってのみ可能なものですので、純水は使用しないで下さい。
- 指定された規格 ( タンク記載を参照 ) に適合し、これに応じた特性を有するクーラントのみを使用して下さい。

耐凍結効果有効期間

-25 °C

必要となる耐凍結効果得るために配合割合を調整しなければなりません。クーラントを薄める必要がある場合は蒸留水を使用して下さい。

事前調査されているクーラントの使用が推奨されています。

耐凍結効果、薄め方、他のクーラントとの混和性 ( 互換性 ) に関してはクーラントメーカーの指示に従って下さい。

### 推奨製品

MOTOREX®

- COOLANT M3.0

## ダンパーオイル (SAE 2.5) (50180751S1)

### 規格 / 分類

- SAE (  頁 175) (SAE 2.5)

### 規定

- 指定された規格 ( タンク記載を参照 ) に適合し、これに応じた特性を有するオイルのみを使用して下さい。

### ブレーキフルード DOT 4 / DOT 5.1

#### 規格 / 分類

- DOT

#### 規定

- 指定された規格(タンク記載を参照)に適合し、これに応じた特性を有するブレーキフルードのみを使用して下さい。

#### 推奨製品

Castrol

- REACT PERFORMANCE DOT 4

MOTOREX®

- Brake Fluid DOT 5.1

### フロントフォークオイル (SAE 4) (48601166S1)

#### 規格 / 分類

- SAE ( 頁 175 ) (SAE 4)

#### 規定

- 指定された規格(タンク記載を参照)を満たし、使用環境に応じた品質のオイルのみを使用して下さい。

### 無鉛ハイオクガソリン (ROZ 95)

#### 規格 / 分類

- DIN EN 228 (ROZ 95)

#### 規定

- 指定内容に該当するまたは同等の無鉛プレミアムガソリンのみを使用して下さい。
- 最大 10% のエタノールを含む混合ガソリン (E10) を使用しても問題ありません。



#### 参考

メタノール燃料 (M15、M85、M100 など) および 10% 以上のエタノールを混合した燃料 (E15、E25、E85、E100 など) は使用しないで下さい。

## エアフィルター洗浄剤

推奨製品

MOTOREX®

- Racing Bio Dirt Remover

## オフロード用チェーンスプレー

推奨製品

MOTOREX®

- Chainlube Offroad

## シリコンスプレー

推奨製品

MOTOREX®

- Silicone Spray

## チェーン洗浄剤

推奨製品

MOTOREX®

- Chain Clean

## モーターサイクル用洗浄剤

推奨製品

MOTOREX®

- Moto Clean

## ラッカー塗装(光沢、非光沢)、金属、プラスチック専用洗浄剤

推奨製品

MOTOREX®

- Quick Cleaner

## ラッカー塗装、金属、ゴム用手入れ剤

推奨製品

MOTOREX®

- Moto Protect

## 高粘度グリース

推奨製品

SKF®

- LGHB 2

## 耐久性グリース

推奨製品

MOTOREX®

- Bike Grease 2000

### 燃料添加剤

推奨製品

MOTOREX®

- Fuel Stabilizer

### 発泡材工アフィルター用オイル

推奨製品

MOTOREX®

- Racing Bio Liquid Power

### 汎用オイルスプレー

推奨製品

MOTOREX®

- Joker 440 Synthetic

### JASO FD

JASO FD は、レースでの厳しい条件を満たすよう特別開発された 2ストロークエンジンオイル用の規格です。化学合成された最高級エステルと特別配合の添加剤により、厳しい条件下でも優れた燃焼性を示します。

### JASO T903 MA2

多岐にわたる技術開発を受け、モーターサイクル専用の規格、JASO T903 MA2が生まれました。以前はモーターサイクル専用の仕様がなく、モーターサイクルには乗用車用のエンジンオイルが使われていました。乗用車ではエンジンのサービス頻度を下げる事が重要である一方、モーターサイクルエンジンでは何よりも高回転数で高い出力を引き出す事が要求されます。モーターサイクルでは、ギアやクラッチにエンジンと同じオイルが使用される事が珍しくありません。JASO T903 MA2規格はこれら特殊な事象を考慮に入れた内容となっています。

### SAE

SAE 粘度は米国の自動車技術者協会 (Society of Automotive Engineers)によって定められたもので、オイルをその粘度によってクラス分けするものです。粘度はオイルの一特性に過ぎず、その品質を表すものではありません。

## 27 用語索引

OBD( オンボード・ダイアグノーシス)	オンボード診断	車両の電気系統の数値を監視する車両システム
TPI	トランスマルチポートインジェクション	シリンダーポート上の 2 つのインジェクションバルブを介した電子フューエルインジェクション

## 28.1 赤のマーク

赤のマークは直ちに対処すべきエラー状態を示します。

	オイルレベル警告ランプが赤く点灯 – オイルレベルがMINのマーキングに達成しました。タンクに残っている燃料が空になるまで走ることができますが、できるだけ早く2ストロークオイルを充填して下さい。
---	---

## 28.2 黄色とオレンジ色のマーク

黄色とオレンジ色のマークはできるだけ早く対処すべきエラー状態を示します。運転支援システムが作動している場合も同様に黄色またはオレンジ色のマークが表示されます。

	不具合インジケーターランプが黄色に点灯 / 点滅 – OBD( オンボード・ダイアグノース)が車両の電気系統で不具合を検出しました。交通規制に従った方法で速やかに停車し、KTM 正規ディーラーに連絡して下さい。
	燃料レベル警告ランプが黄色に点灯 – 燃料レベルがリザーブマークに達しています。

## 28.3 緑と青のマーク

緑と青のマークは情報を表示しています。

	ハイビームインジケーターランプが青く点灯 – ハイビームが点灯しています。
	ターンシグナルインジケーターランプが緑に点滅 – ターンシグナルが作動しています。

<b>1</b>	
<b>12V バッテリー</b>	
始動出力 .....	40
充電する .....	121
取り付ける .....	120
取り外す .....	118
<b>2</b>	
<b>2ストロークオイルタンクのフィラーキャップ</b>	
閉じる .....	21
外す .....	20
<b>2ストロークオイルのレベル</b>	
点検する .....	144
<b>○</b>	
<b>OFFスイッチ</b>	16-17
<b>あ</b>	
<b>アイドリング回転数</b>	
調節する .....	139
<b>アイドリング調整スクリュー</b>	22
<b>アクセルワイヤーの遊び</b>	
調節する .....	137
点検する .....	137
<b>アクセルワイヤーの取り回し</b>	
点検する .....	94
<b>い</b>	
<b>インジケーターランプの表示</b>	19
<b>う</b>	
<b>運転操作の前に</b>	
運転操作の前に必ず行う点検・メンテナンス作業 .....	45
初めて運転操作を行う際の注意 .....	38
保管後 .....	155
<b>え</b>	
<b>エアフィルター</b>	
清掃する .....	82
取り付ける .....	82
取り外す .....	81
<b>エアフィルターケース</b>	
清掃する .....	82
<b>エアフィルターケースカバー</b>	
取り付ける .....	81
取り外す .....	80
にヒューズ孔を加工 .....	83
<b>エマージェンシーOFFスイッチ</b>	18
<b>エンジン</b>	
慣らし運転をする .....	39
<b>エンジンガード</b>	
取り付ける .....	98
取り外す .....	98
<b>エンジン始動</b>	45
<b>エンジンナンバー</b>	14
<b>お</b>	
<b>オイルポンプ</b>	
の誘発 .....	145
<b>オーナーズマニュアル</b>	10
<b>か</b>	
<b>外気圧</b>	
プログラミングする .....	140
<b>各部の名称</b>	
左前方 .....	12
右後方 .....	13
<b>過酷な使用環境</b>	40
乾燥した砂地 .....	40
高温 .....	43
雪上 .....	44
低温時の走行 .....	44
低速走行 .....	43
泥道 .....	43
濡れた砂地 .....	42
濡れた道路 .....	43
<b>カスタマーサービス</b>	11
<b>環境</b>	9
<b>き</b>	
<b>キーナンバー</b>	14
<b>技術アクセサリー</b>	11
<b>給油する</b>	
2ストロークオイル .....	50
燃料 .....	49
<b>く</b>	
<b>クーラント</b>	
交換する .....	135
注入する .....	133
排出する .....	132
<b>クーラントのレベル</b>	
点検する .....	131-132
<b>クラッチ</b>	
フルードのレベルを点検・調節する .....	95
フルードを交換する .....	96
<b>クラッチレバー</b>	16
基本位置を調整する .....	95
<b>グリップゴム</b>	
点検する .....	95
<b>グリップベルト</b>	21

<b>け</b>	
ケミカル類	11
<b>こ</b>	
交換部品	11
後輪	
取り付ける	114
取り外す	113
誤使用	7
コンビネーションインストルメント	
各部の名称	25
キロメートルかマイルを選択する	25
コンビネーションインストルメントの電池を交換する	129
時刻を設定する	26
調節する	26
コンプレッションダンパー	
(フロントフォーク)調節する	60
コンプレッションダンパー高速	
(ショックアブソーバー)調節する	55
コンプレッションダンパー低速	
(ショックアブソーバー)調節する	54
<b>さ</b>	
サービス	11
サービスプラン	51-53
サイドスタンド	23
作業上の決まり	9
<b>し</b>	
シート	
取り外す	79
を取り付ける	80
シフトレバー	22
基本位置を調整する	142
基本位置を点検する	142
シャーシの基本設定	
運転者の体重に応じて確認する	54
写真	11
車両	
清掃する	152
リフトスタンドから降ろす	65
リフトスタンドでジャッキアップする	65
車両識別番号	14
仕様一覧	
エンジン	161
締付けトルク、シャーシ	168
締付けトルク、エンジン	162
シャーシ	165
ショックアブソーバー	167
タイヤ	166
電装系	166
フロントフォーク	166
容量	164
使用環境	7
使用時の安全性	8
使用目的	7
ショックアブソーバー	
空車サグを点検する	57
コンプレッションダンパー、全般	54
スプリングプリロードを調節する	58
製品番号	15
取り付ける	79
取り外す	79
ライディングサグを点検する	57
診断プラグ	130
<b>す</b>	
スイングアーム	
点検する	94
スタートキー	18
ステアリングヘッドペアリング	
潤滑剤を塗布する	77
ステアリングヘッドペアリングの遊び	
調節する	76
点検する	76
スポーツの張り	
点検する	116
スロットルからの吸気特性	
調節する	138
スロットルグリップ	16
<b>せ</b>	
清掃、手入れ	152-153
前輪	
取り付ける	112
取り外す	111
<b>た</b>	
ターンシグナルスイッチ	18
ターンシグナルのバルブ	
交換する	128
タイプラベル	14
タイヤ空気圧	
点検する	116
タイヤの状態	
点検する	115
<b>ち</b>	
チェーン	
清掃する	89
点検する	91

チェーンガイド	
点検する	91
チーンの遊び	
設定する	90
点検する	89
チョークノブ	21
て	
低温でのリチウムイオンバッテリーの始動出力	40
点火特性	
コネクター	141
変更する	141
点火特性スイッチ	18
点滅コード	159-160
と	
冬季運転	
点検・メンテナンス作業	153
トラブルシューティング	156-158
ね	
燃料フィルター	
交換する	143
は	
ハンドル操作	
ロックする	24
ロックを解除する	24
ハンドルバーの位置	62
調節する	62
ひ	
ヒューズ	
各電装系部品を交換する	124
メインヒューズを交換する	123
ふ	
フィラーキャップ	
閉める	20
外す	19
フォークカバー	
取り付ける	67
取り外す	66
フォークリゲグ	
エア抜きをする	65
スプリングプリロードを調節する	61
ダストシールを清掃する	66
取り付ける	68
取り外す	67
不凍液	
点検する	131
フューエルタンク	
取り付ける	87
取り外す	85
ブレーキディスク	
点検する	100
ブレーキパッド	
(後輪ブレーキ)交換する	108
(後輪ブレーキ)点検する	108
(前輪ブレーキ)交換する	103
(前輪ブレーキ)点検する	102
ブレーキフルード	
(後輪ブレーキ)補給する	107
(前輪ブレーキ)補給する	101
ブレーキフルードのレベル	
(後輪ブレーキ)点検する	106
(前輪ブレーキ)点検する	101
ブレーキペダル	
遊びを点検する	105
基本位置を調整する	105
ブレーキレバー	
遊びを調節する	99
遊びを点検する	99
基本位置を調整する	100
フレーム	
点検する	94
フロントスプロケット	
点検する	91
フロントフェンダー	
取り付ける	78
取り外す	78
フロントフォーク	
基本設定を確認する	59
製品番号	15
へ	
ヘッドライト	
照明距離を調節する	129
ヘッドライトの設定	
点検する	128
ヘッドライトバルブ	
交換する	127
ヘッドライトマスクとヘッドライト	
取り付ける	126
取り外す	126
ほ	
法定保証	11
ホーンスイッチ	17
保管	154
保護服	9

**み****ミッションオイル**

- 交換する ..... 150
- 補給する ..... 151

**ミッションオイルのレベル**

- 点検する ..... 149

**め****メインサイレンサー**

- グラスファイバーを交換する ..... 84
- 取り付ける ..... 84
- 取り外す ..... 83

**メインヒューズ**

- 交換する ..... 123

**メーカー保証**

**ゆ**

**油脂類**

- 輸送 ..... 49

**よ****容量**

- クーラント ..... 134, 164
- 燃料 ..... 50, 164
- ミッションオイル ..... 150, 164

**ら****ライディングサグ**

- 調節する ..... 59

**ライトスイッチ**

**り**

**リアスプロケット**

- 点検する ..... 91

**リバウンドダンパー**

- (ショックアブソーバー)調節する ..... 56
- (フロントフォーク)調節する ..... 60

**れ****冷却システム**

**ろ**

**ロアートリプルクランプ**

- 取り付ける ..... 71, 73
- 取り外す ..... 69-70



3214421ja

2021 年 5 月

